

沖縄県南城市文化財調査報告書第20集

市内遺跡発掘調査報告書Ⅳ

－屋比久グスク－

2019年 3月

沖縄県南城市教育委員会

沖縄県南城市文化財調査報告書第20集

市内遺跡発掘調査報告書Ⅳ

－屋比久グスク－

2019年 3月

沖縄県南城市教育委員会

序 文

本調査報告書は、平成 27 年度に実施した個人住宅建設に係る屋比久グスク緊急発掘調査で得られた成果をまとめたものです。

本遺跡は、南城市内で確認された 36 箇所グスクの内、佐敷地域にある 2 つのグスクの 1 つであります。これまでに、土帝君周辺で沖縄県教育委員会と佐敷町教育委員会による試掘調査が行われ、遺物の出土を確認しております。今回、地権者のご協力をいただき、発掘調査を実施したところ、グスク時代や近世～近現代の遺物・遺構を確認することができました。また、グスク時代に切岸や耕作地を設けていた可能性も考えられることから、グスク時代の人々の営みの一端が表れているものと期待しております。

開発前の文化財有無照会件数は、年々増加傾向にあり、住宅等の建築によって消失する可能性のある遺跡の保護や活用が課題となっております。本調査の成果が、南城市に所在する多くのグスクの調査研究に寄与するとともに、地域の歴史を紐解く一助として多くの方々にご活用いただければ幸いです。

結びになりましたが、発掘調査にあたりご指導、ご協力を賜りました関係各位に心から御礼を申し上げます。

平成 31 年 3 月
沖縄県南城市教育委員会
教育長 上原 廣子

例 言

1. 本報告書は、平成 27 年度に実施した発掘調査の成果を収録している。
2. 発掘調査は、文化庁及び沖縄県より補助金を受けて実施した。
3. 実測遺物及び写真図版の番号は共通している。
4. 遺物実測図の展開は、3 面を実測している場合、左側から外面－断面－内面、2 面を実測している場合 外面－断面の順で行っている。
5. 遺物の縮尺は 1/3 又は 1/6、遺構図面の縮尺は 1/30 又は 1/60 としている。また、写真図版の縮尺についても原則 1/3 としている。
6. 骨類の同定にあたっては、新美倫子氏(名古屋大学博物館)のご教示をいただいた。記して謝意を表する。
7. 出土遺物の分類及び整理は山里昌次が行った。また、本書の編集は、新美倫子氏、勢理客智也、西平剛、山里昌次の協力を得て津波陽子が行った。執筆は、第 3 章のみ新美倫子氏から玉稿を賜り、それ以外は津波が担当した。
8. 本書に掲載した写真は、発掘調査状況を勢理客智也が、遺物を山里昌次・津波陽子が主に撮影した。
9. 発掘調査で得られた遺物、実測図及び写真の記録は、すべて南城市教育委員会で保管している。

目 次

序 文 例 言

第1章 発掘調査の前に

第1節 遺跡の位置と環境

1. 南城市の位置と環境 1
2. 屋比久グスク周辺の位置と環境 5

第2節 発掘調査の経過

1. 調査に至る経緯 7
2. 調査体制 8
3. 調査の経過 9
4. 資料整理 11

第2章 発掘調査の成果

第1節 試掘調査

1. 層序 18
2. 遺物 18

第2節 本調査

1. グリッド設定 20
2. 基本層序 21
3. グスク時代 25
4. 近世～近代 51

第3節 1984（昭和59）年度試掘調査

1. 遺物 82

第3章 2015年度調査出土の動物遺体 90

第4章 まとめ 97

引用・参考文献 99

遺物点数表 101

図版 115

報告書抄録 156

挿 図 目 次

- 第 1 図 南城市位置図
第 2 図 南城市地形図
第 3 図 屋比久グスク及び周辺遺跡図
第 4 図 屋比久グスク周辺測量図
第 5 図 試掘トレンチ設定状況図
第 6 図 試掘調査遺物実測図
第 7 図 発掘グリッド設定図
第 8 図 層序図
第 9 図 グスク時代の遺構検出平面図（赤線）
第 10 図 土壇断面図（SK 1）
第 11 図 遺構断面図（P 34～37）
第 12 図 遺物実測図（7 層）
第 13 図 遺物実測図（8 層）①
第 14 図 遺物実測図（8 層）②
第 15 図 遺物実測図（8 層）③
第 16 図 遺物実測図（8 層）④
第 17 図 遺物実測図（8 層）⑤
第 18 図 遺物実測図（9 層）①
第 19 図 遺物実測図（9 層）②
第 20 図 遺物実測図（9 層）③
第 21 図 遺物実測図（9 層）④
第 22 図 遺物実測図（10 層）①
第 23 図 遺物実測図（10 層）②
第 24 図 遺物実測図（11 層）
第 25 図 遺物実測図（12 層・地山直上層）
第 26 図 近世～近現代の遺構検出平面図（青線）
第 27 図 埋甕遺構 1 断面図
第 28 図 遺物実測図（埋甕 1）①
第 29 図 遺物実測図（埋甕 1）②
第 30 図 遺物実測図（埋甕 1）③
第 31 図 遺物実測図（埋甕 2）
第 32 図 石組遺構断面図
第 33 図 遺物実測図（石組遺構）
第 34 図 遺構断面図（P 3～5）
第 35 図 遺構断面図（P 7～9）
第 36 図 遺物実測図（小穴）
第 37 図 遺物実測図（2 層）①
第 38 図 遺物実測図（2 層）②
第 39 図 遺物実測図（2 層）③
第 40 図 遺物実測図（2 層）④
第 41 図 遺物実測図（2 層）⑤
第 42 図 遺物実測図（2 層）⑥
第 43 図 遺物実測図（3・4 層）
第 44 図 遺物実測図（5・6 層）
第 45 図 遺物実測図（その他）
第 46 図 1984（昭和 59）年度
試掘グリッド設定図
第 47 図 1984（昭和 59）年度
試掘調査遺物実測図①
第 48 図 1984（昭和 59）年度
試掘調査遺物実測図②
第 49 図 1984（昭和 59）年度
試掘調査遺物実測図③

挿 表 目 次

- | | |
|----------------------|----------------------------------|
| 第1表 試掘調査実測遺物観察表 | 第25表 遺物観察表(2層)④ |
| 第2表 遺構観察表(グスク時代) | 第26表 遺物観察表(3・4層) |
| 第3表 遺物観察表(7層) | 第27表 遺物観察表(5・6層) |
| 第4表 遺物観察表(8層)① | 第28表 遺物観察表(その他) |
| 第5表 遺物観察表(8層)② | 第29表 1984年(昭和59)年度
試掘調査遺物観察表① |
| 第6表 遺物観察表(8層)③ | 第30表 1984年(昭和59)年度
試掘調査遺物観察表② |
| 第7表 遺物観察表(8層)④ | 第31表 1984年(昭和59)年度
試掘調査遺物観察表③ |
| 第8表 遺物観察表(8層)⑤ | 第32表 1984年(昭和59)年度
試掘調査遺物観察表④ |
| 第9表 遺物観察表(9層)① | 第33表 出土動物種名 |
| 第10表 遺物観察表(9層)② | 第34表 魚類出土内容 |
| 第11表 遺物観察表(9層)③ | 第35表 インシ類出土内容 |
| 第12表 遺物観察表(10層)① | 第36表 ウシ類出土内容 |
| 第13表 遺物観察表(10層)② | 第37表 ウマ出土内容 |
| 第14表 遺物観察表(11層) | 第38表 ウシ or ウマ出土内容 |
| 第15表 遺物観察表(12・地山直上層) | 第39表 イヌ出土内容 |
| 第16表 遺物観察表(埋甕1)① | 第40表 ヤギ出土内容 |
| 第17表 遺物観察表(埋甕1)② | 第41表 ヒト出土内容 |
| 第18表 遺物観察表(埋甕2) | 第42表 種不明陸獣出土内容 |
| 第19表 遺物観察表(石組遺構) | |
| 第20表 遺構観察表(近世～近現代) | |
| 第21表 遺物観察表(小穴) | |
| 第22表 遺物観察表(2層)① | |
| 第23表 遺物観察表(2層)② | |
| 第24表 遺物観察表(2層)③ | |

挿 図 版 目 次

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 図版 1. 着手前現況(南西側より) | 図版 7. C1グリッド8層遺物出土状況
(南西側より) |
| 図版 2. 着手前現況(北西側より) | 図版 8. A2グリッドSK1完掘状況(北側より) |
| 図版 3. サブレンヂ設定状況(南西側より) | 図版 9. C2グリッドP32・P33完掘状況(南側より) |
| 図版 4. サブレンヂ掘下げ後状況(北西側より) | 図版 10. C2グリッドP34完掘状況(西側より) |
| 図版 5. B1グリッド5層検出状況(一部攪乱)
(北西側より) | 図版 11. C2グリッドP21(左)・B2グリッド
P35(右)完掘状況(北西側より) |
| 図版 6. C1グリッド5層検出状況(南西側より) | |

- 図版 12. B2 グリッド P36 (左)・P37 (右) 完掘状況 (東側より)
- 図版 13. B1 グリッド埋費遺構 1 検出状況 (南東側より)
- 図版 14. B1 グリッド埋費遺構 1 甕取り上げ後状況 (北東側より)
- 図版 15. B1 グリッド埋費遺構 1 断面状況 (北側より)
- 図版 16. B1 グリッド埋費遺構 2 検出状況 (東側より)
- 図版 17. B1 グリッド埋費遺構 2 半裁状況 (東側より)
- 図版 18. B1・C1 グリッド石組遺構、C1 グリッド P1 検出状況 (北側より)
- 図版 19. B1・C1 グリッド石組外し後状況 (南側より)
- 図版 20. B1・C1 グリッド石組遺構、C1 グリッド P1 完掘状況 (南西側より)
- 図版 21. B2 グリッド溝状落ち込みセクション (北側より)
- 図版 22. C1 グリッド P3 完掘状況 (北側より)
- 図版 23. C1 グリッド P4 完掘状況 (西側より)
- 図版 24. C1 グリッド P5 完掘状況 (西側より)
- 図版 25. B2 グリッド P7 完掘状況 (北西側より)
- 図版 26. B2 グリッド P8 完掘状況 (北東側より)
- 図版 27. B2 グリッド P9 完掘状況 (北東側より)
- 図版 28. B2 グリッド P27 完掘状況 (南側より)
- 図版 29. B1・C1 グリッド 10 層検出状況 (北側より)
- 図版 30. 冠水及び水抜き状況①
- 図版 31. 冠水及び水抜き状況②
- 図版 32. 西壁セクション① (東側より)
- 図版 33. 西壁セクション② (東側より)
- 図版 34. 西壁セクション③ (北東側より)
- 図版 35. 北壁セクション① (南側より)
- 図版 36. 北壁セクション② (南側より)
- 図版 37. 北壁セクション③ (南壁より)
- 図版 38. B1・C1 間畦セクション① (南側より)
- 図版 39. B1・C1 間畦セクション② (南側より)
- 図版 40. B1・C1 間畦セクション③ (南側より)
- 図版 41. 完掘状況① (北側より)
- 図版 42. 完掘状況② (北東側より)
- 図版 43. H26 試掘調査 出土遺物 表
- 図版 44. H26 試掘調査 出土遺物 裏
- 図版 45. 出土遺物 (7 層) 表
- 図版 46. 出土遺物 (7 層) 裏
- 図版 47. 出土遺物 (8 層) ① 表
- 図版 48. 出土遺物 (8 層) ① 裏
- 図版 49. 出土遺物 (8 層) ② 表
- 図版 50. 出土遺物 (8 層) ② 裏
- 図版 51. 出土遺物 (8 層) ③ 表
- 図版 52. 出土遺物 (8 層) ③ 裏
- 図版 53. 出土遺物 (8 層) ④ 表
- 図版 54. 出土遺物 (8 層) ④ 裏
- 図版 55. 出土遺物 (8 層) ⑤ 表
- 図版 56. 出土遺物 (8 層) ⑤ 裏
- 図版 57. 出土遺物 (8 層) ⑥ 表
- 図版 58. 出土遺物 (8 層) ⑥ 裏
- 図版 59. 出土遺物 (8 層) ⑦ 表
- 図版 60. 出土遺物 (8 層) ⑦ 裏
- 図版 61. 出土遺物 (8 層) ⑧ 表
- 図版 62. 出土遺物 (8 層) ⑧ 裏
- 図版 63. 出土遺物 (9 層) ① 表
- 図版 64. 出土遺物 (9 層) ① 裏
- 図版 65. 出土遺物 (9 層) ② 表
- 図版 66. 出土遺物 (9 層) ② 裏
- 図版 67. 出土遺物 (9 層) ③ 表
- 図版 68. 出土遺物 (9 層) ③ 裏
- 図版 69. 出土遺物 (9 層) ④ 表
- 図版 70. 出土遺物 (9 層) ④ 裏
- 図版 71. 出土遺物 (9 層) ⑤ 表
- 図版 72. 出土遺物 (9 層) ⑤ 裏
- 図版 73. 出土遺物 (9 層) ⑥ 表
- 図版 74. 出土遺物 (9 層) ⑥ 裏
- 図版 75. 出土遺物 (10 層) ① 表
- 図版 76. 出土遺物 (10 層) ① 裏
- 図版 77. 出土遺物 (10 層) ② 表

図版 78. 出土遺物 (10層) ② 裏
図版 79. 出土遺物 (11・12・地山直上層) 表
図版 80. 出土遺物 (11・12・地山直上層) 裏
図版 81. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ① 表
図版 82. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ① 裏
図版 83. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ② 表
図版 84. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ② 裏
図版 85. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ③ 表
図版 86. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ④ 表
図版 87. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ④ 裏
図版 88. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ⑤ 表
図版 89. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ⑤ 裏
図版 90. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ⑥ 表
図版 91. 出土遺物 (埋甕遺構 1) ⑥ 裏
図版 92. 出土遺物 (埋甕遺構 2) 表
図版 93. 出土遺物 (埋甕遺構 2) 裏
図版 94. 出土遺物 (石組遺構) ① 表
図版 95. 出土遺物 (石組遺構) ① 裏
図版 96. 出土遺物 (石組遺構) ② 表
図版 97. 出土遺物 (石組遺構) ② 裏
図版 98. 出土遺物 (小穴) ① 表
図版 99. 出土遺物 (小穴) ① 裏
図版 100. 出土遺物 (小穴) ② 表
図版 101. 出土遺物 (小穴) ② 裏
図版 102. 出土遺物 (2層) ① 表
図版 103. 出土遺物 (2層) ① 裏
図版 104. 出土遺物 (2層) ② 表
図版 105. 出土遺物 (2層) ② 裏
図版 106. 出土遺物 (2層) ③ 表
図版 107. 出土遺物 (2層) ③ 裏
図版 108. 出土遺物 (2層) ④ 表
図版 109. 出土遺物 (2層) ④ 裏
図版 110. 出土遺物 (2層) ⑤ 表
図版 111. 出土遺物 (2層) ⑤ 裏
図版 112. 出土遺物 (2層) ⑤ 底面
図版 113. 出土遺物 (2層) ⑤ 通風調節口
図版 114. 出土遺物 (2層) ⑥ 表
図版 115. 出土遺物 (2層) ⑥ 裏

図版 116. 出土遺物 (2層) ⑦ 表
図版 117. 出土遺物 (2層) ⑦ 裏
図版 118. 出土遺物 (2層) ⑧ 表
図版 119. 出土遺物 (2層) ⑧ 裏
図版 120. 出土遺物 (2層) ⑨ 表
図版 121. 出土遺物 (2層) ⑩ 表
図版 122. 出土遺物 (2層) ⑩ 裏
図版 123. 出土遺物 (2層) ⑪ 表
図版 124. 出土遺物 (2層) ⑪ 裏
図版 125. 出土遺物 (2層) ⑫ 表
図版 126. 出土遺物 (2層) ⑫ 裏
図版 127. 出土遺物 (3・4層) 表
図版 128. 出土遺物 (3・4層) 裏
図版 129. 出土遺物 (5・6層) ① 表
図版 130. 出土遺物 (5・6層) ① 裏
図版 131. 出土遺物 (5・6層) ② 表
図版 132. 出土遺物 (5・6層) ② 裏
図版 133. 出土遺物 (その他) ① 表
図版 134. 出土遺物 (その他) ① 裏
図版 135. 出土遺物 (その他) ② 表
図版 136. 出土遺物 (その他) ② 裏
図版 137. S59 試掘調査 出土遺物① 表
図版 138. S59 試掘調査 出土遺物① 裏
図版 139. S59 試掘調査 出土遺物② 表
図版 140. S59 試掘調査 出土遺物② 裏
図版 141. S59 試掘調査 出土遺物③ 表
図版 142. S59 試掘調査 出土遺物③ 裏
図版 143. S59 試掘調査 出土遺物④ 表
図版 144. S59 試掘調査 出土遺物④ 裏
図版 145. S59 試掘調査 出土遺物⑤ 表
図版 146. S59 試掘調査 出土遺物⑤ 裏
図版 147. S59 試掘調査 出土遺物⑥ 表
図版 148. S59 試掘調査 出土遺物⑥ 裏
図版 149. 動物遺体 1
図版 150. 動物遺体 2

第1章 発掘調査の前に

第1節 遺跡の位置と環境

1. 南城市の位置と環境（第1・2図）

(1) 地理的環境

本市は沖縄島南部東側、県庁所在地である那覇市から南東に約12kmに位置しており、東西18km、南北8kmに広がり、面積49.94㎢を測る。市の北西側に与那原町・南風原町、南西側に八重瀬町が接しており、北東側から南側にかけては中城湾及び太平洋に面している。市内には都市部と各地域間とを結ぶ主要道路として、海岸線に沿って走る国道331号を始め、県道77号線、48号線、86号線などで構成されている。

地形は、東部及び南部の海岸部の後方から西部地域にかけて、なだらかな傾斜地と比較的急峻な断崖部がみられ、海岸線に沿うように豊かな緑に覆われた琉球石灰岩の丘陵地がひろがっている。北部の丘陵地から西部にかけては漸次傾斜していき、60～100m前後の小丘状の地形が断続的に所在する平野部となっている。

地質は、第三紀島尻層群のシルト質泥岩、砂岩、凝灰岩、第四紀琉球層群の砂質石灰岩、石灰岩、第四紀の沖積層、海浜堆積層からなる。石灰岩丘陵には琉球層群、海岸に面した地に沖積層、琉球層群を取り巻くように第三紀島尻層群が分布する。土壌は、石灰岩丘陵上にその風化土である赤褐色の島尻マージ、石灰岩台地以外には島尻層群が広く分布している。

石灰岩丘陵からの湧水は豊富であり、国指定有形文化財(建造物)の仲村渠樋川や名水百選に選ばれた垣花樋川、稲作発祥の伝承が残る知念大川など数多くの井泉が点在する。河川は、主要な河川である鏡波川、報得川、宮平川、雄樋川、長堂川等が市内を源流とし、南西側へと流れている。

海洋は、太平洋の面した外洋部に発達したサンゴ礁やイノーが南側から北側の富祖崎付近まで続いており、中城湾に面した佐敷海岸では干潟と砂嘴が展開している。

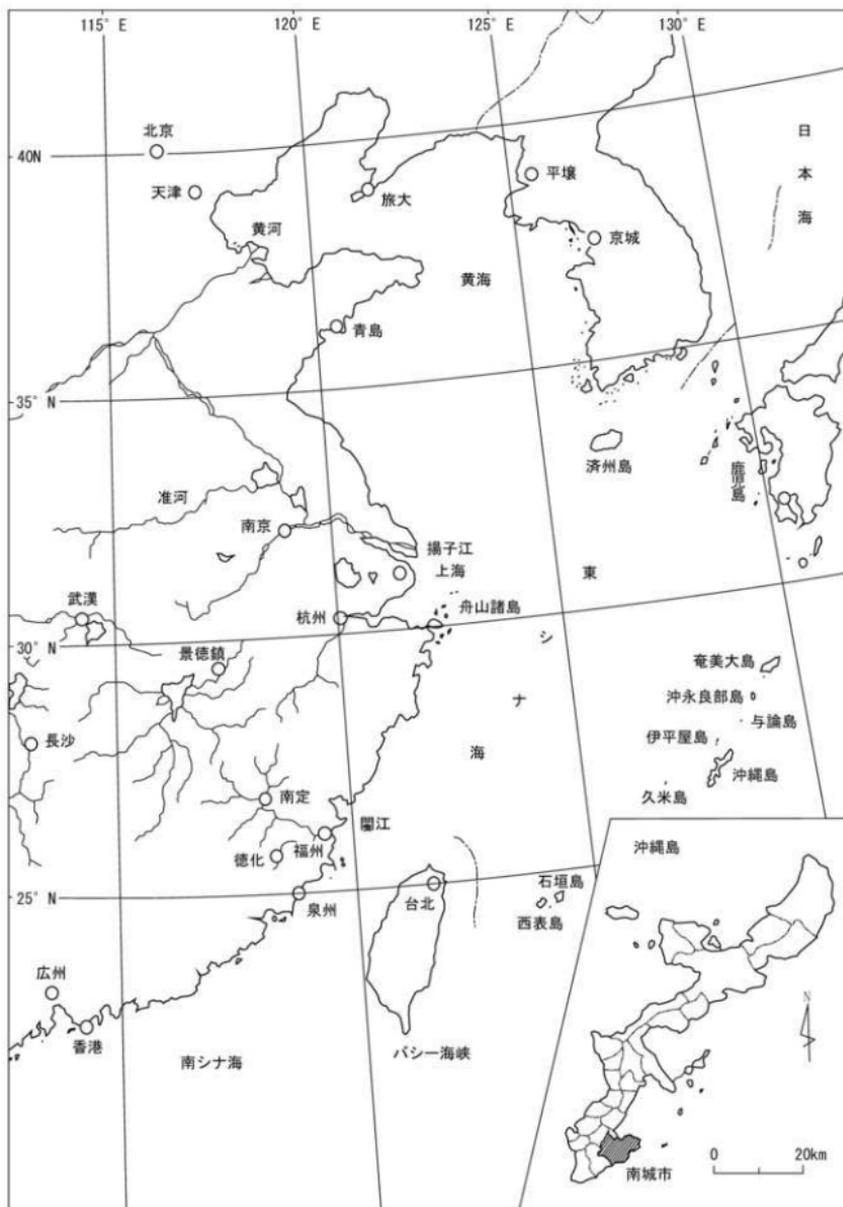
気候は亜熱帯性で、年平均気温は22.4℃と四季を通じて温暖である。雨量は春から夏にかけて多く、梅雨明けとともに、暑い夏が続く。年間降水量は1,800～2,500mm程である。

(2) 歴史的環境

本市は、近世期に琉球王府により東方(東四間切)として一つの行政区とされていた。また、琉球王府が国家安泰と五穀豊穰を祈願するため行われた「東御廻り」に関する多くの拝所が残る場所として、古くから関わりの深い地域である。

「東御廻り」に代表されるように本市においては、琉球開關の神話が数多く残っている。神の島である久高島をはじめ、ヤハラツカサ・浜川御嶽・ミントングスクなどの拝所、稲作発祥の伝承を残す受水・走水や知念大川(井泉)が現存しており、現在も多くの人が本市を訪れている。

一方、本市の周知の遺跡総数は157ヵ所であり、先史時代(沖縄貝塚時代)の遺跡が45ヵ所、グスク時代の遺跡が79ヵ所、近世以降の遺跡が33ヵ所確認されている。



第1図 南城市位置図

旧石器時代は、サキタリ洞遺跡から近年の発掘調査において、約3万年前とされる人骨や世界最古の巻貝製釣針を含む貝器などが出土している。

縄文時代早・前期は、雄樋川沿いの堀川遺跡や宇和川原半洞穴遺跡、真手川原遺跡、武芸洞遺跡が挙げられる。グスク時代を主体とする真手川原遺跡だが、その下層から、縄文時代前期(沖縄貝塚時代早期)の条痕文土器をはじめ、縄文時代中期の仲泊式土器、古我知原式土器が出土している。また、武芸洞遺跡からは墓が確認されている。

続く縄文時代後期(沖縄貝塚時代前期)は、16カ所の遺跡が確認されている。石灰岩地帯を中心に百名第2貝塚、熱田原貝塚、久高貝塚などが各地に分布しており、久高島などの離島にまで人々が生活を始め、先史時代における交流が活発化する時期である。中でも熱田原貝塚は当時期を代表する遺跡であり、獣形貝製品など豊富な装飾品が出土している。

縄文時代晩期(沖縄貝塚時代中期)は6カ所の遺跡が確認されている。遺跡は石灰岩台地上に所在しており、下上原遺跡や中山小祿原遺跡が確認されている。

弥生時代から平安時代(沖縄貝塚時代後期)は29カ所の遺跡が確認されている。この時期の発掘調査報告書を調べた新田重清氏によれば、当時期の遺跡の1割近くが南城市で確認されているとのことである。

グスク時代の遺跡の内、島添大里城跡や玉城城跡など36カ所がグスクで、ほかの43カ所は集落遺跡や生産遺跡などである。また、各地の主要なグスクを中心に集落遺跡が近接して確認されることから、グスクと集落が一体的に発展したことが想定されている。

各地にグスクが割拠するグスク時代の本市は、佐敷小按司(尚巴志)の登場によって大きな展開を迎える。尚巴志は、島添大里城跡を倒し、それを足がかりに三山を統一し、琉球王府を立てた。

その後、第一尚氏王統第5代尚金福の死後、世子の志魯と王弟の布里による王位継承をめぐる争いが起こり、布里は首里を追われ玉城字当山村(現當山)に隠棲したと伝わる。また、第7代尚徳即位時には、兄弟らが首里から離れて同地周辺に移り住んだと伝わる。

本市域は、先述のとおり琉球王府時代を通して、王府が直轄する祭祀儀礼と密接に結びついており、国王が巡幸する「東御廻り」や琉球最高のノロである聞得大君の就任式である「御新下り」が行われた。現在では「東御廻り」が民間にまで広がっており、市内に点在する拝所へ多くの人のびとが訪れている。

近世期は、地方行政の区画として間切制度が用いられており、本市は大里・佐敷・知念・玉城の4つの間切に区分されており、明治の村制施行に伴って、大里村・佐敷村・知念村・玉城村となった。

太平洋戦争末期の沖縄戦時下には、旧日本軍によって陣地化が進み、眺望の良い島添大里城跡や糸数城跡には戦闘指揮所やトーチカなどが構築された。

戦後、避難収容所があった知念地区に知念市が誕生したが、避難民の帰村による人口減少のため、自然解消した。1946(昭和21)年10月には米国軍政府が玉城村に設置され、沖縄民政府も石川から佐敷村新里の高台に移転し、以後、約3年間、沖縄の政治と行政の中心地となった。1949(昭和24)年には与那原、上与那原、板良敷、大見武が大里村より分離し与那原町となり、1980(昭和55)年に佐敷村が町制に移行し佐敷町となった。そして、2006(平成18)年1月に4町村が合併し、南城市が誕生した。

2. 屋比久グスク周辺の位置と環境（第3図）

本市を東西に横断する標高 120～150 m の琉球石灰岩丘陵上には、北西端に島添大里城跡が位置し、そこから東に大城城跡、糸数城跡、玉城城跡、垣花城跡、佐敷城跡、知念城跡などが点在し、東端には、世界遺産「斎場御嶽」が所在する（第2図）。また、稲福遺跡、垣花遺跡などのグスク時代の遺跡も台地上や尾根筋、あるいは中腹に数多く形成されている。

屋比久グスクは佐敷地域の東側、屋比久集落内の標高約 11～24 m に位置する。佐敷地域に 2 つあるグスクの 1 つである。屋比久集落の北側から東側にかけては、丘陵が集落を取り巻くように連なり、知念地域との境界をなしている。この丘陵頂部から南へ延びる尾根がいくつかあり、そのひとつの先端部分に屋比久集落が広がっている。そのため、屋比久集落は丘陵に近い北側の標高が高く、南側へ低くなる地形を呈する。また、屋比久集落が位置する尾根は南側に伸びた先端部分が二股になっており、上空から眺めた形状は馬蹄形を呈する。この馬蹄形を呈する一帯に屋比久グスクは位置する。

地質は、海拔 50～100 m 以下の丘陵に島尻層群がひろがっている。下部には青灰色シルト質泥岩層、上部には表面は暗灰色を示す青灰色泥岩層が現れ、少なくともそれぞれ 4～9 枚の薄い凝灰岩層を挟む。

屋比久グスクの西側には児童公園があり、カンジャラ嶽、殿の屋（屋比久殿、ノロ殿内）、渡嘉敷殿、ヤマヌメ（平田門中の神屋）などが接しているほか、馬蹄形地形の中央窪地に新垣の神屋が位置する。また、集落の東側にはキヤ城の嶽（グシク殿）、土帝君を祀った拝所となっている。井泉として、キヤ城の嶽の側にあるマチガー、集落からみて東方の畑地にあるシードーガー、北方にあるフカー山の麓のフカーヤマヌメ、集落東端部にあるアナガーがある。古墳としては、集落の北東にある今婦仁墓、土帝君の南側にある昔墓が拝所となっている。この場所に関して、付近の住民からは、セジ高く、有力な人物の住居跡との話をうかがっている。また、南東側の道路では、敷設工事の際に多くの骨が出土したと言われており、戦の場であったとの伝承がある。

これまでの調査としては、『佐敷町の文化財—遺跡詳細分布調査報告書—』（2000（平成 12）年）によると、1984（昭和 59）年度に沖縄県教育委員会文化課によって試掘調査が実施されており、北東側の丘陵地にて、土帝君の前庭部の両サイド及び背後、北西側の数箇所にて試掘グリッドを設定しているが、遺物包含層や遺構面の確認は出来なかったと記されている。したがって、本書では出土遺物の報告のみを行うこととする。

また、1998・1999（平成 10・11）年度にかけて実施した町内遺跡詳細分布調査の際にも、試掘調査が実施されている。グシク殿の北側に 2 m×2 m のグリッドを 4 箇所設定し、東側のグリッドより 1～4 と番号を充てた後、グリッド 1・3 の試掘調査を行った。調査の結果、2 箇所とも 3 枚の堆積層が確認されたが、すべて現代遺物が混じる攪乱層であった。調査区周辺では近世以降、数度にわたる整地が行われ、グスクに関する遺構は残っていないことが明らかとなっている。



第3図 屋比久ガスク及び周辺遺跡図

第2節 発掘調査の経緯

1. 調査に至る経緯

2014(平成26)年12月24日、屋比久12番地において個人住宅建設前の埋蔵文化財有無の照会を受けた。この土地は、周知の遺跡である「屋比久グスクおよび周辺遺物散布地」の隣接地であることから、現地踏査を実施したところ、青磁やカムイヤキ等の遺物が散布していた。そこで、2015(平成27)年1月5日に試掘調査が必要な旨を回答したところ、同日に試掘依頼書の提出を受けたため、1月8日に試掘調査を行った。

試掘調査の結果、遺物包含層の広がりを確認したことから、当該地まで「周知の埋蔵文化財」である「屋比久グスクおよび周辺遺物散布地」が広がることを確認した。依頼者と協議を重ねたところ、開発は避けられない状況にあることから、記録保存のための緊急調査を実施することとなった。また、試掘調査を行った範囲は周知の文化財の範囲外であるため、範囲変更を行った後、埋蔵文化財の発掘調査を行うこととした。

7月8日に県文化財課から、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲等変更についての回答を得た。そのため、遺跡の範囲が約760㎡追加され、総面積が約16,060㎡となった。そして、7月17日に埋蔵文化財発掘届の提出がなされ、住宅建設工事により、遺跡の破壊が想定される293.42㎡を対象に記録保存を目的とする発掘調査を行った。発掘調査は、2015(平成27)年9月24日から2016(平成28)年3月17日まで実施した。資料整理は、2016(平成28)から2018(平成30)年度で実施した。

下記が一連の文書の流れである。

2014(平成26)年12月24日付

文化財(埋蔵含む)の所在の有無及びその取り扱いについて(照会)

2015(平成27)年1月5日付 南教文第639号

文化財(埋蔵含む)の所在の有無及びその取り扱いについて(回答)

1月5日 埋蔵文化財の試掘調査の依頼について

6月30日 南教文第252号

埋蔵文化財予備調査報告(埋蔵文化財包蔵地の範囲等変更)について

7月8日 教文第562号

周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲等変更について(回答)

7月17日

埋蔵文化財発掘の届出について

8月3日 教文第683号

周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(回答)

9月24日 南教文第465号

埋蔵文化財発掘調査について

埋蔵文化財発掘調査の終了について(報告)

また、遺跡から発見された遺物については、2016(平成28)年3月18日付けで、与那原警察署に埋蔵文化財発見届、県文化財課に保管証を提出している。遺物鑑査書は、5月11日付けで確認されている。

2. 調査体制

本報告書に係る発掘調査業務は、2015(平成27)年度から2018(平成30)年度まで実施した。調査体制は下記のとおりである。

事業主体	南城市教育委員会	教育長	山城 馨 (2015～2017年度)
			上原 廣子 (2018年度)
事業所管	文化課	課長	大城 秀子 (2015年度)
			親川 義一 (2016・2017年度)
			大城 盛直 (2018年度)
		係長	山里 昌次 (2015～2018年度)
			西平 剛 (2017・2018年度)
調査担当	主任主事		勢理客智也 (2015年度)
	主事		津波 陽子 (2016～2018年度)
調査補助	主査		西平 剛 (2015年度)
	主任主事		横山 幸平 (2015年度)

調査助言 池田榮史、金城亀信、當間嗣一、新美倫子(敬称略、五十音順)
文化庁・沖縄県文化財課・沖縄県立埋蔵文化財センター職員
南城市文化財保護審議会委員、屋比久区の方々

発掘作業員

2015年度 幸地美千子、新垣久美子、城間信芳、饒平名宏、大城香織、與那嶺勢津子、安村重保、大嶺愛子

資料整理作業員

2015年度 當山満子、糸数千里、小波津由加里、仲里梨絵、比嘉登美子
2016年度 糸数千里、小波津由加里、仲里梨絵、比嘉登美子、目島直美
2017年度 當山満子、糸数千里、小波津由加里、大村由美子、仲里梨絵、比嘉登美子
2018年度 白鳥和代、比嘉登美子、宮城友美、仲村朝美、新垣利津代

3. 調査の経過

2015(平成27)年度

2015(平成27)年9月24日から2016(平成28)年3月17日にかけて実施された。

9月24日、調査前の現況地形測量を開始(25日に終了)。30日、前日に設定した調査範囲にバックホーを入れて表土剥ぎを開始(10月1日に終了)。南西隅に近世の埋嚢遺構(後に埋嚢遺構1)を検出した。

10月2日、5m×5m四方のグリッド設定を行った(5日に終了)。5日、表土層掘削後の壁面と地表面の掃除を行った。8日、地表面の掘り下げ状況の撮影を行った。また、各グリッドの杭から四方に15cmを測り、30cm幅の観察畦を設定した。13日、B1～B3の北壁沿い及びA1、B1、C1の東壁沿いに幅1mのサブレンチを設定し、掘り下げを行った。B1サブレンチ西壁沿いに埋嚢遺構(後に埋嚢遺構2)を検出した。B1サブレンチは2層、東西軸B2サブレンチでは8層を検出した。14日、東西軸B2サブレンチは遺構・地山面まで掘り下げたと思われるため、西側を南北に1mずつ拡張した。南北軸B2サブレンチは6層まで検出した。15日、東西軸B1サブレンチは5層が全面に広がったところまで掘り下げ、東側で石列状の石組みが現れた。南北軸B1サブレンチでは2b層を掘り下げ、近現代磁器、赤瓦などが出土した。さらに掘り下げ、6層を検出した。C1サブレンチは6a層まで検出した。16日、A1サブレンチは地山面まで掘り下げる。南北軸B1サブレンチは6層検出した。東西軸B1サブレンチは5層を掘り下げる。C1サブレンチを掘り下げると、東西軸B1サブレンチ内の石囲状石列内と同様の覆土が楕円形状に現れるが、石列は見当たらない。19日、C1サブレンチで8層を検出した。同層からグスク土器が多く出土することから、グスク時代の層に相当すると思われる。東西軸B1サブレンチも8層を検出した。20日、C1サブレンチ西側で焼土や炭が入る10層まで検出した。21日、東西軸B1サブレンチは地山漸移層(11層)が広がったところで掘り下げを終了した。A1グリッド全体で面的な掘り下げを開始する。B1グリッドも同様に面的に掘り下げ、5層まで検出する。29日、B1グリッドでは7層を掘り下げ、7a層と7b層の堆積を確認したが、両層より沖縄産陶器等が出土していることから、時期的な差はないと思われる。C1グリッドでは3層を掘り下げる。30日、B1グリッド南側の埋嚢遺構1の半裁を行う。覆土からは沖縄産陶器、近現代磁器、ガラス製品やプラスチック製品等が出土している。

11月2日、B1グリッド南側の埋嚢遺構1の半裁を終了した。内側には漆喰が1cm程の厚さで塗られている。4日、A1グリッドではバケット痕の掘り下げ、C1グリッドでは5層を検出した。9日、C1グリッドではB1グリッドにまたがる石組遺構を全体的に確認するため、B1・C1間の観察畦を一部崩した。石組遺構は楕円形状を呈す。B1グリッドP2は完掘し、C1グリッドP3・6は半裁を行った(P3は芯心半裁)。10日、埋嚢遺構2の半裁を行う。11日、C1グリッドでは8層を検出した。B1グリッドでは埋嚢遺構2を完掘した。B1・C1間の石組遺構及びC1グリッドP1の検出状況の平面実測を行った。B1グリッドP2の完掘状況の平面実測を行った。19日、埋嚢遺構1の実測を終える。25日、B2グリッド西側の遺構は出土遺物に沖縄産陶器が多いことから近・現代の土壌である可能性が高いと考える。B1・C1間の石組遺構の半裁を行ったところ、少し掘り下げたところで石が詰められている状況が現れた。26日、B2グリッド東側の重機痕の掘り下げを終了する。石組遺構及びC1グリッドP1の半裁を行う。27日、石組遺構及びC1グリッドP1の半裁断面の実測を行う。

12月1日、B2グリッドは2b層の東側と北側で溝状遺構を検出した。4日、B1グリッド7層を掘り下げると、焼土ブロック、炭、グスク土器、青磁、白磁などが出土するが、小破片のみである。土と一緒に草木を焼いて肥料としたものを蒔いた可能性が考えられる。8日、C1グリッドは北東側で8層を検出した。9日、7層では7a層と7b層が交互に重なって堆積していることが判明した。16日、B1・C1間の石組遺構の実測が終了したため掘り下げを行った。C1・C2間の畦を崩すと、5層でP4・P5を検出した。B1グリッドでは埋甕遺構1を取り上げ、平面図及び断面図を実測、写真撮影を行った。17日、C1グリッドで8層を検出した。C1グリッドP3は完掘し、写真撮影と平面実測を行い、P4及びP5は検出状況の写真撮影後に半裁を行った。半裁後は写真撮影及び断面図を実測し、完掘した。P5は完掘後、平面実測を行った。18日、B1グリッドでは埋甕遺構1を半裁した。また、粘りのあるオリブ黒×オリブ褐色を掘り下げると8層を検出した。B1・C1間の畦は8層まで掘り下げを終えた。C1グリッドは全面的に8層を検出した。21日、B1・2、C1・2グリッドの8層を掘り下げる。時期は遺物からグスク時代とみて問題ないと思われる。B1グリッド埋甕遺構1は半裁を終了する。底部は地山漸移層と思われる面まで掘られている。9層からは主にグスク土器が出土する。25日、B1・C1グリッドの溝状に落ち込む箇所を掘り下げを行う。

1月5日、B3・C3グリッドの掘り下げを行う。バケット痕を検出し、土壌らしきものもあるが、赤瓦や近現代磁器、プラスチック製品が出土するため、近年までここに立てられていた赤瓦住宅を取り壊した際の廃棄場又は試掘場と思われる。7日、C1グリッドの7層の範囲を平面実測する。12日、掘り下げを行ったところ、B3グリッド南側の掘壊場は試掘場、B3・C3グリッドの掘壊場は、赤瓦住宅を壊した際の廃棄場と考えられる。14日、B1・C1グリッドの7層を完掘し、写真撮影後、実測と平行し、検出した8層を掘り下げる。19日、B1・C1グリッドの一部で9層を検出した。26日、B1・C1グリッドの9層を全面的に検出し写真撮影を行った。掘り下げを行うと、グスク土器の量が多く、白磁、青磁、カムイヤキが出土した。27日、B1グリッドは斜面と平場の一部で10層を検出した。また、斜面上に石が集中して現れた。P30は半裁後、写真撮影を行い完掘した。下端等の状況から樹根と判断した。28日、B1グリッドの石が集中した箇所は、集積遺構の可能性もあるため、写真を撮り、平面実測を行った。B1・C1グリッドの9層を全面的に検出し、写真を撮り、掘り下げを行い、10層を検出した。さらに、10層を全面的に検出し、写真を撮り、再度掘り下げを行った。B1グリッドは一部地山らしきものが現れた。

2月2日、B1・C1グリッドの10層の掘り下げを行う。遺物はグスク土器が圧倒的に出土している。B1グリッドでは遺構らしきものを数基検出した。3日、B1・C1グリッドの掘り下げを行い、遺構検出面で写真を撮り、遺構の形状が判然としないため再度掘り下げを行った。4日、B1・C1グリッドの遺構検出面と思われる12層を掘り下げたが、樹根の可能性もある。B2・C2グリッドは11層を掘り下げたところ、B1・C1グリッドに向けて急に落ち込んでいるようである。切岸もしくは自然地形かと考える。9日、B1・C1グリッドの12層の掘り下げを行う。B1グリッドは遺構らしきものが明瞭になりつつあるため半裁を行ったが、下端がでこぼこし、放射状に筋が伸びていることから樹根と思われる。C2グリッド北壁沿いのP32・33を掘り、P32は完掘した。P33は掘り下げると、北壁沿いと南側の2つに分かれたため、北壁沿いをP33-1、南側をP33-2とした。P33-1がP33-2を切っている。10日、P33も完掘した。B2グリッドP7は半裁後、写真を撮り、断面図を実測後、終了した。B2グリッドP8・9は半裁後、断面図を実測した。12日、遺構については、B2グリッドのP8・9を完掘した。P11は2b層の残土であることが判明した。P10は半裁後、残り半分

を掘り進めた。A2グリッドのSK1は半裁を開始した。また、B2グリッドのP7～9の平面図の実測を完了した。15日、A2グリッドはSK1の半裁を行い、断面図の実測を始めた。B2グリッドP10は完掘し、P35は半裁後、写真撮影、断面図を実測し、完掘した。C2グリッドP34も半裁後、写真撮影、断面図を実測し、完掘した。P21は半裁後、完掘した。P21は遺構の可能性が低いと考える。16日、A2グリッドSK1は半裁後、写真撮影、断面図を実測し完掘した。B2グリッドP36・37は半裁後、写真撮影、断面図を実測した。P22は半裁が終了した。C2グリッドはP12・13を半裁後、写真を撮り、完掘に移った。P15は半裁途中である。17日、A2グリッドSK1を完掘した。SK1は2つに分かれ、SK1-1は小さな柱穴、SK1-2は大きな柱穴または土壁であると考えられる。B2グリッドP22・36・37は完掘し、写真撮影と平面図を実測した。P23～26は半裁途中である。P27は半裁後、断面を観察するが、全体的に同じ覆土であり、写真撮影後(デジカメのみ)に完掘した。C2グリッドP12・13は実測途中である。P16は半裁後、断面を観察するが、全体的に同じ覆土であり、写真撮影後(デジカメのみ)に完掘した。P15は半裁を終了した。18日、B2グリッドP23・24は半裁を終了し、写真撮影を行った。P25・26は半裁途中である。C2グリッドP14・15・17は半裁後、写真撮影を行い、完掘途中である。P18～20は半裁を終了した。B1グリッドにある樹根らしきものは半裁した結果、すべて樹根であると判断した。B2グリッドP27の平面実測を終了し、A2グリッドSK1は平面実測の途中である。22日、B2グリッドP23～26・28とC2グリッドP14～20は完掘後に写真撮影を行った。B1・C1間の畦では、セクション図作成後に畦崩しを開始した。24日、A1・B1グリッドにある近現代の石敷を取り除き、2c～e層を検出した。実測はA～C2グリッドの完掘した遺構の平面実測を行った。25日、A1・B1グリッドを地山而まで掘り下げた。B1・C1間の畦を崩し終了した。26日、全景撮影を行った。29日、A～C2グリッドの平面実測を行った。北壁及び西壁の写真撮影を行った。

3月1日、A～C2グリッド及びA～C3グリッドの平面実測と、平板を用いて調査区全域の実測を行った。2日、C1グリッドの平面実測と西壁のセクション図を作成した。3日、B3・C3グリッドの実測を行い完了した。4日、西壁と北西壁の実測を完了した。7日、北壁の実測を完了した。8日、A～C1グリッドの平面実測を開始した。9日、A1・B1グリッドの平面実測を完了した。実測作業は完了した。16日、埋め戻し作業を行い、17日に完了。調査の全日程が終了した。

調査期間中は天候不良が続き、降雨の度に冠水し、水抜き作業、掃除を行ってからの発掘調査のため、予定よりも調査に時間を要することとなった。

2016～2018(平成28～30)年度

出土した遺物に関する整理作業(洗浄・注記・実測・拓本・トレース・写真撮影)を行ったほか、図面の整理作業を行った。その後、調査成果をまとめた原稿執筆や図版の版組を行い、報告書を作成した。

4. 資料整理

出土遺物の整理及び分類に際し、青磁、白磁及び青花(染付)については、大宰府条坊跡 XV(2000年)、上田分類(1982年)、森田分類(1982年)、小野分類(1982年)を参考にした。遺物観察表や遺物点数表ではそれぞれに該当するものを大～、上～、森～、小～と表記している。また、グスク土器の整理及び分類方法は、近在する史跡糸数城跡の発掘調査報告書(1991年)に基づいている。よって、本報

告書のグスク土器分類は以下のとおりとなる。また、遺物観察表や遺物点数表では鍋型土器Ⅰ類c種であれば鍋Ⅰcと表記した。なお、鉢形土器については屋比久グスクから出土していないため、記述を省略する。

1) 鍋形土器

口縁形態などを基本としてⅠからⅤ類に大別し、必要に応じて細分している。

Ⅰ類…内湾する口縁。最大径は胴上部から中央に求められる。口唇部の形態から3種類に細分される。口縁には瘤状突起や横耳状突起を貼り付けるものもある。

a種…口唇を平坦に成形して仕上げたもの。

b種…口唇の内端を僅かに突出させて仕上げるため、口唇が幅広気味となる。

c種…口唇部に丸みを持たせて調整するもの

Ⅱ類…器形は鍋Ⅰ類と類似する。口縁で内側に内傾する内湾タイプで、最大径は胴上部から胴中央に求められる。底部からの立ち上がりの形状として、底面から丸みを保持しながら胴部へ移行させるものと底面からの立ち上がりの部分にヘラ削りで角を出し、胴部方向に幾分か丸みをつけて移行させるものがある。口縁部の形態により3種類に細分される。口縁部に瘤状突起を貼り付けるものもある。

a種…口唇を尖り気味に調整するため、鍋Ⅰc類より口唇の幅は極端に細くなる。

b種…口唇部外端は丸みを持たせ内端の角は幾分か尖らせる。逆に外端を尖らせるものもある。

c種…口唇部外端を僅かに突出させて仕上げる。

Ⅲ類…西原町我謝遺跡で出土した肥厚する鍋形土器と類似するもの。

Ⅳ類…鏝付きの鍋。胎土に滑石片混入。

Ⅴ類…口頸部でゆるく「く」の字状に折れ曲がる。口頸部を屈曲させた後、口唇部を尖り気味に仕上げるものと、口縁端部を摘み出しさらに軽く折り曲げて仕上げるものがある。

2) 壺形土器

口頸部の屈曲などから3種類に分かれる。なお、便宜的に口唇から頸部までの長さが2cm以上のものを長頸壺、1cm以上2cm未満のものを短頸壺としている。

a種…口頸部の屈曲はゆるく、なで肩タイプが多い。長頸壺と短頸壺がある。

b種…口頸部はa種よりもきつく外側に屈曲し、いかり肩のタイプが主流。長頸壺のみ。

c種…口頸部が直口もしくは僅かに内傾するもので、肩部は丸みを帯びる。長頸壺と短頸壺がある。

3) 甕形土器

口縁形態からaからc類までの3タイプに分類される。

a類…口頸部の屈曲はゆるく、口縁で軽く外傾するもの。

b類…口頸部の屈曲はきつく、「く」の字状に折れる。口縁部で強く外側に傾く。

c類…口縁が直口気味のもので、口頸部の屈曲はゆるく微弱である。器形の特徴は、底部で若干丸味を持ちながら内側にゆるく閉じるため、一見垂直に近い立ち上がりを見せる。胴部は長胴気味で、胴上

部からゆるやかに内側に軽く内傾させながら胴部へ移っていく。

4) 碗形土器

口縁形態などからⅠからⅥ類に分類し、必要に応じて細分している。明確に区別することができなかったため、碗型土器の中には皿形土器も含まれる。

Ⅰ類…内湾する碗。内湾の傾き具合から2種類に分けられる。

a種…内湾のゆるいもの。

b種…内湾のきついもの。

Ⅱ類…口縁が直口する碗で外側に大きく外傾する。口縁形態から2種類に分けられる。

a種…口縁外端部を丸く成形し、口唇を尖らせたもの。

b種…口縁を舌状に仕上げたもの。

Ⅲ類…外反口縁の碗で、口縁でわずかに外反する。

Ⅳ類…端反の碗で口唇が幅広となる。口縁外端部を尖り気味に突出させる。

Ⅴ類…肥厚口縁の碗。被圧の形態から2種類に分けられる。

a種…口縁の縦断面が方形状の肥厚となるもの。

b種…玉縁状の肥厚となるもの。

Ⅵ類…把手の付く碗。瘤状突起を貼り付けている。

5) 底部資料

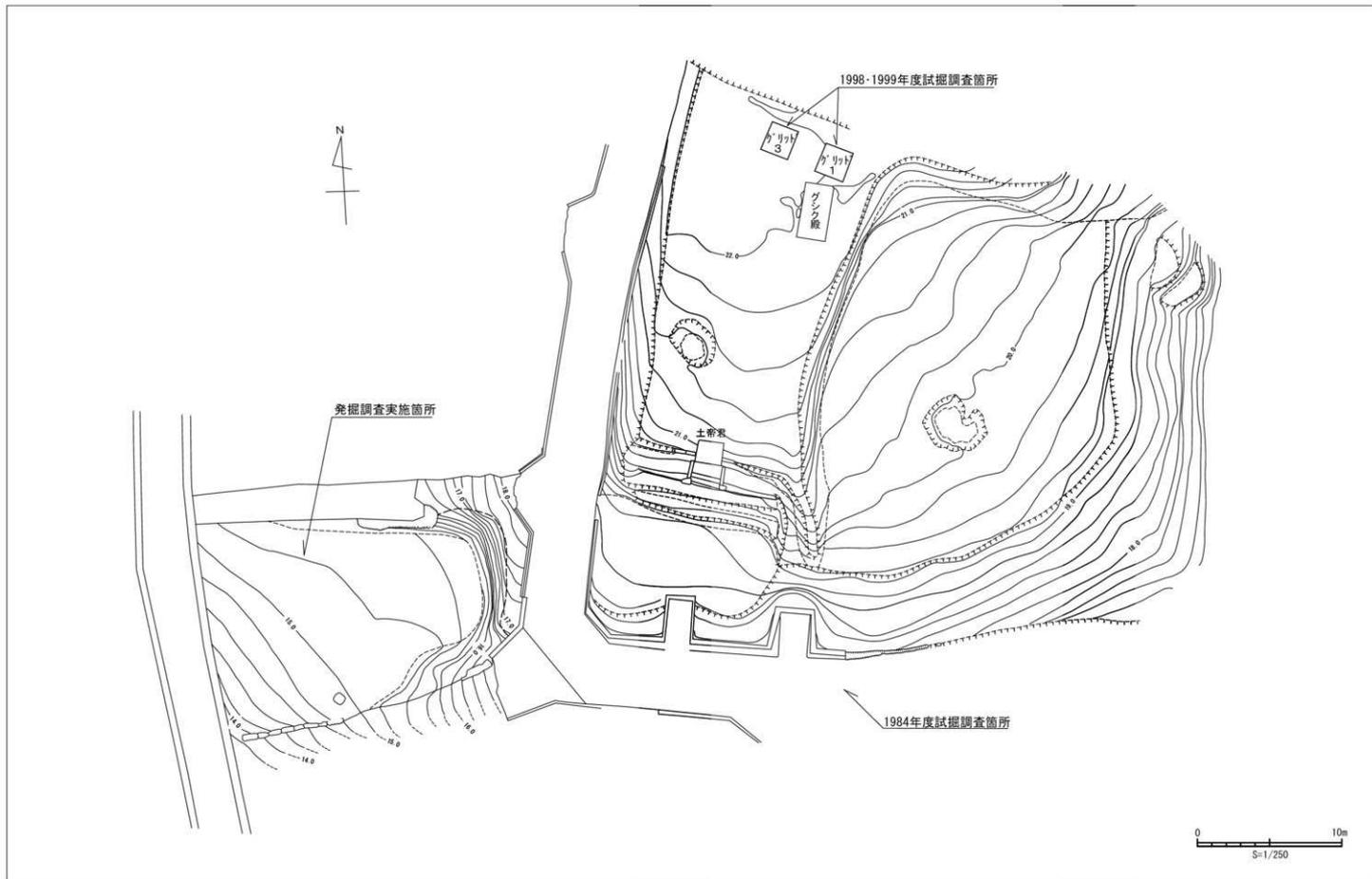
底面からの立ち上がりの形状などからⅠからⅣ類に分類。

Ⅰ類…底面からの立ち上がりは外側に大きく開いた状態で、若干丸みを持たせながら胴部へ移行する。

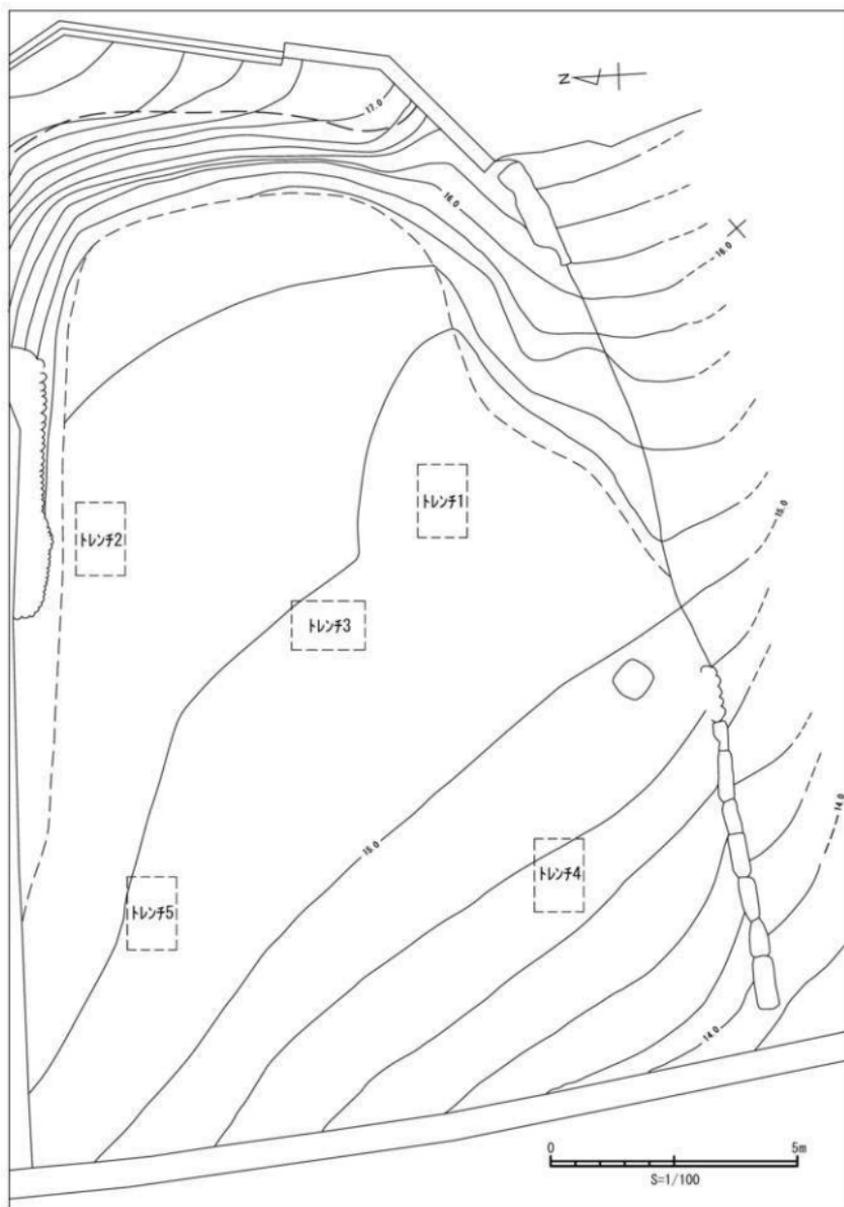
Ⅱ類…底面からの立ち上がりは内側に閉じた状態で、丸みを保持しながら胴部へ移行する。

Ⅲ類…底面からの立ち上がりは外側に大きく開いた状態で、丸みを保持しながら胴部へ移行する。底面からの立ち上がり部分にヘラや指圧でくびれをつくる。

Ⅳ類…底面からの立ち上がりは内側に閉じた状態で、丸みを保持しながら胴部へ移行する。底面からの立ち上がり部分にヘラや指圧でくびれをつくる。



第4図 屋比久グスク周辺測量図



第5図 試掘トレンチ設定状況図

第2章 発掘調査の成果

第1節 試掘調査

試掘箇所については、2015(平成27)年1月8日、調査員2名のもと、敷地内の四隅と中央1箇所に、任意の約1m×1.5mトレンチを5箇所設置することとした。名称は、掘り下げ順にトレンチ1からトレンチ5まで付した(第5図)。

試掘調査では、4層までを確認することができた。

1. 層序

- 1層:表土層。茶褐色土層でしまりが無い。5cm程の小石などが混じる。沖縄産陶器や現代のビンが出土する。
- 2層:暗黒色土層でしまりが無い。沖縄産陶器が出土する。当該地は以前宅地であったことから、当時の生活層と考えられる。
- 3層:暗黒色土層でしまりがある。青磁・骨が出土する遺物包含層である。トレンチ3～5にて確認することができる。トレンチ1・2においては、住宅建築の際に掘削されたと考えられる。
- 4層:灰褐色のクチャが混じる土層。地山直上の層と考えられる。遺物は見られなかった。重機の性能上、4層で試掘調査を終了した。

2. 遺物 (第6図1～7、第1表1～7、図版43・44、1～7)

出土遺物は、グスク時代相当期から近現代までのものが出土している。トレンチ1～3では遺物が見られなかったが、トレンチ4では青磁4点(1～3)、トレンチ5ではカムイヤキ2点(4)、グスク土器1点、青磁2点、沖縄産無釉陶器2点、獣骨2点が出土している。内、4点を図化した。

1～3は青磁碗の底部片である。1は畳付きから高台内が露出し、胴部に丸味を帯びている。2は高台内に釉剥ぎが施され、外面に幅の広い蓮弁文を持つ。3は高台途中まで釉葉が施されている。

4はカムイヤキ壺の底部片であり、外面にナデ、内面にヘラ状工具による調整が行われている。

また、表採遺物としてカムイヤキ1点(5)、青磁1点(6)、色絵1点(7)を確認した。

5はカムイヤキの胴部片であり、外面に波状沈線文、内面は回転ナデ調整である。

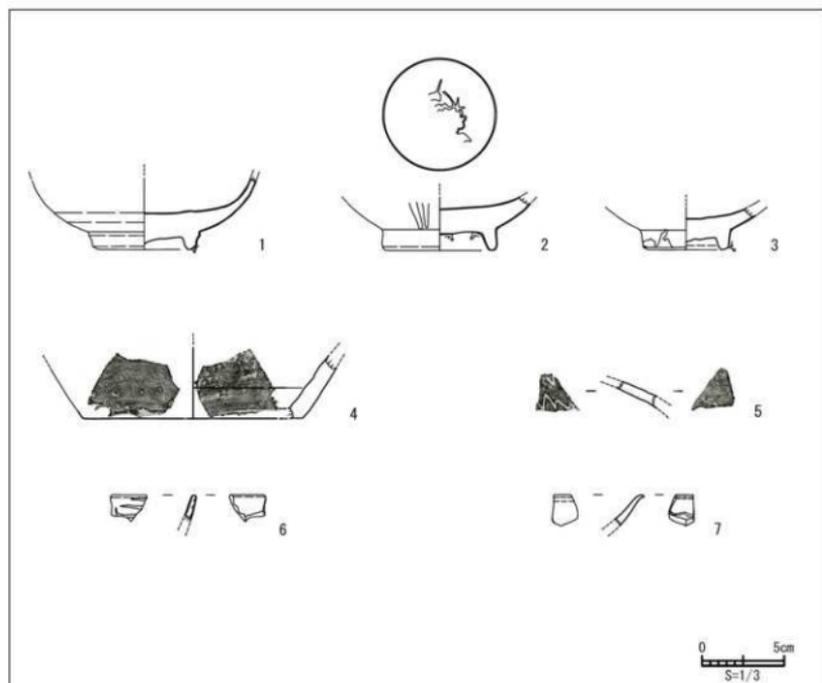
6は青磁碗の口縁部片であり、外面口縁部に雷文帯が施されている。

7は色絵皿の口縁部片であり、内面胴部に波状文のような光沢が剥がれた箇所がみられる。

以上、試掘トレンチ1～5の結果から、遺物包含層の広がりを確認することができた。

第1表 試掘調査遺物観察表

図/ 番号	出土区	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第6図 1	トレンチ4	青磁碗 底部	—	豊付から高台内無軸。胴部は丸みを帯びて立ち上がる。	底:5.7	白色粒 黒色粒	胎:灰白(2.5Y7/1) 軸:明オリブ灰 (5GY7/1)
第6図 2	トレンチ4	青磁碗 底部	上BIIIb	全面施釉後、高台内軸剥ぎ。幅の広い差弁文を持つ。見込みに圏線と文様が施されている。貫入有り。	底:6.6	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1) 軸:明緑色
第6図 3	トレンチ4	青磁碗 底部	—	高台途中まで施釉。貫入有り。	底:5.2	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y7/1) 軸:オリブ灰 (10Y6/2)
第6図 4	トレンチ5	カムイヤキ 盃 底部	—	底面からの立ち上がり部分。外面ナデ。内面ヘラ状工具による回転調整。	底:13.4	白色粒	胎:灰(N6/), 芯部は にぶい赤褐(5YR4/3)
第6図 5	表採	カムイヤキ 盃 胴部	—	外面ヘラ描きによる波状沈線文。内面回転ナデ。	—	白色粒	胎:灰(N4/), 芯部は にぶい赤褐(5YR4/3)
第6図 6	表採	青磁碗 口縁部	上CII	直口縁碗。残存部全面施釉。外面口縁部に雷文帯を持つ。	—	褐色粒	胎:灰白(2.5Y8/1) 軸:オリーブ灰(10Y 6/2)
第6図 7	表採	色絵皿 口縁部	—	残存部全面施釉。口縁部が外反する。内面胴部に波状文のような光沢が剥がれた箇所有り。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(10Y8/1) 軸:明オリブ灰 (2.5GY7/1)

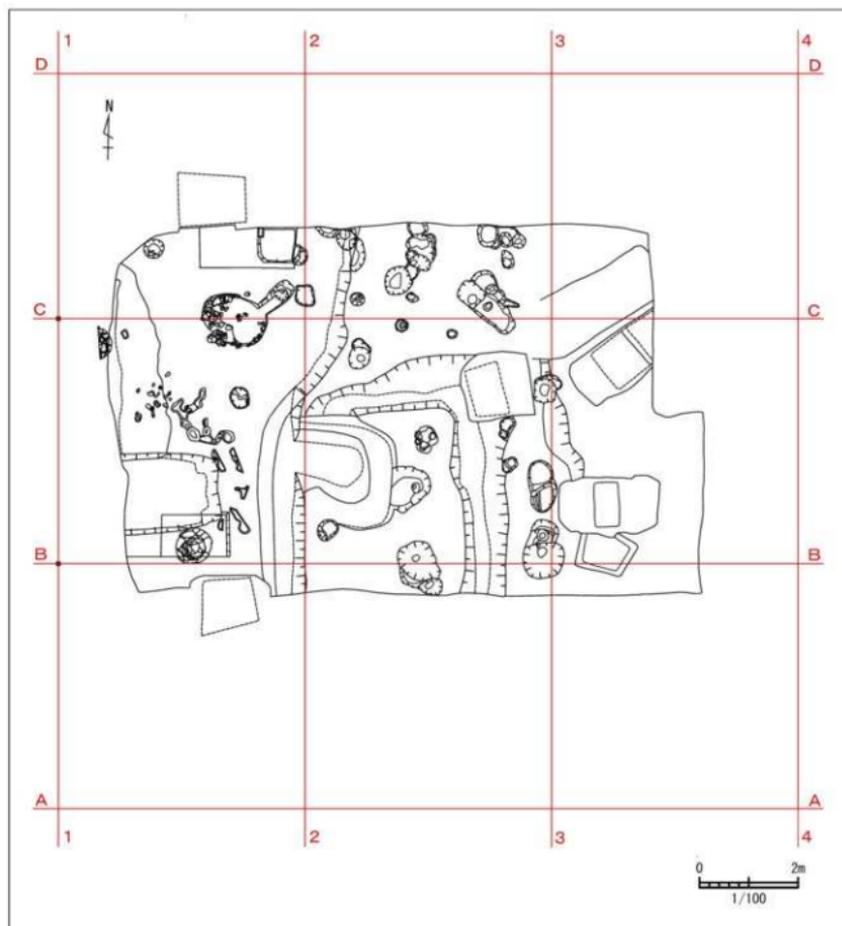


第6図 試掘調査遺物実測図

第2節 本調査

1. グリッド設定 (第7図)

土地境界杭1・2を基準軸とし、5m×5m四方のグリッド設定を行った。グリッドは南から北へアルファベット(A・B・C)、西から東へ算用数字(1・2・3)をあて、グリッド南西隅の交点番号をもって、各グリッド名とした。



第7図 発掘グリッド設定図

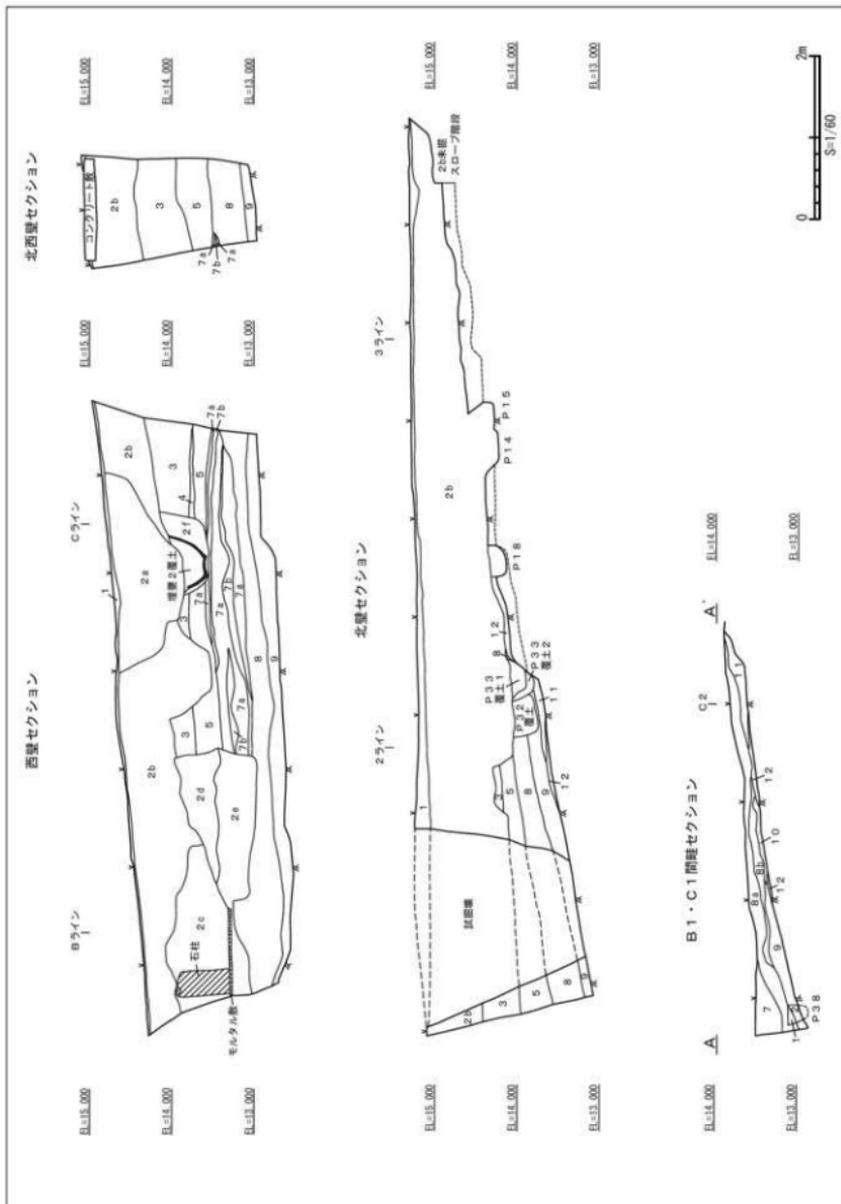
2. 基本層序 (第8図)

本調査地の層序は、大別すると1層～13層が確認されている。

- 1層:表土層。整地のため、コーラルが敷き均らされた層。
- 2層:近現代の造成又は攪乱層。土質等により6つに細分される。
 - a:黄灰色や暗灰黄色、黄褐色が混じる層。コンクリート片、木材片、赤瓦片、礫やサンゴ砂利を含む近年の攪乱層。
 - b:黄灰色に暗灰黄色や黄褐色が混じる層。しまりは良く、拳大から人頭大の礫を含む。赤瓦が多く出土することから近年まで建っていた家を解体した後、客土して造成したと考えられる。
 - c:礫層。人頭大の礫が詰み込まれた層。
 - d:黄褐色層。しまりは良く粘りがある。近現代に家を作る際、水の影響を少なくし地盤を強くするために入れられた造成層と考えられる。
 - e:灰色に黄褐色が混じる層。粘りはあるがしまりは弱く柔らかい。dと同様の理由で造成された層。
 - f:灰色層。しまりは悪く柔らかい。甕を固定するために埋められた土。d・eと同時期と考えられる。
- 3層:貝混じり層。黄灰色に黄褐色が僅かに混じる。しまりは良く粘りがある。小さな海産貝がまばらに含まれる。
- 4層:貝層。暗灰黄色土に小さな海産貝が集中する。B1グリッド北西側からC1グリッド西壁にかけて広がる。
- 5層:暗灰黄色層。しまりは弱く、ざらつき感がある。微細な焼土と炭を若干含む。近世層。
- 6層:黒褐色又はオリーブ褐色層。B1グリッド及びC1グリッドに広がる。グスク時代から近世期への漸移層と考えられる。
 - a:黒褐色層(Hue2.5Y3/2)。しまりは弱くざらつき感がある。C1グリッドとC2グリッドの境界沿いに一部広がる。
 - b:オリーブ褐色層(Hue2.5Y4/3)。しまりは弱くざらつき感がある。B1グリッドの一部に広がる。
- 7層:焼土層。黄褐色(Hue10YR5/6)とオリーブ褐色(Hue2.5Y4/3)が相互に重なって堆積する。グスク時代に耕作又は水はけを良くするために造成されたと考えられる。土質などにより2つに細分される。細かく砕けたグスク土器などが出土する。
 - a:細かい焼土ブロックを多く含み、全体的に黄褐色(Hue10YR5/6)を呈す。細かい焼土ブロックによりゴツゴツした感触を呈す。細かい炭を多く含む。しまりは良い。
 - b:オリーブ褐色(Hue2.5Y4/3)。しまりは弱く少し粘りがある。細かい焼土ブロックと炭をわずかに含む。
- 8層:暗オリーブ褐色層(Hue2.5Y3/3)。しまりは良く少しざらつき感がある。細かい焼土と炭を含む。カムイヤキ、グスク土器、青磁などが出土する。B1・C1間観察畦においては、さらに2層に細分される。グスク時代の遺物包含層。
 - a:暗オリーブ褐色(Hue2.5Y3/3)。しまりは良い。削ったときの感触はざらつき感がある。細かい焼土、炭を含む。
 - b:オリーブ褐色(Hue2.5Y4/6)と暗灰黄色(Hue2.5Y4/2)がまだら状にまざる。しまりは良く少し粘りが

ある。

- 9層:オリーブ褐色層(Hue2.5Y4/3)。上層の暗オリーブ褐色層に比してしまりは強く少し粘りがある。細かい焼土と炭を含む。カムイヤキ、グスク土器、青磁などが出土する。
- 10層:にぶい黄褐色層(Hue10YR4/3)。しまりは良く固め。粘りはなく、さらさらしている。細かい焼土と炭を若干含む。主にグスク土器が出土する。
- 11層:灰黄褐色層(Hue10YR4/2)。しまりはあるがやわらかい。粘りはなく少しざらつき感がある。遺物の出土はない。B2・C2 グリッドで切岸状に傾斜する西側に広がり堆積したものと考えられる。
- 12層:地山漸移層。灰黄褐色(Hue10YR4/2)に黄褐色(Hue10YR5/8)が混じる。しまりは良く固め。
- 13層:明黄褐色層(Hue10YR6/6)。粘りがあり固くしまっている。地山。



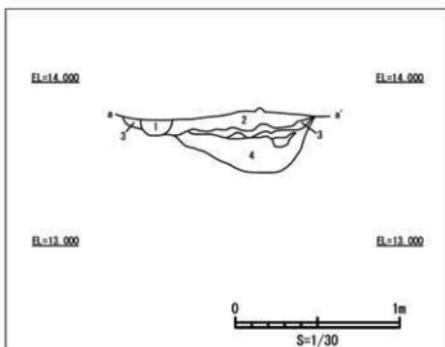
第 8 図 層序図

3. グスク時代

(1) 遺構

グスク時代に相当する遺構は、土壌と小穴が確認されている(第9図)。

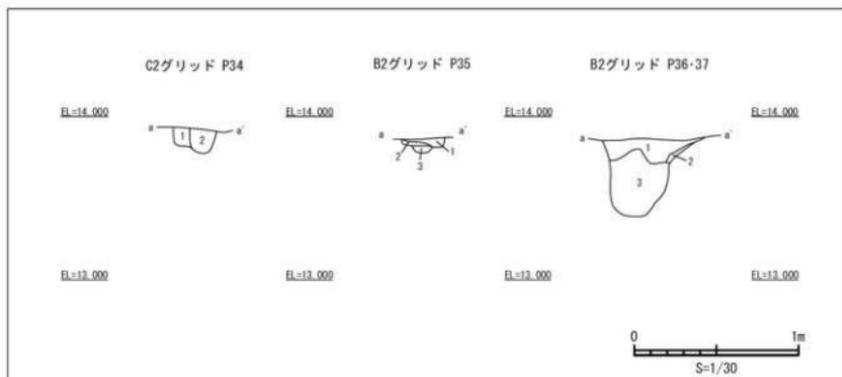
A2 グリッドとB2 グリッドの境目辺りから、土壌 1 基(SK1)を検出した(第10図)。その規模は、最大径 101 cm、深度 20 cm、形は不整楕円形状を呈する。掘り進めると、SK1 は 2 つに分かれ、SK1-1 は小さな柱穴、SK1-2 は大きな柱穴または土壌であると考えられる。層序については、4 層に分けることができ、1 層はオリーブ褐色(2.5Y4/3)、2 層はオリーブ褐色(2.5Y4/3)に暗灰黄色(2.5Y4/2)が混じり、3 層はオリーブ褐色(2.5Y4/6)、4 層は黒褐色(2.5Y3/2)にオリーブ褐色(2.5Y4/3)が少し混じった層である。遺物は、1 層からはグスク土器 3 点、獣骨 2 点、獣歯 1 点、焼土 1 点、2 層からは青磁 1 点、軽石 1 点、獣骨 1 点、海産貝 3 点、サンゴ 1 点、焼土 8 点、3 層からはグスク土器 4 点、褐釉陶器 1 点、獣骨 1 点、獣歯 1 点、焼土 6 点、炭化物 1 点、4 層からは青磁 2 点、褐釉陶器 1 点、獣骨 6 点、焼土 23 点が出土している。



第10図 土壌断面図(SK1)

また、小穴は、7 基検出されている。その規模は、最大径 22~48 cm 前後で、深さは 7~49 cm 前後である(第2表)。検出された小穴の内、2 基で芯を確認した。小穴のつながりについては確認できず、グスク時代の建物跡のプラン等を想定することはできなかった。内、4 基の断面を図化した(第11図)。

なお、平面図(第9図)の破線(黄緑)で囲っている部分に関しては樹根と判断した。



第11図 遺構断面図(P34~37)

P34 は、2層に分かれる。芯心は、黄灰色(2.5Y4/1)を呈する。遺物は、焼土が1点出土している。P35 は、3層に分かれる。1層は、黄灰色(2.5Y4/1)にオリーブ褐色(2.5Y4/6)が混じり、2層はオリーブ褐色(2.5Y4/6)、3層は芯心であり、暗灰黄色に(2.5Y4/3)にオリーブ褐色(2.5Y4/6)が混じる。遺物は見られなかった。P36・37 は3層に分かれる。1層は、黄灰色(2.5Y4/1)にオリーブ褐色(2.5Y4/6)と暗灰黄色(2.5Y4/2)が混ざり、細かい焼土含む。2層はオリーブ褐色(2.5Y4/6)、3層は黄灰色(2.5Y4/1)を呈している。遺物は、P36の1層から焼土3点、3層からグスク土器1点、焼土13点、炭化物3点が出土している。

さらに、B2・C2グリッド11層を掘り下げた際、B1・C1グリッド側へ急に落ち込む状況が確認できた。地形的なことなどから切岸を想定している。しかし、上層が近現代の建物解体後、客土を行って造成しているため、平面図(第9図)上に破線(赤色)で現状での切岸の上場ラインを示している。

第2表 遺構観察表(グスク時代)

NO.	グリッド	検出層	平面形	最大径 (cm)	深度 (cm)	遺物	備考
SK1	A2	8	不整楕円形	101	20	有	
P32	C2	8	不整楕円形	43	12.4	有	
P33	C2	8	不整楕円形	42	19.6	有	
P34	C2	8	不整円形	29	15.4	有	芯心有
P35	B2	8	円形	27	8		芯心有
P36	B2	8	円形	48	49.4	有	
P37	B2	8	不整楕円形	40	7.2		
P38	B1・C1 間畦 セクション	8	—	22?	—		

(2) 遺物 (第12～25図8～144、第3～15表8～144、図版45～80、8～144)

グスク時代の遺物包含層(7～12層)からは、以下のものが出土している。

7層からは、グスク土器156点(8・9)、カムイヤキ2点、白磁3点(10)、青磁13点(11)、褐釉陶器3点、黒釉陶器2点(12)、石器・石材10点、鉄片1点、獣骨35点、魚骨2点、獣歯2点、焼土78点、炭化物7点が出土している。

8はグスク土器の鍋形土器の口縁片である。外面に摘み状把手を貼り付けている。

9はグスク土器の底部片である。底面から開き気味に立ち上がる。器面はアバタ状を呈している。

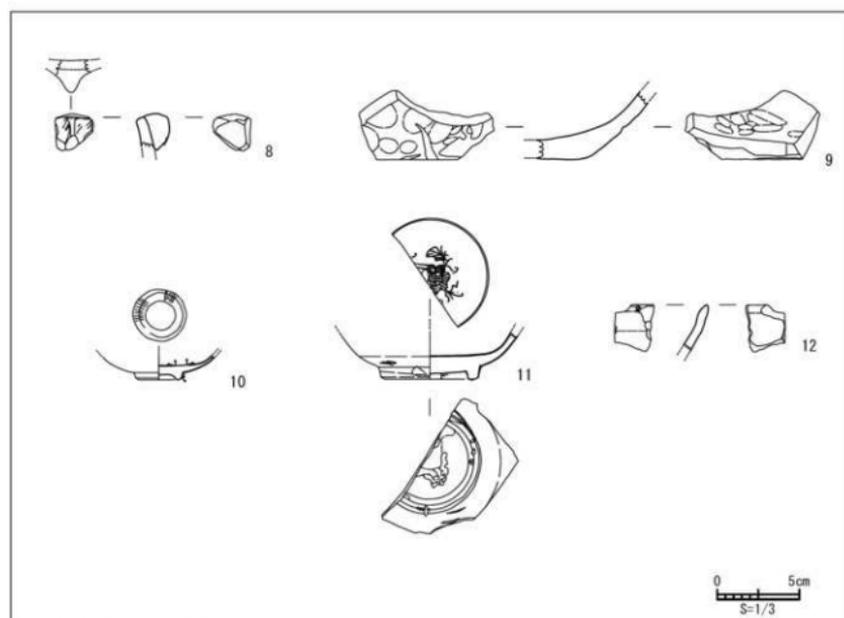
10は白磁皿の底部片であり、見込みを蛇の目軸剥ぎし、高台は露胎している。高台の削りが浅く小さい。

11は青磁皿の底部片である。見込みに圏線と印花が施されている。

12は天目碗の口縁片である。

第3表 遺物観察表(7層)

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第12図 8	B1	7層	グスク土器 口縁部	鍋 I a	口縁部は内湾しており、口唇部は丸みを持つ。外面に楕円状把手を貼付ける。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎: にぶい赤褐(5YR 5/4)
第12図 9	B1	7層	グスク土器 底部	底 I	底面から外側に開いた状態で、若干丸みを持たせながら胴部へ移行する。内外面へツクリ後、指押しえたとナデ調整だが、荒い仕上げになっている。内外面アバタ状を呈す。	—	—	胎: 灰白(5Y7/1)
第12図 10	B1	7層	白磁皿 底部	—	見込みは蛇の目剥ぎ。高台～高台内は露胎している。高台の削りは浅く小さい。	底: 2.5	黒色粒	胎: 灰白(2.5Y8/1)、 緻密 軸: 灰白(5GY8/1)
第12図 11	B1	7層	青磁皿 底部	—	高台内まで部分的に施軸。底部に厚みがある。胴部は丸味をおびて立ち上がる。見込みに團線と印花が施される。	底: 5.4	白色粒	胎: 灰白(N8/), 緻密 軸: オリーブ灰(5GY 6/1)
第12図 12	B1	7層	黒釉陶器 碗 口縁部	天目	全面に施軸。口唇断面がやや尖る。	—	白色粒 黒色粒	胎: 灰白(2.5Y8/1)、 緻密 軸: 黒(5Y2/1)ににぶい赤褐(5YR4/3)を 施軸



第12図 遺物実測図(7層)

8層からは、貝塚時代後期土器2点(13)、グスク土器693点(14~36)、カムイヤキ35点(37~48)、白磁18点(49~53)、青磁50点(54~71)、青花1点、褐釉陶器31点(72~74)、黒釉陶器2点(75~76)、陶器2点、沖繩産施釉陶器4点、沖繩産無釉陶器1点、石器・石材48点(77~79)、鉄片7点、鉄釘1点(80)、土製品2点(81・82)、海産貝3点、獣骨127点(83)、魚骨1点、獣歯7点、魚歯1点、焼土170点、炭化物5点、その他3点が出土している。

13は貝塚時代後期土器の胴部片である。外面に2条の沈線がみられる。

14~18はグスク土器の鍋形土器の口縁片である。14・15・17は口縁部が内湾し、口唇部を尖り気味に調整したものである。16は、口唇部を平坦に仕上げたものである。18も口縁部が内湾している。

19~24はグスク土器の壺形土器であり、19~22は口縁片である。19は口頸部をややきつく屈曲させる短頸壺、20は口唇部を外側に小さく肥厚させている。21・22は直口口縁の短頸壺である。23は頸部片で、口頸部が緩く屈曲する長頸壺である。24は頸部に近い胴部片である。

25も丸みを帯びるグスク土器の胴部片であり、壺形土器と思われる。

26~36はグスク土器の底部片である。26~34は底面から外側に開いた状態で立ち上がり、丸みを持たせながら胴部へ移行し、35は底面から内側に閉じた状態で立ち上がり、丸みを持たせながら胴部へ移行している。36は底面からの立ち上がり部分に指圧でくびれをつくっている。

37~41はカムイヤキ壺の口縁片である。37~40は口縁部が外側に強く屈曲し、41も口縁部が外反している。

42はカムイヤキの壺の頸部片であり、内面に格子目状の当て具痕が残っている。43も壺の頸部に近い胴部片である。

44・45はカムイヤキの胴部片である。44は外面に綾杉状の叩き痕、内面に格子目状の当て具痕が残っている。45は外面の叩き痕がナデにより消されており、内面はヘラ状工具による回転調整と格子目状の当て具痕が残っている。

46はカムイヤキの小壺の底部片であり、47・48も底部片である。

49・50は白磁碗の口縁片である。49は口縁部が玉縁状に肥厚しており、大宰府編年IV類に該当する。50は外反口縁で、高台脇が露胎を呈している。森田分類E群に該当すると思われる。

51~53は白磁皿である。51は外反している口縁片であり、口縁端部が口禿になったものである。大宰府分類IX類に該当する。52・53は底部片である。52は腰部から高台内が露胎を呈しており、森田分類E群に該当すると思われる。53は平底を呈しており、見込みに櫛描文を施している。大宰府分類IX類に該当する。

54~60は青磁碗の口縁片である。54・56・57は直口口縁である。54は外面に雷文帯、内面にも簡略化された雷文帯と草花文が施されており、56も外面に雷文帯、57も外面に雷文帯とラマ式蓮弁文が施されている。上田分類CII類に該当する。55・58・59は外反口縁である。上田分類DII類に該当する。60は無文の直口口縁片であり、上田分類E類に該当する。

61~64は青磁碗の底部片である。61は外面に細描蓮弁文、見込みに圏線と草花文が施されている。64も外面に2種類の太さの蓮弁文と高台に細描の圏線、見込みに草花文が施されており、これらは上田分類B類に該当する。62は見込みに草花文、63は外面胴部に文様が施されている。

65・66 は青磁の腰折れ外反口縁皿の口縁片である。

67・68 は青磁皿の底部片である。67 は腰折れ皿であり、68 は高台内の削りが浅くなっている。

69・70 は青磁盤の口縁片である。69 は内面に蓮弁文が施されており、70 は内面に5本櫛によると思われる丸彫りの蓮弁文が施されている。

71 は青磁杯である。外面に鎗蓮弁文、内面見込みに圏線と双魚文が施されている。大宰府分類Ⅲ4b類に該当する。

72・73 は褐釉陶器の壺の胴部片である。72 は丸みのある薄手なつくりをしており、73 は四耳壺である。

74 は褐釉陶器の把手である。2条の溝が施されている。

75・76 は黒釉陶器碗である。75 は天目茶碗の口縁片であり、76 は高台内の削りが浅い底部片である。

77・78 は石器片である。77 は上部が欠損しており、表面と左側面に研磨痕と敲打痕がみられる。下部に使用による割れがみられる。78 は砥石である。四面を砥面として使用しており、いずれも使用による細かい傷、磨耗がみられる。

79 は滑石製品である。石鍋の把手の部分の部分を錘状製品に二次加工したものである。縦横に溝状の削り痕がみられる。

80 は鉄釘である。上部が欠損しており、錆膨れがみられる。

81・82 は土製品と思われる。81 は平坦面にはへら削り後ナデ消し、他の面は抉りや削りが施されている。82 は溝状に4箇所削られており、裏面も粗い削りがみられる。

83 は獣骨の下顎骨である。(図版 150-3)

第4表 遺物観察表(8層)①

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第13図 13	B1・C1	8b層	具塚後期 土器 胴部	—	外面に2条の沈線がみられる。内面指押さえ。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎: 橙(5YR6/6)
第13図 14	B1	8層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅱa	口縁部は内湾し、口唇部は尖り気味に調整している。外面へら削り後ナデ、内面はナデ後に指押さえが施されている。ややアバタ状を呈す。	—	褐色粒	胎:(外)にぶい橙(7.5YR6/6)、(内)橙(2.5YR6/6)
第13図 15	B2	8層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅱa	口縁部が内湾し、口唇をやや尖り気味に調整する。内外面指圧痕、ナデ調整。	—	褐色粒 光沢粒	胎: にぶい橙(7.5YR7/4)
第13図 16	B2	8層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅰa	口唇を平坦に仕上げたもの。内外面へら削り後ナデ調整、内面に指圧痕有り。	—	黒色粒 光沢粒	胎: にぶい橙(2.5YR6/4)
第13図 17	C1	8層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅱa	口縁部は内湾し、口唇を尖り気味に調整している。外面口唇付近は指押さえ、下部はへら削り後ナデ消し。内面指押さえ調整。	—	白色粒 褐色粒	胎: 橙(7.5YR7/6)
第13図 18	C1	8層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅱb?	口縁部は内湾する。外面へら削りと指押さえ、内面指押さえが施されている。ややアバタ状を呈す。	—	白色粒 黒色粒	胎: 橙(5YR7/6)
第13図 19	B1	8層	グスク土器 口縁部	壺a	口頸部は、ややきつく屈曲する短頸壺。内外面頸部を指押さえ後、ナデ調整。	口: 11.0	白色粒 黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎:(内)にぶい橙(7.5YR6/3)、(外)橙(2.5YR6/6)

第5表 遺物観察表(8層)②

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第13図 20	C1	8層	グスク土器 頸部	壺 or 鉢	口頸部はきつ外側に屈曲する。 外面は指押さえ、内面はヘラ削り 後にナゲ消しが施されている。	—	褐色粒	胎:にぶい橙(7.5YR 7/4)
第14図 21	C1 サブトレ	8層	グスク土器 口縁部	壺c	短頸壺。直口口縁。内外面ナゲと 指押さえで調整している。アバタ 状を呈す。	—	白色粒 褐色粒	胎:にぶい橙(7.5YR 7/4)
第14図 22	C1 サブトレ	8層	グスク土器 口縁部	壺c	短頸壺。直口口縁。内外面ナゲと 指押さえで調整している。	—	黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎:にぶい橙(7.5YR 6/4)
第14図 23	C1	8層	グスク土器 頸部	壺a	長頸壺で口頸部はゆるく屈曲す る。外面ヘラ削り後ナゲ消し。内 面指押さえが施されている。内外 面の一部に工具痕が残る。	—	白色粒 褐色粒 黒色粒 光沢粒	胎:橙(5YR6/6)
第14図 24	C1 サブトレ	8層	グスク土器 胴部	壺	頸部に近い胴部。内外面ヘラ削り 後ナゲ消しと指押さえで調整して いる。アバタ状を呈す。	—	白色粒	胎:橙(5YR6/6)
第14図 25	B2	8層	グスク土器 胴部	壺	蓋?丸みを帯びる胴部。内外面 指圧痕とナゲ調整がみられる。	—	滑石粒	胎:にぶい赤褐(2.5 YR5/4)
第14図 26	B1	8層	グスク土器 底部	底I	底面からの立ち上がりは確かなヘラ 削りで、外側に大きく開いた状態 で胴部へ移行する。底部はアバタ 状を呈す。内面は指ナゲ。	—	褐色粒	胎:にぶい黄橙(10 YR7/3)
第14図 27	B1	8層	グスク土器 底部	底I	底面は外側に開いた状態で丸み を持たせながら胴部へ移行する。 内外面指押さえとナゲ調整。内外 面わずかにアバタ状を呈す。焼成 やや不良。	—	白色粒	胎:橙(5YR6/6)
第14図 28	B2	8層	グスク土器 底部	底I	外側に開いた状態で、若干丸み を持たせながら立ち上がる。内面 ナゲ調整、外面ヘラ削り、外面底 部アバタ状を呈す。	—	褐色粒	胎:橙(5YR6/6)
第14図 29	C1	8層	グスク土器 底部	底I	底面から外側に開いた状態で立 ち上がり、丸みを持たせながら胴 部へ移行する。内外面ヘラ削り後 ナゲ消しが施されている。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎:橙(5YR6/6)
第14図 30	C1	8層	グスク土器 底部	底I	外面ナゲ。内面指押さえがみられ る。	—	白色粒 褐色粒 黒色粒	胎:橙(5YR7/6)
第14図 31	C1	8層	グスク土器 底部	底I	底面から外側に開きながら、丸み を持って立ち上がる。内外面に指 押さえが残る。アバタ状を呈す。	—	白色粒 褐色粒	胎:(外)明赤褐(5YR 5/6)、(内)灰黄褐(10 YR6/2)
第14図 32	C1	8層	グスク土器 底部	底I	底面から開いた状態で立ち上 がる。外面ヘラ削り後ナゲ消し、内 面ナゲ。	底:12.4	白色粒 黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎:橙(2.5YR6/6)
第14図 33	C1	8層	グスク土器 底部	底I	底面からの立ち上がりは外側に開 き気味で胴部へ移行する。外面ヘ ラ削り、内面ナゲ。	底:9.1	白色粒 褐色粒 光沢粒	胎:橙(5YR7/6)
第14図 34	C1	8層	グスク土器 底部	底I	底面から外側に開いた状態で立 ち上がる。内外面ヘラ削り後ナゲ 調整。内面底部に指圧痕がみら れる。	—	白色粒 褐色粒 光沢粒	胎:橙(5YR7/6)
第14図 35	C1	8層	グスク土器 底部	底II	底面からの立ち上がりは内側に閉 じた状態で、丸みを保持しながら 胴部へ移行する。内外面ハケ目 が顕著。外面底部付近の胴部に 指押さえが残る。	—	白色粒 黒色粒	胎:(外)褐灰(7.5YR 4/1)、(内)橙(5YR7/6)

第6表 遺物観察表(8層)③

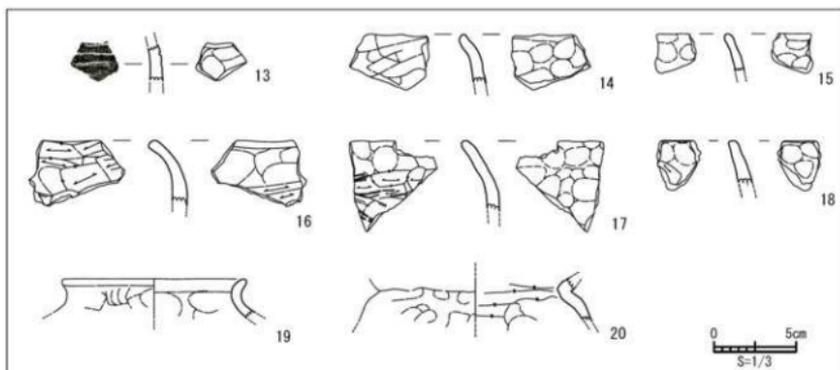
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第14図 36	C1	8層	グスク土器 底部	底IV	底面からの立ち上がり部分に指圧 でくびれをつくっている。内面ナ デ。	底:9.4	白色粒 黒色粒	胎:灰褐(5YR4/2)
第14図 37	C1	8層	カムイヤキ 壺 口縁部	—	外側に強く屈曲する口縁。ヘラ状 工具による回転調整後ナデ。	口:8.2	白色粒	胎:灰(5Y7/1)
第14図 38	C1	8層	カムイヤキ 壺 口縁部	—	外側に強く屈曲する口縁。ヘラ状 工具による回転調整後ナデ。口唇 部を平坦に仕上げる。	—	白色粒	胎:灰(N5/)
第14図 39	C1	8層	カムイヤキ 壺 口縁部	—	外側に強く屈曲する口縁。ヘラ状 工具による回転調整。内面粗いナ デ。	—	白色粒	胎:灰(N5/), 芯部は 灰赤(10R4/2)
第15図 40	C2	8層	カムイヤキ 壺 口縁部	—	外側に強く屈曲する口縁。内外面 ヘラ状工具による回転調整とナデ が施されている。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰(N5/), 芯部は にぶい赤褐(5YR4/3)
第15図 41	C1	8層	カムイヤキ 壺 口縁部	—	口縁部が外反している。内外面ヘ ラ状工具による回転調整後ナデ。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰(N4/)芯部は、 にぶい赤褐(2.5YR 4/3)
第15図 42	C1	8層	カムイヤキ 壺 頸部	—	ヘラ状工具による回転調整後、外 面粗いナデ、内面格子目状の当 て具痕有り。	—	白色粒	胎:灰(N5/), 芯部は 一部にぶい赤褐(2.5YR 4/3)
第15図 43	B1	8層	カムイヤキ 壺 胴部	—	頸部に近い胴部。内外面ヘラ状 工具による回転調整後とナデで 仕上げている。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰(N5/), 芯部は にぶい赤褐(2.5 YR5/4)
第15図 44	B1 南西 サブトレ	8層	カムイヤキ 胴部	—	内外面ヘラ状工具による回転調 整。外面は綾移状の叩き痕。内面 は格子目状の当て具痕が残る。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰(N4/), 芯部は にぶい赤褐(2.5YR 5/4)
第15図 45	C1	8層	カムイヤキ 胴部	—	外面の叩き痕はナデによつて消さ れている。内面はヘラ状工具による 回転調整、格子目状の当て具 痕有り。	—	白色粒	胎:(N4/), 芯部はに ぶい赤褐(2.5YR4/3)
第15図 46	B1 南西 サブトレ	8層	カムイヤキ 小壺 底部	—	底面から丸みを帯びながら立ち上 がる。外面ヘラ削り、回転ナデ。内 面ヘラ状工具による回転調整。焼 成はやや軟質。	底:7.4	白色粒 褐色粒	胎:にぶい赤褐 (2.5YR4/3), 芯部は 青灰(5B5/1)
第15図 47	C1	8層	カムイヤキ 底部	—	内外面ヘラ状工具による回転調 整後ナデ。	底:13.6	白色粒	胎:灰(N5/)
第15図 48	C1	8層	カムイヤキ 底部	—	外面粗いヘラ削り後ナデ。内面ヘ ラ状工具による回転調整。	底:6.8	白色粒 褐色粒	胎:灰赤(2.5YR4/2)、 芯部は緑灰(7.5GY 6/1)
第15図 49	B1	8層	白磁碗 口縁部	底IV	残存部全面に施釉。口縁部が玉 縁状に肥厚する。また、口縁部が 逆「ハ」の字状に開く。貫入有り。	口:17.0	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1) 釉:灰白(7.5Y8/1)
第15図 50	C1	8層	白磁碗 口縁部	森E	外反口縁釉。高台露胎。腰部 に丸味を持つ。やや貫入有り。	口:10.5	黒色粒	胎:灰白(5Y8/1) 釉:青白色の透明釉
第15図 51	C1 サブトレ	8層	白磁皿 口縁部	底IX	外反口縁皿。口縁端部以外施 釉。口縁端部が口差げになったも のである。	口:10.0	褐色粒	胎:灰白(5Y8/7) 釉:灰白(5Y7/1)
第15図 52	C1	8層	白磁皿 底部	森E?	外面腰部まで施釉。腰部から高台 内露胎。見込みに彫刻文。貫 入有り。	底:5.0	黒色粒	胎:灰白(2.5Y8/2) 釉:灰白(2.5Y8/2)
第15図 53	C1	8層	白磁皿 底部	底IX	平底の底部。全面施釉後、外底を 釉剥ぎ。見込みに櫛歯文が施され ている。貫入有り。	底:5.8	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 釉:明オリブ灰 (2.5GY7/1)
第15図 54	B1	8層	青磁碗 口縁部	上CII	直口口縁。残存部全面に施釉。 外面に片切彫の雷文帯。内面にも 簡略化された雷文帯と草花文が みられる。	口:14.6	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/), 緻密 釉:暗緑灰(10GY8/1)

第7表 遺物観察表(8層)④

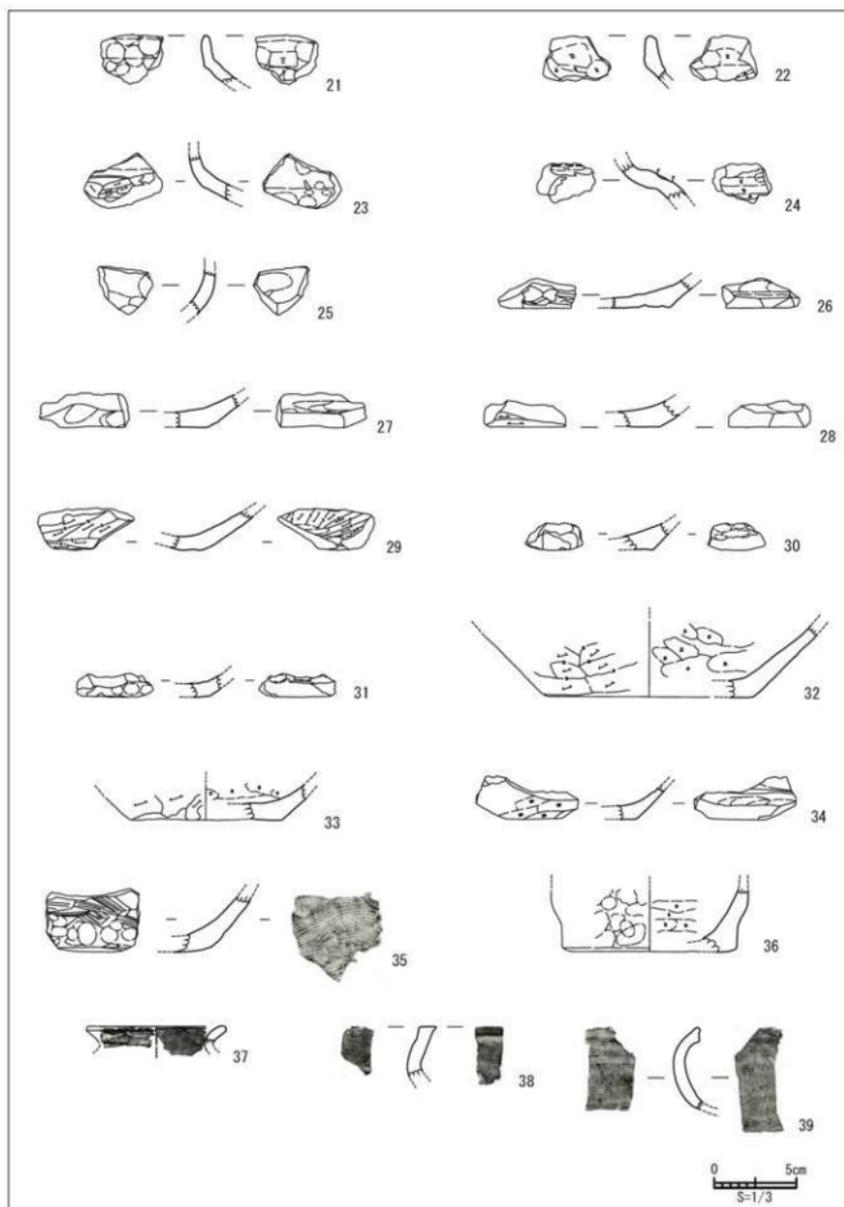
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第15図 55	B2 サブトレ 西	8層	青磁碗 口縁部	上DⅡ	無文外反碗。残存部全面に施釉。口縁部が外反し。内外面に文様の一部がみられる。貫入有り。	φ:17.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y8/1)。 緻密 釉:緑灰(7.5GY 7/1)
第16図 56	C1	8層	青磁碗 口縁部	上CⅡ	直口口縁碗。残存部全面施釉。外面に雷文帯が施されている。	φ:15.0	黒色粒	胎:灰白(5Y8/1) 釉:オリーブ黄(5Y 6/3)
第16図 57	C1	8層	青磁碗 口縁部	上CⅡ	直口口縁碗。残存部全面施釉。外面に雷文帯と下部にラマ式蓮弁を持つ。貫入有り。	φ:13.9	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1) 釉:灰オリーブ(10Y 6/2)
第16図 58	C1	8層	青磁碗 口縁部	上DⅡ	外反口縁碗。残存部全面施釉。貫入有り。	φ:15.4	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰(N6/) 釉:オリーブ灰(2.5GY 6/1)
第16図 59	C1	8層	青磁碗 口縁部	上DⅡ	外反口縁碗。残存部全面施釉。口縁端部に丸みを持つ。貫入有り。	φ:17.2	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 釉:灰白(10Y7/2)
第16図 60	C1	8層	青磁碗 口縁部	上E	直口口縁碗。残存部全面施釉。焼成やや不良。貫入有り。	φ:12.6	白色粒 黒色粒	胎:にぶい楳(7.5YR 6/3) 釉:オリーブ灰(10Y 5/2)
第16図 61	A1	8層	青磁碗 底部	上B	高台内蛇の目輪割ぎ。高台断面ハの字状を呈す。外面の一部に細描蓮弁文がみられる。見込みに團縁と草花文が描かれている。見込みに溶着痕有り。	底:5.5	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 釉:明オリーブ(5GY 7/1)
第16図 62	B1	8層	青磁碗 底部	-	全面に施釉後、高台内蛇の目輪割ぎ。高台断面四角形だが、一部厚みが薄くなっており、やや雑な仕上げになっている。見込みに草花文が描かれている。	底:5.4	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 釉:明オリーブ灰(2.5 GY7/1)
第16図 63	B1	8層	青磁碗 底部	-	高台内蛇の目輪割ぎ。高台断面「ハ」の字状を呈す。外面胴部の一部、文様がみられる。貫入有り。	底:6.4	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/)、緻密 釉:オリーブ灰(10Y 5/2)
第16図 64	C1	8層	青磁碗 底部	上B	高台内面まで施釉。高台断面長方形を呈す。外面に2種類の太さの蓮弁を施す。高台にも細描の削りが施される。見込みに草花文が施されている。發付に溶着痕が付着する。	底:5.6	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 釉:灰オリーブ(10Y 6/2)
第16図 65	C1	8層	青磁皿 口縁部	-	腰折れ外反口縁皿。残存部全面施釉。	φ:11.8	白色粒 黒色粒	胎:灰白(5Y8/1) 釉:灰白(10Y7/2)
第16図 66	C1	8層	青磁皿 口縁部	-	腰折れ外反口縁皿。残存部全面施釉。	φ:12.6	白色粒 黒色粒	胎:灰白(N8/) 釉:オリーブ灰(10Y 6/2)
第16図 67	C1	8層	青磁皿 底部	-	腰折れ皿。見込みと高台脇から高台内露胎。高台の削りが浅い。焼成やや不良。	底:4.0	白色粒 黒色粒	胎:にぶい楳(7.5YR 7/3) 釉:オリーブ灰(10Y 6/2)
第16図 68	C1	8層	青磁皿 底部	-	高台内側まで施釉。高台内の削りが浅い。底面から丸みを帯びて胴部へ移行する。	底:6.8	白色粒 黒色粒	胎:灰白(N8/) 釉:灰白(10Y7/2)
第16図 69	C1	8層	青磁盤 口縁部	-	脚縁盤。残存部全面施釉。内面にへら削りの蓮弁文が施されている。	-	白色粒 黒色粒	胎:灰白(N8/) 釉:灰白(10Y7/2)
第16図 70	C1	8層	青磁盤 口縁部	-	脚縁盤。残存部全面施釉。口縁脚端はつまみ上げられる。内面は胴部に5本脚?による丸彫りの蓮弁文が施されている。細かい貫入あり。	φ:23.2	白色粒 黒色粒	胎:にぶい楳(5YR 7/4) 釉:灰オリーブ(5Y 5/3)

第8表 遺物観察表(8層)⑤

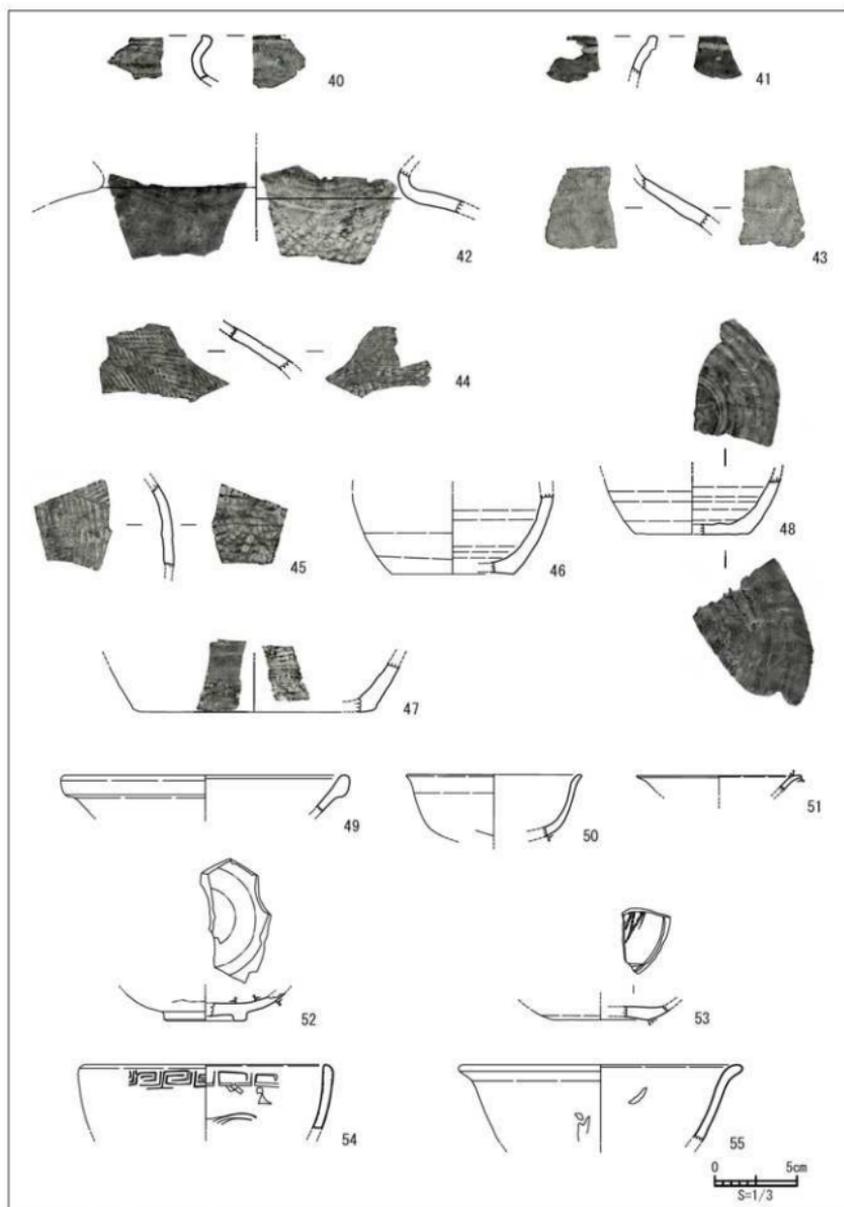
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第16図 71	C1	8層	青磁杯 口～底	大皿4b	口折杯(皿)。器付軸剥ぎ。高台から高台内蓋胎。外面胴部に鑄造弁文を有し、内面見込みに圓線と双魚の胎付文を有する。	口:12.4 底:5.2	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y8/1) 軸:明灰黄緑色
第17図 72	C1	8層	褐釉陶器 壺 胴部	—	外面施釉。内面にも一部施釉。丸みのある薄手の胴部。ロクロ成形。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:にぶい黄橙 (10YR7/2) 軸:黒褐(5YR3/1)
第17図 73	C1	8層	褐釉陶器 壺 胴部	—	四耳壺。外面施釉。内面も頸部切りまでは施釉。ロクロ成形後、内面ナデと指押さえ。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:橙(2.5YR6/6) 軸:灰黄褐(10YR5/2)
第17図 74	B1・C1	8a層	褐釉陶器 把手	—	2条の溝有り。	—	白色粒 黒色粒	胎:灰白(N7/)
第17図 75	C1	8層	黒釉陶器 碗 口縁部	天目	内外面口縁部と外面胴部の一部に褐色釉。内面と外面に黒釉。腰部から露胎。口縁部は緩やかに「く」の字状に折れる。口唇断面尖る。	口:11.6	白色粒 黒色粒	胎:灰白(7.5Y7/1) 軸:内外面口縁部
第17図 76	B1・C1	8b層	黒釉陶器 碗 底部	—	内面と外面高台脇まで施釉。ロクロ成形。高台内の削りが浅い。	底:4.4	白色粒 黒色粒	胎:黄灰(2.5Y6/1) 軸:黒(2.5Y2/1)
第17図 77	C1	8層	石器片	石斧	上部欠損。表面と左側面に研磨痕と敲打痕がみられる。下部に使用による割れがみられる。	—	—	—
第17図 78	C1	8層	石器片	砥石	四面砥面。いずれも使用による細かい傷、磨耗がみられる。	—	—	—
第17図 79	B1	8層	滑石製品	—	石鍋の肥手。鍾状製品?縦横に溝状の削り痕がみられる。	—	—	—
第17図 80	B2	8層	鉄釘	—	上部欠損。錆ぶくれがみられる。	—	—	—
第17図 81	C1	8層	土製品?	—	厚さ2.8cm。平坦な面にはヘラ削り後ナデ消し、他の面は抉りや削りが施されている。	—	—	胎:にぶい黄橙(10YR7/2)～橙(2.5YR6/6)
第17図 82	C2	8層	土製品	—	溝状に4方所削られており、裏面も粗い削りがみられる。	—	—	胎:橙(2.5YR6/6)～灰(N6/)
第17図 83	B1・C1	8a層	骨製品	—	獣骨。下顎骨。	—	—	—



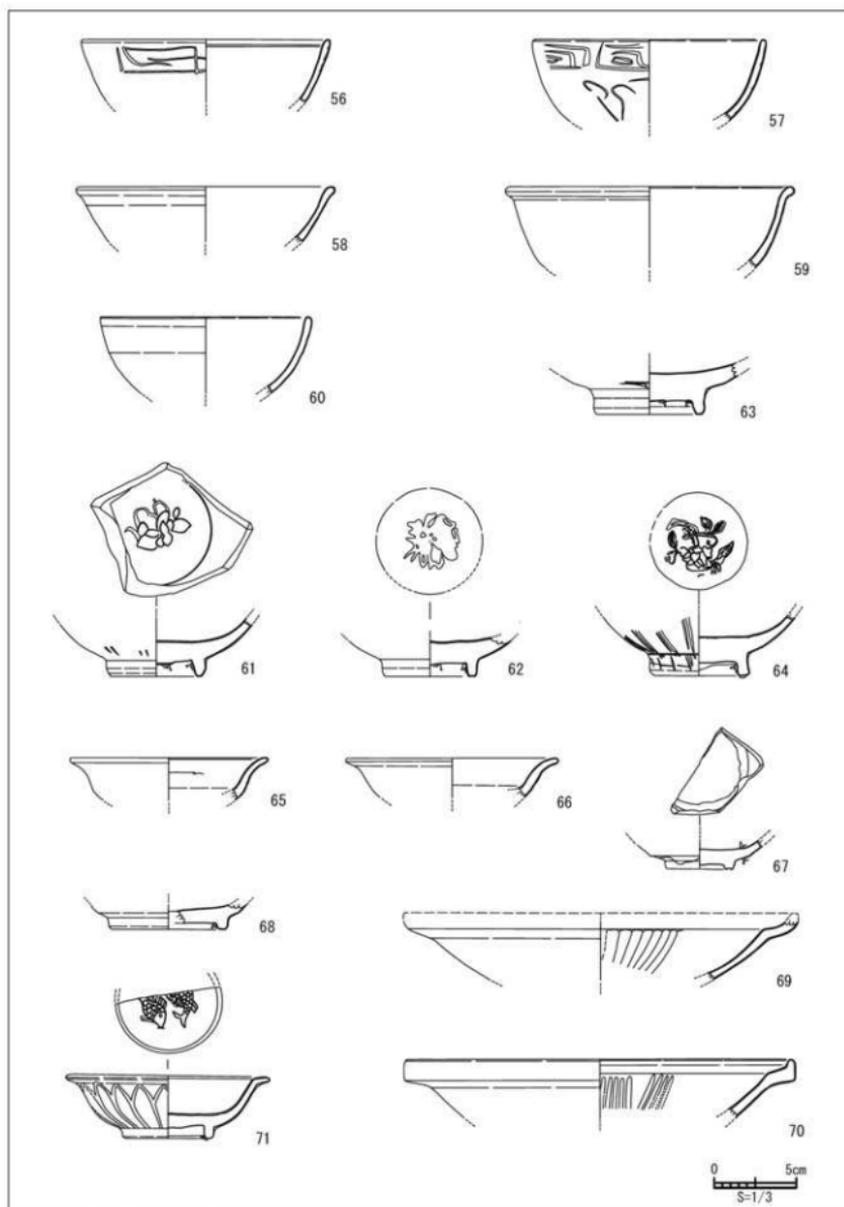
第13図 遺物実測図(8層)①



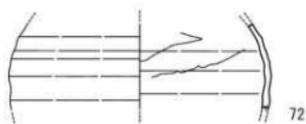
第14図 遺物実測図(8層)②



第15図 遺物実測図(8層)③



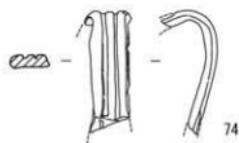
第16図 遺物実測図(8層)④



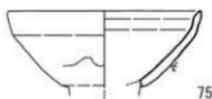
72



73



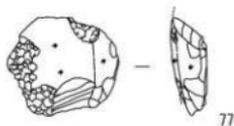
74



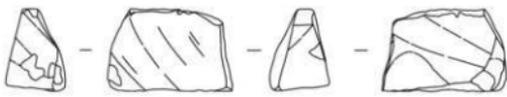
75



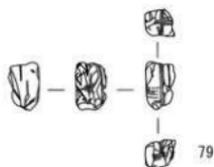
76



77



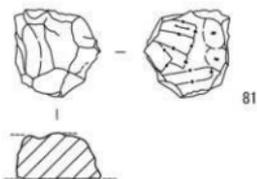
78



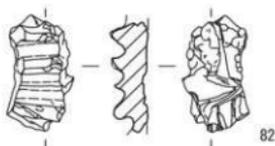
79



80



81



82



83



第17图 遺物実測図(8層)⑤

9層からは、グスク土器 234 点(84~102)、カムイヤキ 15 点(103~106)、白磁 4 点(107~109)、青磁 10 点(110~115)、褐釉陶器 6 点(116)、沖縄産無釉陶器 2 点、石器・石材 22 点(117~123)、鉄片 1 点、獣骨 23 点、魚骨 2 点、焼土 18 点、サンゴ 1 点が出土している。

84~88 は口縁部が内湾するグスク土器の鍋形土器の口縁片である。84・88 は口唇部を平坦に仕上げられており、85 は口唇部をやや尖り気味に調整している。87 は口唇部に丸みを持たせている。

89・90 はグスク土器の壺形土器の口縁片である。89 は口縁部が直口する短頸壺である。90 は口頸部の屈曲はゆるくナデ肩を呈している。

91 はグスク土器の肩部片である。

92~102 はグスク土器の底部片である。92~96 は底面から外側に開いた状態で立ち上がり、やや丸みを持たせながら胴部へ移行している。97・98 も同様のつくりと思われる。99・100 は底面から内側に閉じた状態で立ち上がるものである。101 も 99・100 と同様の形であるが、底部からの立ち上がりにヘラでくびれをつくるものである。

103~106 はカムイヤキの胴部片である。103 は壺であり、外面に綾杉状の叩き痕、内面に格子目状の当て具痕が残っている。

107・108 は白磁碗の口縁片である。107 はピロースクタイプである。108 は口縁部が玉縁状に肥厚しており、大宰府分類Ⅳ類に該当する。

109 は白磁碗の底部片である。腰部から高台内が露胎を呈しており、高台の削りが浅い。大宰府分類Ⅴ類に該当する。

110~112 は青磁碗の口縁片である。110 は外反碗で口縁端部に丸みを持ち、上田分類DⅡ類に該当する。111 は直口口縁で、片切彫の鎗蓮弁文が施されている。上田分類BⅠ類、大宰府分類Ⅱ類またはⅣ類に該当すると思われる。112 は薄手の外反口縁碗で、上田分類D類に該当する。

113・114 は青磁碗の底部片である。どちらも高台断面が四角形を呈し、114 は底部が肥厚している。

115 は青磁皿の口縁片である。器表面はアバタ状を呈す。

116 は褐釉陶器の壺の口縁片である。口縁部が玉縁状を呈しており、外面頸部に 2 条の圈線が施されている。

117~122 は石器片である。117 は敲石である。四角柱のような成形だが、上部が欠損している。下面に敲打痕がみられる。118 は、石斧である。大部分が欠損しており、表裏面が使用によりくぼんでいる。下部も使用により割れている。119 は敲石である。右側面に敲打痕がみられる。120 は下部が欠損している凹石もしくは敲石である。表裏面に敲打によるくぼみがみられ、その表面に磨耗がみられる。121・122 は敲石である。121 は大部分が破損しており、全面的に磨耗している。表面及び左側面に敲打痕がみられる。122 は上面については一部磨耗している。残存部の表裏面には研磨が施されており、使用による敲打痕がみられる。

123 は軽石製品と思われる。全面に削り痕と 2 箇所にかき痕がみられ、錘状製品の可能性がある。

第9表 遺物観察表(9層)①

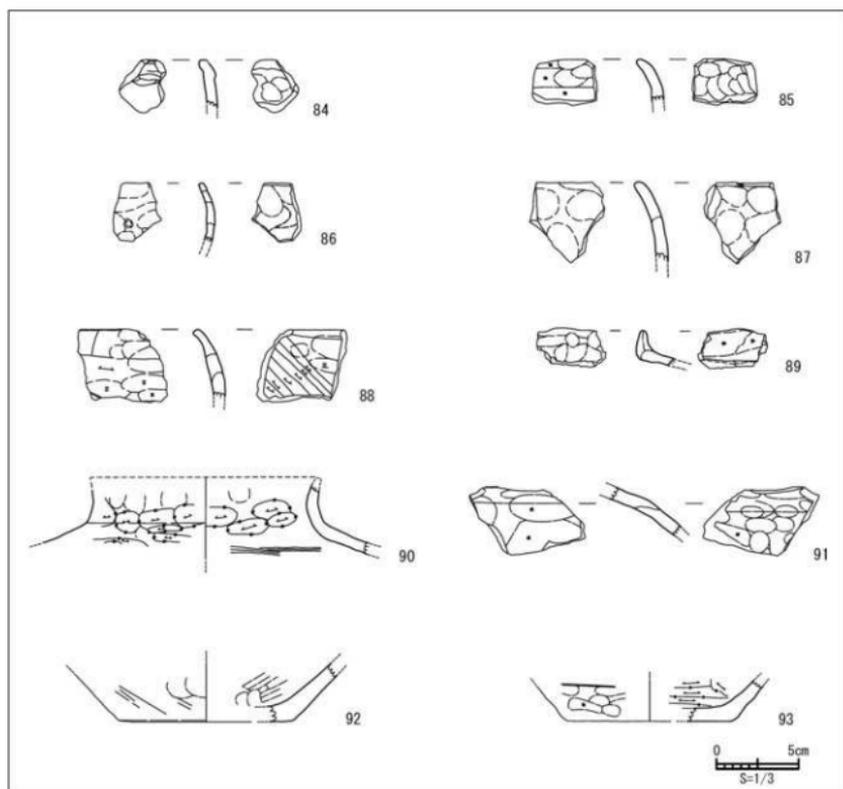
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第18図 84	B1	9層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅰa	口縁部は内湾し、口唇を平坦に仕上げる。内外面ともナデや指圧で調整しており、外面に瘤状突起やらしきものを貼り付けている。	—	黒色粒 (光沢) 光沢粒	胎:にぶい橙(7.5YR 7/4)
第18図 85	B1	9層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅱa	口縁部は内湾し、口唇部をやや尖り気味に調整する。外面はヘラ削り後にナデ消し、内面は指圧痕が残る。やや嫌な仕上げで内外面、若干アバタ状を呈す。	—	黒色粒	胎:淡橙(5YR8/4)
第18図 86	C1	9層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅱb?	口縁部は内湾する。内外面指押さえて調整している。	—	褐色粒	胎:(内)褐灰(7.5YR 5/1)、(外)橙(5YR 6/6)
第18図 87	C1	9層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅰc	口縁部は内湾する。口唇部に丸みを持たせている。内外面ナデ調整。	—	黒色粒 褐色粒	胎:にぶい橙(7.5YR 7/4)
第18図 88	C1	9層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅰa	口縁部は内湾し、口唇を平坦に仕上げる。内外面ヘラ削りとナデ調整。口縁部は指押さえが施されている。若干アバタ状を呈す。	—	褐色粒	胎:橙(2.5YR6/8)
第18図 89	C1	9層	グスク土器 口縁部	壺c	口縁部が直口する短頸壺。内外面ナデと指押さえ調整。焼成やや不良。若干アバタ状を呈す。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y7/1)
第18図 90	C1	9層	グスク土器 口縁部	壺a	口頸部の屈曲はゆるく、ナデ削り。内外面ヘラ削り後ナデ消しが施されている。口縁部付近は指おさえ痕がみられる。アバタ状を呈す。	—	白色粒 褐色粒	胎:橙(5YR7/6)
第18図 91	B1	9層	グスク土器 肩部	—	内外面ナデと指押さえ調整。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰黄(2.5Y7/2)
第18図 92	B1	9層	グスク土器 底部	底Ⅰ	底面から外側に大きく開きながら立ち上がる。外面ヘラ削り後、指ナデ、内面ヘラ削り後、指押さえとナデ調整。	底:10.6	白色粒 黒色粒 褐色粒 光拓粒	胎:橙(2.5YR6/6)
第18図 93	B1	9層	グスク土器 底部	底Ⅰ	底面は開き気味に立ち上がり、やや丸みを持たせながら胴部へ移行する。内面はヘラ削り後にナデ消し、外面も同様の調整だが指圧痕が残る。内外面アバタ状を呈す。	底:9.8	白色粒	胎:橙(2.5YR6/6)
第19図 94	C1	9層	グスク土器 底部	底Ⅰ	外面に指圧痕、内面にも指圧痕とヘラ削り後ナデ消しが施されている。	底:8.4	黒色粒 褐色粒	胎:灰黄褐(10YR6/2)
第19図 95	C1	9層	グスク土器 底部	底Ⅰ	外面粗いヘラ削り。内面指押さえとナデ調整。	底:12.0	褐色粒	胎:灰黄(2.5Y7/2)
第19図 96	C1	9層	グスク土器 底部	底Ⅰ	底面から外面に開いた状態で立ち上がる。外面立ち上がり部分はヘラ削り、底面一部煤ける。内面は指押さえとナデ調整。	底:15.6	白色粒	胎:橙(5YR7/6)
第19図 97	C1	9層	グスク土器 底部	底Ⅰ?	外面ナデ。内面ヘラ削り。	—	白色粒 黒色粒 光沢粒	胎:橙(5YR6/6)
第19図 98	C1	9層	グスク土器 底部	底Ⅰ?	外面指押さえ、内面ヘラ削り後ナデ調整。	—	褐色粒	胎:橙(5YR6/6)
第19図 99	C1	9層	グスク土器 底部	底Ⅱ	底面から内側に閉じた状態で立ち上がり、丸みを保持しながら胴部へ移行する。外面ヘラ削り後ナデ消し、内面指押さえとナデ調整。外面煤けている。	—	褐色粒	胎:橙(5YR6/6)

第10表 遺物観察表(9層)②

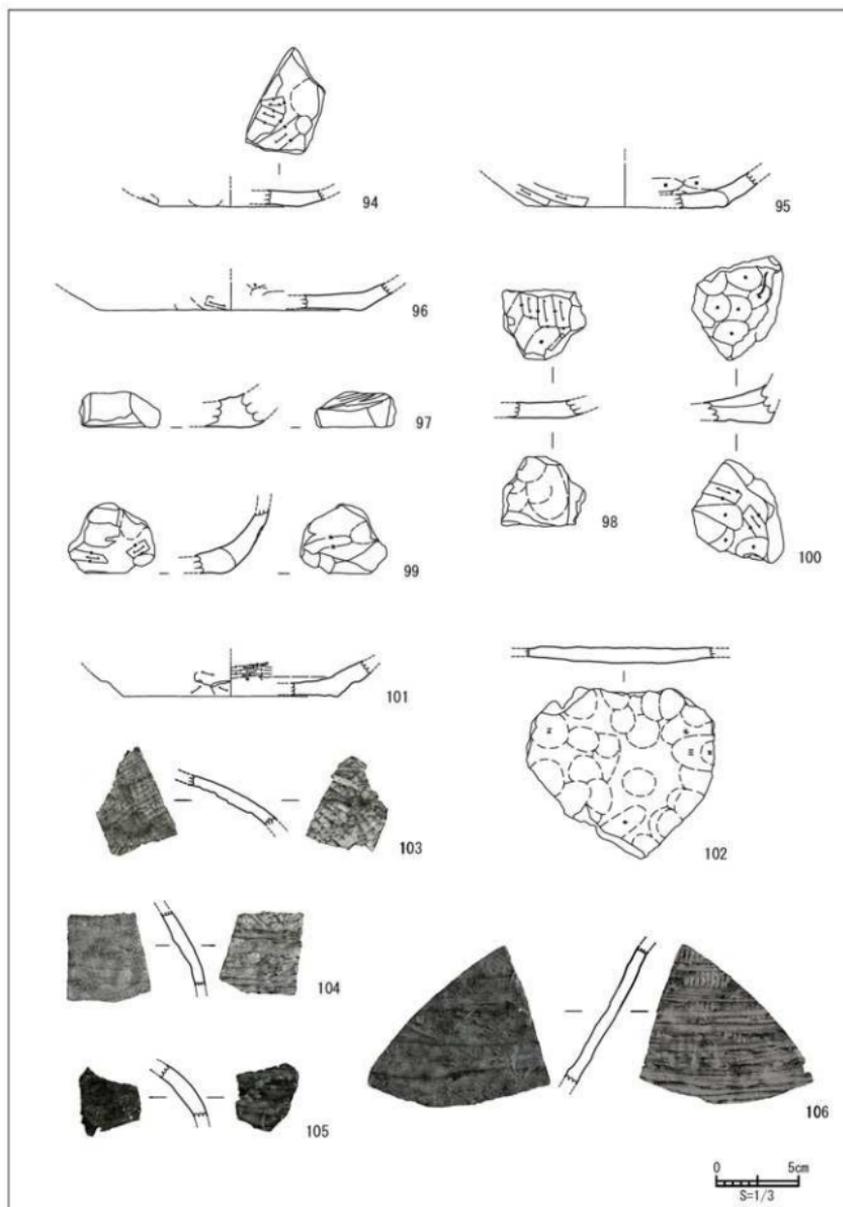
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第19図 100	C2	9層	グスク土器 底部	底II	底面から内側に閉じ気味に立ち上がる。内外面へラ削り後、指押さえとナゲ調整。焼成やや不良。アバタ状を呈す。	—	黒色粒 褐色粒	胎:橙(5YR7/6)
第19図 101	C1	9層	グスク土器 底部	底IV	底面からの立ち上がりは内側に閉じた状態で、丸みを保持しながら胴部へ移行するが、底面からの立ち上がり部分にへラでくびれをつくっている。内面へラ削り後ナゲ消し、ややアバタ状を呈す。	底:13.0	黒色粒 褐色粒	胎:褐灰(5YR5/1)
第19図 102	C1	9層	グスク土器 底部	—	内面は外面より細かなアバタ状を呈し、粗い仕上げ。外面は指押さえとナゲ調整。	—	褐色粒	胎:橙(5YR7/6)
第19図 103	B1	9層	カムイヤキ 壺 胴部	—	内外面へラ状工具による回転調整。外面は縁形状の叩き痕、内面は格子目状の当て具痕がみられる。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰(N4/7)、芯部は 明赤褐(2.5YR5/6)
第19図 104	B1	9層	カムイヤキ 胴部	—	内外面へラ状工具による回転調整。外面ナゲ。内面当て具痕有り。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰(N8/7)、芯部は にぶい赤褐色(2.5YR 4/3)
第19図 105	B1	9層	カムイヤキ 胴部	—	内外面へラ状工具による回転調整。	—	白色粒 黒色粒	胎:灰(5Y6/1)、芯部 はにぶい褐(7.5YR 5/4)
第19図 106	B1	9層	カムイヤキ 胴部	—	内外面へラ状工具による回転調整。外面ナゲ。内面当て具痕有り。	—	白色粒 褐色粒	胎:青灰(5B5/1)、芯 部は赤褐(10R4/3)
第20図 107	A1	9層	白磁碗 口縁部	—	ピロースタイプ。残存部全面に施軸。口縁部は内湾する。	口:19.6	白色粒 黒色粒	胎:灰白(2.5Y7/1) 輪:灰オリーブ(5Y 6/2)
第20図 108	B1	9層	白磁碗 口縁部	大IV	残存部全面に施軸。口縁部が玉縁状に肥厚する。口縁部を逆「ハ」の字状に開く。貫入有り。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1) 輪:灰白(7.5Y8/1)
第20図 109	C1	9層	白磁碗 底部	大XI	腰部から高台内露胎。高台の削りが浅い。見込みに圍縁有り。見込みに重ね焼時の砂が付着している。	底:6.0	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/7) 輪:灰白(7.5Y8/1)
第20図 110	C1	9層	青磁碗 口縁部	上DII	外反口縁碗。残存部全面施軸。口縁端部に丸みを持つ。若干貫入あり。	口:14.6	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰(5Y5/1) 輪:灰白(10Y7/2)
第20図 111	C1	9層	青磁碗 口縁部	上B1、 大II、 大IV?	直口口縁。残存部全面施軸。片彫彫の縞漉弁文。	口:17.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/7) 輪:明オリーブ灰 (2.5GY7/1)
第20図 112	C1	9層	青磁碗 口縁部	上D	比較的薄手の外反口縁碗。残存部全面施軸。	口:16.3	白色粒 黒色粒	胎:灰白(2.5GY7/1) 輪:灰白(10Y7/2)
第20図 113	A1	9層	青磁碗 底部	—	内面と外面胴部から疊付まで白化粧が施されている。高台断面四角形で角を斜めに切り取っている。見込みの一部に貫入有り。	底:6.4	黒色粒	胎:灰白(7.5YR8/2)
第20図 114	B1	9層	青磁碗 底部	—	高台内輪剥ぎ。底部が肥厚している。見込みにへラ削りの文様がみられる。細かい貫入有り。	底:6.0	白色粒	胎:にぶい橙(7.5YR 7/3)、厳密 輪:灰オリーブ(5Y 5/2)
第20図 115	C1	9層	青磁皿 口縁部	—	直口口縁皿。残存部全面施軸。内外面ややアバタ状を呈す。	口:16.2	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(7.5YR8/2) 輪:灰白 (2.5YR8/1)
第20図 116	C1	9層	褐釉陶器 壺 口縁部	—	薄手の壺。残存部全面施軸。口縁部が玉縁状になっている。ロクロ成形。外面頸部に2条の圍縁有り。	口:11.4	白色粒	胎:にぶい赤褐 (2.5YR5/3) 輪:灰(N4/7)
第20図 117	B1	9層	石器片	敲石	四角柱のような成形だが、上部が欠損している。下面に敲打痕がみられる。	—	—	—

第11表 遺物観察表(9層)③

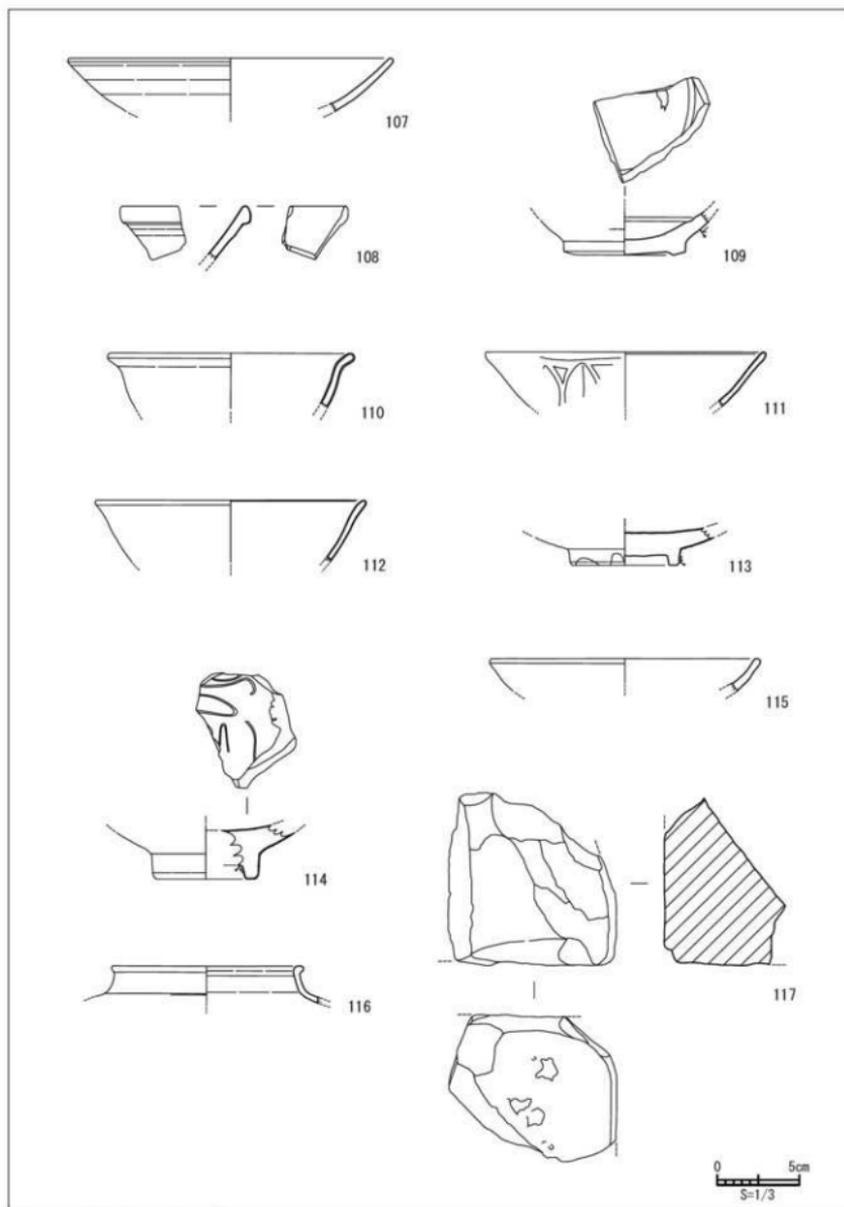
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第21図 118	B1	9層	石器片	石斧	大部分が欠損している。表裏面が使用によりくぼんでいる。下部も使用により割れている。			
第21図 119	B1	9層	石器片	敲石	右側面に敲打痕がみられる。	-	-	-
第21図 120	C1	9層	石器片	凹石 敲石	下部欠損。表裏面に敲打によるくぼみがみられ、その表面に磨耗がみられる。	-	-	-
第21図 121	C1	9層	石器片	敲石	大部分が破損しており、全面的に磨耗している。表面及び左側面に敲打痕がみられる。	-	-	-
第21図 122	B1・C1	9b層	石器片	敲石	上面については一部磨耗している。残存部の表裏面には研磨が施されており、使用による敲打痕がみられる。	-	-	-
第21図 123	C1	9層	石製品?	-	軽石製品? 全面に削り痕があり、2箇所に挟りがみられる。錐状製品か。	-	-	-



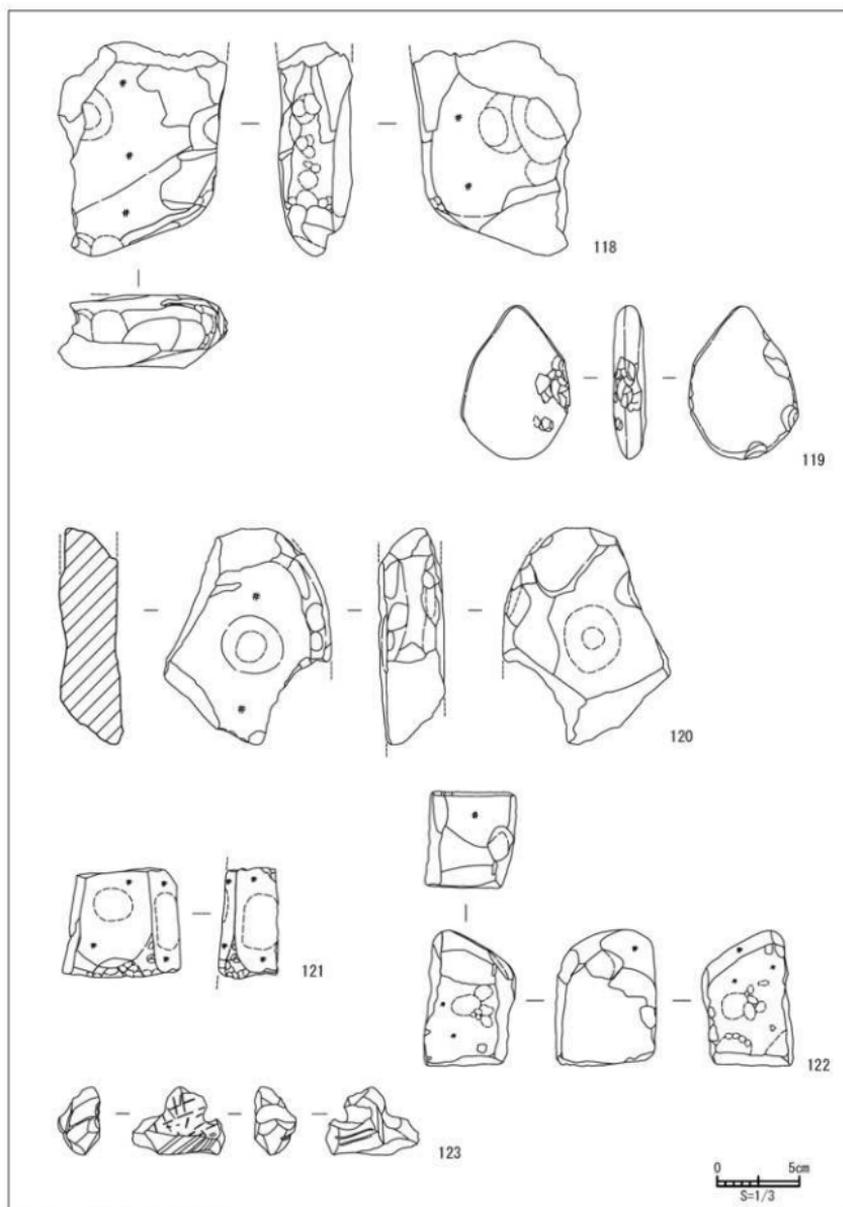
第18図 遺物実測図(9層)①



第19図 遺物実測図(9層)②



第20図 遺物実測図(9層)③



第21図 遺物実測図(9層)④

10層からは、グスク土器96点(124~129)、カムイヤキ4点(130・131)、白磁3点、青磁4点(132・133)、褐釉陶器1点(134)、石器・石材8点(135~138)、海産貝2点、獣骨18点、魚骨1点、獣歯1点、焼土14点、炭化物2点が出土している。

124はグスク土器の鍋形土器の口縁片である。口縁部は内湾し、口唇部を尖り気味に調整している。

125はグスク土器の壺形土器の口縁片である。口頸部が外側に強く屈曲している。

126はグスク土器の碗形土器の口縁片である。口唇部は平坦で、外端をやや尖り気味に突出させている。

127~129はグスク土器の底部片である。底面から外側に開いた状態で立ち上がり、やや丸みを持たせながら胴部へ移行している。

130はカムイヤキの壺の口縁片である。外面胴部の稜杉状の叩き痕をナゲ消しており、頸部付近に2箇所の穿孔がみられる。また、一部に製作者による文様らしきものが施されている。

131はカムイヤキの胴部片であり、外面に平行線文の叩き痕、内面に格子目状の当て具痕が残っている。

132は青磁碗の口縁片である。薄手の直口口縁碗であり、口縁端部に輪花を持つ。

133は口縁部が外反する青磁皿の口縁片である。

134は褐釉陶器壺の底部片である。内面に成形時の凹線が残っている。

135~137は石器片である。135は敲石である。表裏面は磨耗しており、右側面に敲打痕がみられる。上部は破損し、下部は三角状に尖る。136は大部分が破損している。表面に研磨痕がみられる。137は大部分が破損しており、表面中央には敲打によるくぼみがみられる。右側面に使用による割れがみられる。

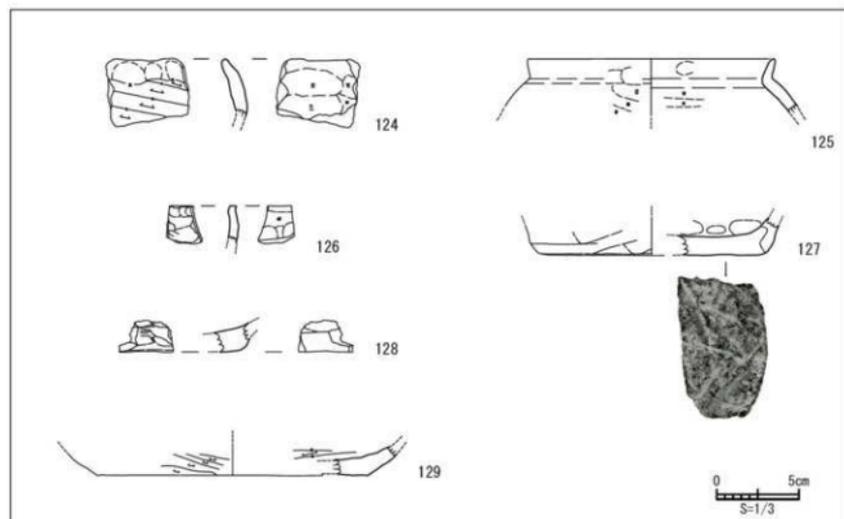
138は滑石製品である。石鍋の口縁部に削りや抉りを施した転用品である。

第12表 遺物観察表(10層)①

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第22図 124	C1	10層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅱa	口縁部は内湾し、口唇を尖り気味に調整する。外面は指押さえてへら削り後ナゲ消し、内面はナゲ調整。アバタ状を呈す。	—	褐色粒	胎:灰黄褐(10YR5/2)
第22図 125	C1	10層	グスク土器 口縁部	壺b	口頸部が外側に強く屈曲する。内外面ナゲ調整。	口:14.9	黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎:灰黄(2.5Y7/2)
第22図 126	B1	10層	グスク土器 口縁部	碗Ⅳ	口唇部は平坦で外端をやや尖り気味に突出させる。内外面ナゲと指押さえて仕上げる。	—	黒色粒	胎:浅黄橙(10YR8/3)
第22図 127	B1	10層	グスク土器 底部	底Ⅰ	底面からの立ち上がりは外側に大きく開いた状態で丸みを持たせながら胴部へ移行する。外面へら削り後ナゲ消し。内外面指押さえが明確に残る。	底:13.8	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:(内)灰黄褐(10YR5/2)、(外)明赤褐(2.5YR5/8)
第22図 128	B1	10層	グスク土器 底部	底Ⅰ	底面からの立ち上がりは外側に開いた状態で、若干丸みを持たせながら胴部へ移行する。外面へら削り、内面指押さえが残る。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:橙(2.5YR6/8)
第22図 129	C1	10層	グスク土器 底部	底Ⅰ	底面から外側に開いた状態で立ち上がる。外面へら削り、内面へら削り後ナゲ消しと指押さえて調整。	底:16.4	黒色粒 褐色粒	胎:(外)橙(7.5YR7/6) (内)灰白(2.5Y8/1)

第13表 遺物観察表(10層)②

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第23図 130	C1	10層	カマイヤキ 壺 口縁部	—	外面はヘラ削りと胴部に綾杉状の 叩き痕をナデで消している。内面は ヘラ状工具による回転調整。頸部付 近に穿孔が2箇所みられる。また一 部に製作者による文様?が施されて いる。	口:7.0	白色粒	胎:にぶい赤褐色(2.5 YR4/3)、芯部は緑灰 (7.5GY6/1)
第23図 131	B1	10層	カマイヤキ 胴部	—	器壁は薄く、外面平行線文の 叩き痕、内面に格子目状の当て 具痕が残る。	—	白色粒	胎:灰(N4/)、芯部は 暗赤褐(5YR3/3)
第23図 132	B1	10層	青磁碗 口縁部	大皿?	直口口縁碗。残存部全面施釉。 口縁端部に輪花を持つ。薄手で軸 も薄く塗布されている。貫入あり、聖 懸。	口:14.2	白色粒 黒色粒	胎:灰(N7/) 軸:灰オリーブ(7.5Y 5/2)
第23図 133	B1	10層	青磁皿 口縁部	—	外反口縁皿。残存部全面施 釉。貫入有り。	口:13.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/)、緻密 軸:灰オリーブ(7.5Y 6/2)
第23図 134	B1	10層	褐釉陶器 壺 底部	—	器壁は薄く、底部から胴部へ開 きながら立ち上がる。ロクロ成形。 内面に成形時の閉線が残る。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:(外)褐灰(5YR 6/1)、(内)明褐灰 (7.5YR7/1)
第23図 135	B1	10層	石器片	敲石	表裏面は磨耗しており、右側面 に敲打痕がみられる。上部は破損 し、下部は三角状に尖る。	—	—	—
第23図 136	B1	10層	石器片	—	大部分が破損している。表面に 研磨痕がみられる。	—	—	—
第23図 137	B1	10層	石器片	凹石	大部分が破損している。表面中央 には敲打によるくぼみがみられる。右 側面に使用による割れがみられる。	—	—	—
第23図 138	B1	10層	滑石製品	—	石鏡の口縁部。割れ面に削り痕 が見られる。内面に円形状の挟り が見られる。外面口唇部に縦文、口縁 部にも斜位に挟りが見られる。	—	—	—



第22図 遺物実測図(10層)①



130



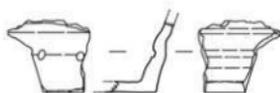
131



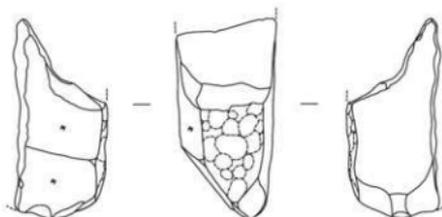
132



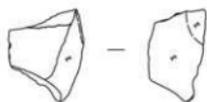
133



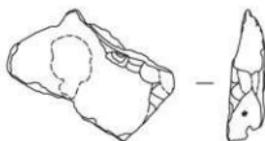
134



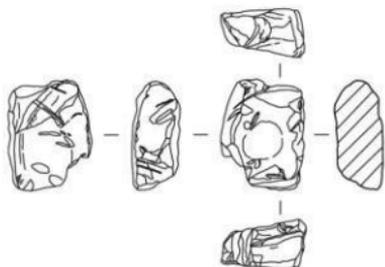
135



136



137



138



第23図 遺物実測図(10層)②

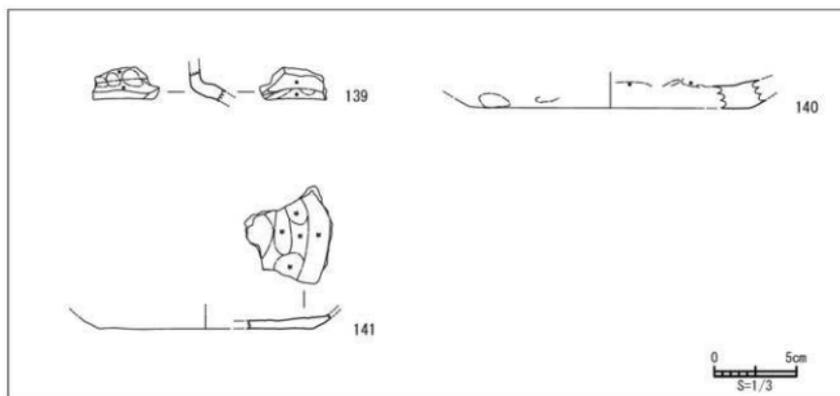
11層からは、グスク土器24点(139～141)、カマイヤキ3点、鉄片2点、獣骨1点、焼土10点、炭化物1点、その他3点が出土している。

139はグスク土器の壺の頸部片である。

140・141はグスク土器の底部片であり、底面から外側に開いた状態で立ち上がり、やや丸みを持たせながら胴部へ移行している。

第14表 遺物観察表(11層)

図／番号	出土区	出土層位	遺物種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第24図 139	C2	11層	グスク土器 頸部	壺c	内外面へラ削り後、指押さえとナゲ調整。	—	白色粒 褐色粒	胎: 橙(5YR6/6)
第24図 140	C2	11層	グスク土器 底部	底I	底面から開き気味に立ち上がる。外面へラ削り後ナゲ。内面指押さえとナゲ調整。焼成やや不良。僅かにアバタ状を呈す。	底:17.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎: 橙(5YR7/6)～ 褐灰(10YR6/1)
第24図 141	C2	11層	グスク土器 底部	底I	器厚が薄い。底面から外側に開き気味に丸みを帯びて立ち上がる。外面ナゲ。内面指押さえとナゲ調整。焼成やや不良。アバタ状を呈す。	底:13.0	白色粒 褐色粒	胎: にぶい橙(7.5YR 7/4)～褐灰(10YR 5/1)



第24図 遺物実測図(11層)

12層からは、グスク土器 19 点(142)、白磁 1 点、青磁 1 点、石器・石材 4 点(143)、獣歯 1 点、焼土 2 点、炭化物 2 点が出土している。

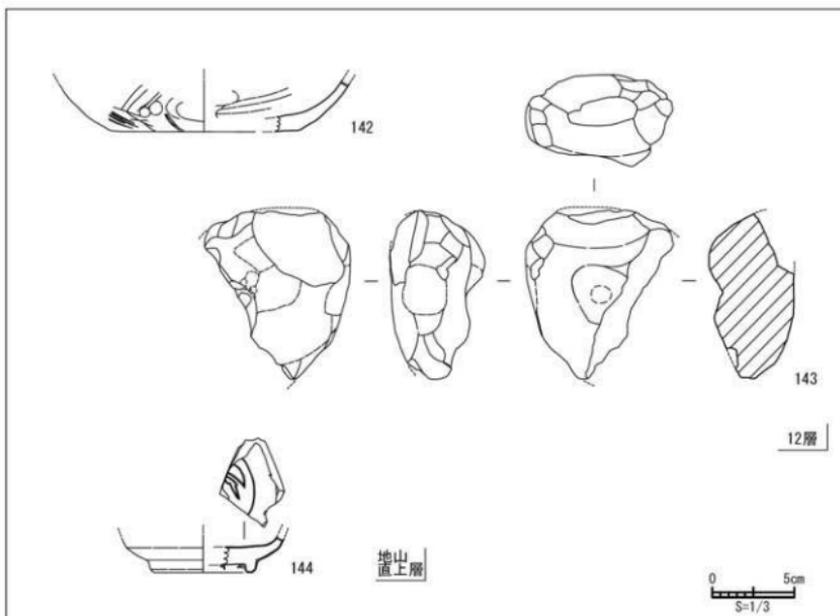
142 は底部片であり、底面から外側に開いた状態で立ち上がり、やや丸みを持たせながら胴部へ移行している。

143 は石器片である。凹石であり、表裏面に敲打によるくぼみがみられ、上面と左側面に敲打痕がみられる。

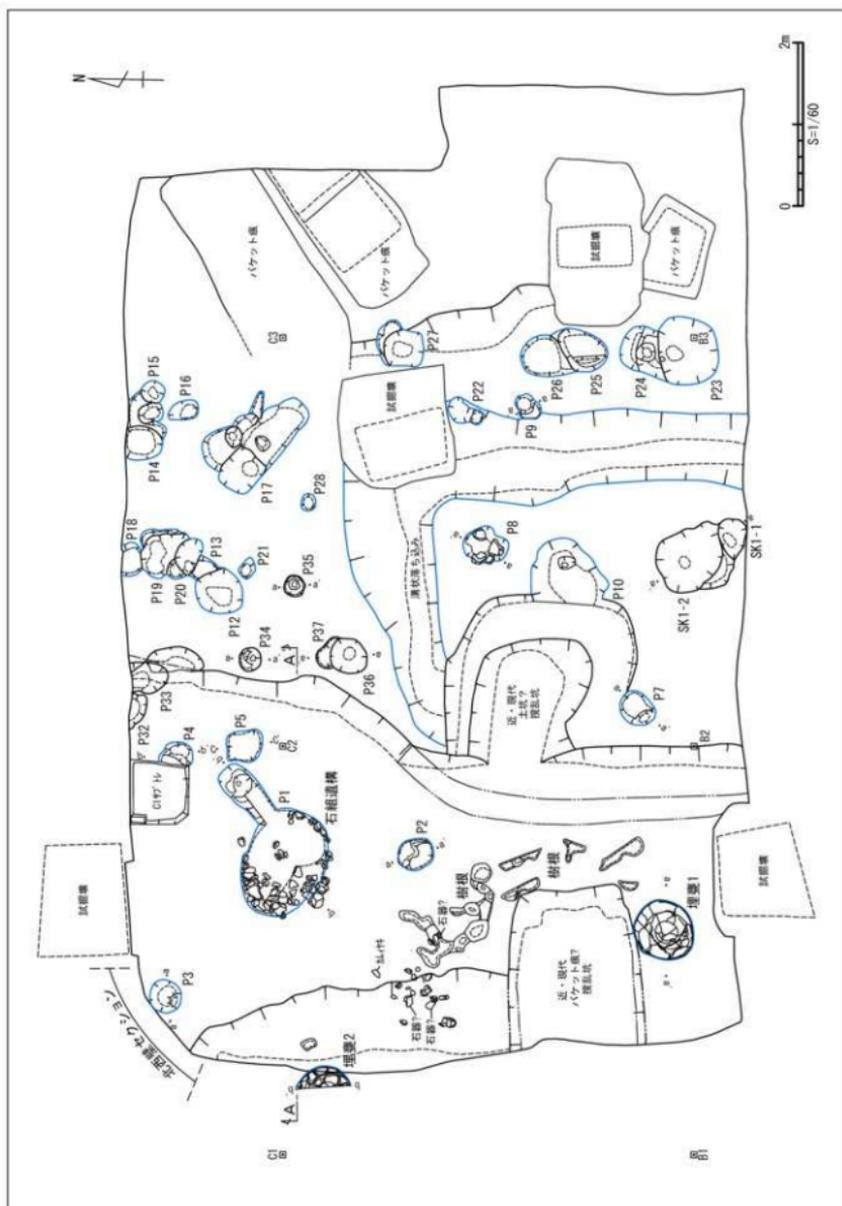
地山直上層からは、青磁皿 1 点(144)が出土している。腰部が屈曲しており、見込みに圏線と草花文が施されている。

第15表 遺物観察表(12・地山直上層)

図／番号	出土区	出土層位	遺物種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土混入物	色調
第25図 142	B1	12層	グスク土器 底部	底1	底面から外側に丸みを持たせながら立ち上がる。外側はヘラ削り後ナゲ調整で指押さえが残る。内面ナゲ調整。ややアバタ状を呈す。	底:11.6	白色粒 褐色粒 光沢粒	胎:(外)橙(2.5YR6/6) (内)にぶい橙(5YR 6/4)
第25図 143	B1	12層	石器片	凹石	表裏面に敲打によるくぼみがみられ、上面と側面に敲打痕がみられる。	—	—	—
第25図 144		地山直上層	青磁皿 底部	—	高台内を蛇の目輪割ぎ。腰部が屈曲する。見込みに圏線と草文有り。	底:6.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 釉:灰白(2.5GY8/1)



第25図 遺物実測図(12層・地山直上層)



第26図 近世～近現代の遺構検出平面図(青線)

4. 近世～近現代

(1) 遺構

埋甕遺構 2 基、溝状落ち込み 1 基、石組遺構 1 基、土壇 1 基、攪乱墳 1 基、複数の小穴が確認されている。その他にも、近現代の赤瓦住居解体時のものと思われる重機痕 4 基を検出した。

[1] 埋甕遺構

① 埋甕遺構 1 (第 27 図、第 28～30 図 145～164、第 16・17 表 145～164、図版 81～91、145～164)

埋甕遺構 1 は、B1 グリッドの南側から検出された。沖縄産無釉陶器であり、そのサイズは、残存箇所での最大径 73.8 cm、内底径 25～26 cm、外底径 30.6 cm、内底までの深さは最大で 63.6 cm である。埋甕の内側には漆喰が約 1 cm 塗られており、貯蔵用または水甕としての用途があったと思われる。また、埋甕の覆土は 2 層に分けることができ、1 層の黄褐色土からは、染付 1 点、日本産陶器 1 点(145)、沖縄産施釉陶器 2 点、沖縄産無釉陶器 8 点(146)、近現代磁器 2 点、鉄製品 1 点、獣歯 1 点、ランプ 1 点、瓶 2 点が出土している。出土遺物から、住居に伴うかたちで近現代まで使用されたと考えられる。2 層は鉄鍋のサビの影響等により赤っぽくなっているが、1 層と同じ黄褐色土であると思われる。内部の覆土からは、褐釉陶器 1 点、日本産陶器 2 点(147・148)、沖縄産施釉陶器 9 点(149～151)、沖縄産無釉陶器 19 点(埋甕遺構 1 を含む)(152)、近現代磁器 20 点(153～164)、鉄鍋 1 点、軽石 1 点、獣骨 1 点、獣歯 1 点、海産貝 6 点、赤瓦 2 点、プラスチック製品 1 点、ランプ 2 点、瓶 4 点、板ガラス 1 点、不明ガラス製品 1 点が出土している。

145 は日本産陶器の小碗である。147 と同一製品である。

146 は沖縄産無釉陶器の瓶子である。頸部から底部までが残存しており、外面から内面口縁部途中までを泥釉で施釉し、畳付から高台内は露胎を呈している。文様は肩部に 2 条の沈線が巡る。

147・148 は、日本産陶器の小碗である。

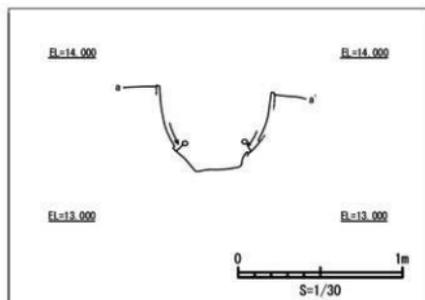
147 は黒褐色で松が描かれており、145 と同一製品である。148 は桜の型紙を貼り付け、吹きつけによる文様を施している。細かい貫入がみられる。

149・150 は沖縄産施釉陶器碗の口縁部から底部までが残る碗である。外面に褐釉とコバルト釉で花文を施している。151 は沖縄産施釉陶器碗の口縁片である、外面に褐釉と呉須で花文のような文様を施している。

152 は埋甕遺構 1 である。

153・154 は近現代磁器碗である。153 はスンカンマカイである。154 は直口口縁で、外面に菱形文と草花文が施されている。

155～159 は近現代磁器皿である。155～158 は銅版転写による文様が施されており、159 はクロム青磁



第27図 埋甕遺構1断面図

である。内面に梅の花(盛り絵)と草文が施されている。

160～163は近現代磁器小碗である。160は外面に梵字と篆文、圏線が施されている。161は無文の直口口縁碗である。162は染付による花文が描かれている。163は軍杯であり、文様が剥離している。

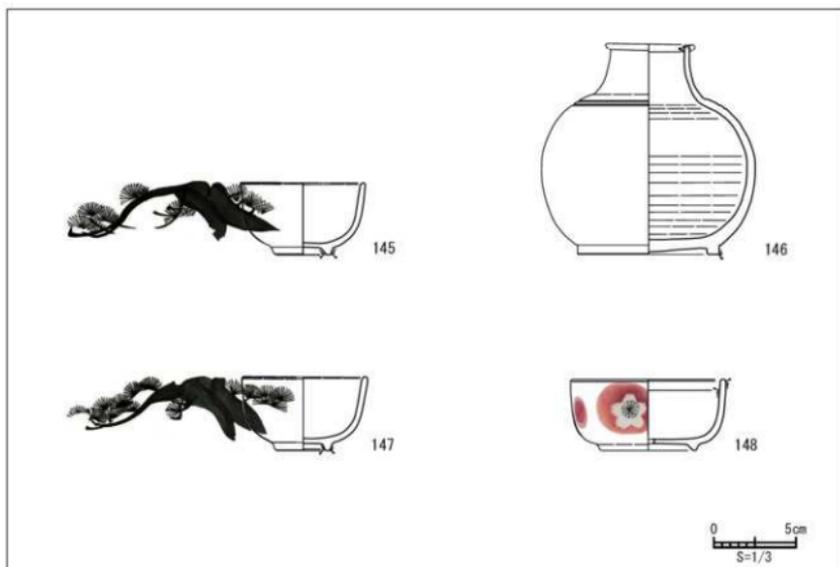
164は近現代磁器の急須である。外面に草文が描かれており、胴部下に2条の圏線有り。

第16表 遺物観察表(埋喪1)①

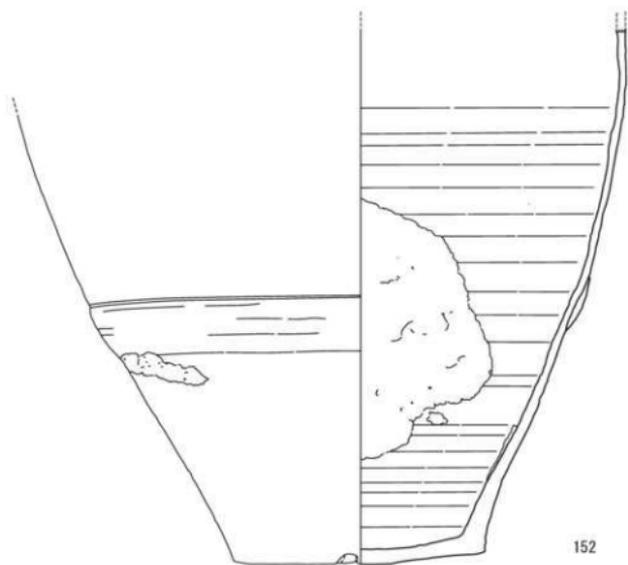
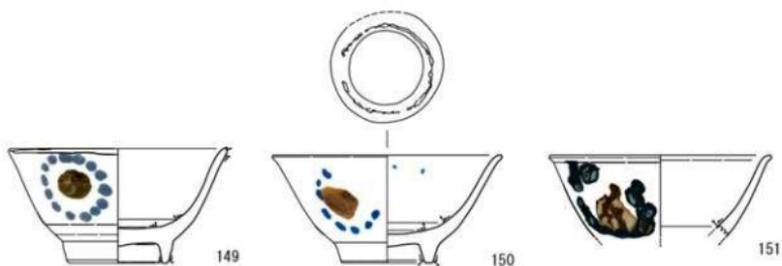
図／ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第28図 145	B1	1層	近現代 陶器小碗 口～底	—	全面施釉後、疊付軸割ぎ。黒褐色で松が描かれている。貫入有り。147と同一製品。	口:7.5 底:3.3	黒色粒	胎:灰白(2.5YR/2) 軸:透明軸
第28図 146	B1	1層	沖調産 無軸陶器 瓶子 頸～底	—	泥軸が外面～内面口縁部途中まで施釉。疊付から高台内は露胎。肩部に2条の沈線が巡る。	底:8.6	白色粒	胎:橙(2.5YR6/8) 軸:灰軸(7.5YR4/2) の泥釉
第28図 147	B1	2層	近現代 陶器小碗 口～底	—	全面施釉後、疊付軸割ぎ。黒褐色で松が描かれている。貫入有り。145と同一製品。	口:7.6 底:3.3	黒色粒	胎:灰白(2.5YR/2) 軸:透明軸
第28図 148	B1	2層	近現代 陶器小碗 口～底	—	全面施釉後、疊付、口唇部から口縁内面軸割ぎ。桜の型紙を貼り付け、真紅色を吹きつけている。また楕円形にも吹きつけている。貫入有り。	口:9.1 底:5.8	黒色粒	胎:灰白(2.5YR/2) 軸:透明軸
第29図 149	B1	2層	沖調産 施釉陶器 碗 口～底	—	見込みを蛇の目に、疊付軸割ぎ。ロクロ成形。外面に褐釉とコバルト軸で花文を施している。	口:13.0 底:6.0	白色粒 黒色粒	胎:灰(5Y6/1) 軸:無軸。白化粧のみ。
第29図 150	B1	2層	沖調産 施釉陶器 碗 口～底	—	見込みを蛇の目に、疊付も軸割ぎ。外面に褐釉とコバルト軸で花文を施している。見込みに重ね焼き痕有り。	口:14.0 底:5.4	白色粒 黒色粒	胎:灰(5Y6/1) 軸:透明軸
第29図 151	B1	2層	沖調産 施釉陶器 碗 口縁部	—	外反口縁碗。残存部全面施釉。外面に褐釉と呉須で花文のような文様を施す。	口:13.4	白色粒 黒色粒	胎:灰白(2.5YR8/2) 軸:薄く透明軸が施される。
第29図 152	B1	埋喪1	沖調産 無軸陶器 甕 胴～底	—	胴部に1条の沈線と、その下にやや凸帯が巡る。内側に漆喰が約1cm塗られている。	底:30.6	白色粒 黒色粒	胎:明赤褐(2.5Y5/6)
第30図 153	B1	2層	近現代 磁器碗 口～底	—	スキャンマカイ。全面施釉後、疊付軸割ぎ。外反碗。型紙刷り。外面は唐草地・玉花卉、腰部に柳文、見込みに玉花卉、内唇に玉花卉帯がめぐる文様。	口:12.7 底:4.5	—	胎:白色 軸:透明軸
第30図 154	B1	2層	近現代 磁器碗 口～底	—	直口口縁碗。全面施釉後、疊付軸割ぎ。外面に菱形文と草花文が施されている。	口:12.0 底:4.0	—	胎:白色、緻密 軸:透明軸
第30図 155	B1	2層	近現代 磁器皿 口～底	—	全面施釉後、口唇部と疊付軸割ぎ。ロクロ成形。内面に銅版転写で文様が施されている。157と同一製品。	口:13.0 底:7.6	—	胎:白色、緻密 軸:透明軸
第30図 156	B1	2層	近現代 磁器皿 口～底	—	全面施釉後、口唇部と疊付軸割ぎ。内面に銅版転写で太極文様が施されている。	口:14.8 底:8.5	—	胎:白色、緻密 軸:透明軸
第30図 157	B1	2層	近現代 磁器皿 口～底	—	全面施釉後、口唇部と疊付軸割ぎ。ロクロ成形。内面に銅版転写による文様が施されている。155と同一製品。	口:12.8 底:7.4	—	胎:白色、緻密 軸:透明軸

第17表 遺物観察表(埋壘1)②

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第30図 158	B1	2層	近現代 磁器皿 口～底	—	全面施釉後、口唇部と畳付軸割ぎ。銅版転写による文様が施されている。内面は花・草・見込みは四喜、口縁。	口:12.6 底:6.6	—	胎:白色、緻密 釉:透明釉
第30図 159	B1	2層	近現代 磁器皿 口～底	—	クロム青磁皿。瀬戸・美濃。内面に梅の花(盛り絵)と草文がある。文様色は緑色。	口:10.4 底:6.2	—	胎:白色、緻密 釉:明緑灰(10GY 8/1)
第30図 160	B1	2層	近現代 磁器小碗 口～底	—	全面施釉後、畳付軸割ぎ。胴部に丸味を帯びながら直口に立ち上がる。外面に梵字と帯文、口縁、高台際に圈線有り。高台にも2条の圈線有り。	口:7.2 底:3.2	黒色粒	胎:白色、緻密 釉:透明釉
第30図 161	B1	2層	近現代 磁器小碗 口～底	—	直口口縁碗。無文。全面施釉後、畳付軸割ぎ。	口:8.4 底:3.3	黒色粒	胎:白色、緻密 釉:透明釉
第30図 162	B1	2層	近現代 磁器小碗 口～底	—	直口口縁碗。全面施釉後、畳付軸割ぎ。クロコ成形。染付による花文が描かれている。	口:8.0 底:3.4	白色粒 黒色粒	胎:灰白(5Y8/1)緻密 釉:透明釉
第30図 163	B1	2層	近現代 磁器小碗 口～底	—	軍杯。全面施釉後、畳付軸割ぎ。日草旗が剥離している。	口:7.9 底:3.0	黒色粒	胎:白色、緻密 釉:透明釉。やや薄く青みがかる。
第30図 164	B1	2層	近現代 磁器急須 口～底	—	内面口縁部蓋受けから頸部、外面底部軸割ぎ。外面に草文が描かれており、胴部下に2条の圈線有り。	口:7.7 底:7.6	白色粒 黒色粒	胎:灰白(5Y8/1) 釉:灰白(2.5GY8/1) より薄い色。



第28図 遺物実測図(埋壘1)①



第29図 遺物実測図(埋壘1)②



第30图 遗物实测图(埋冢1)③

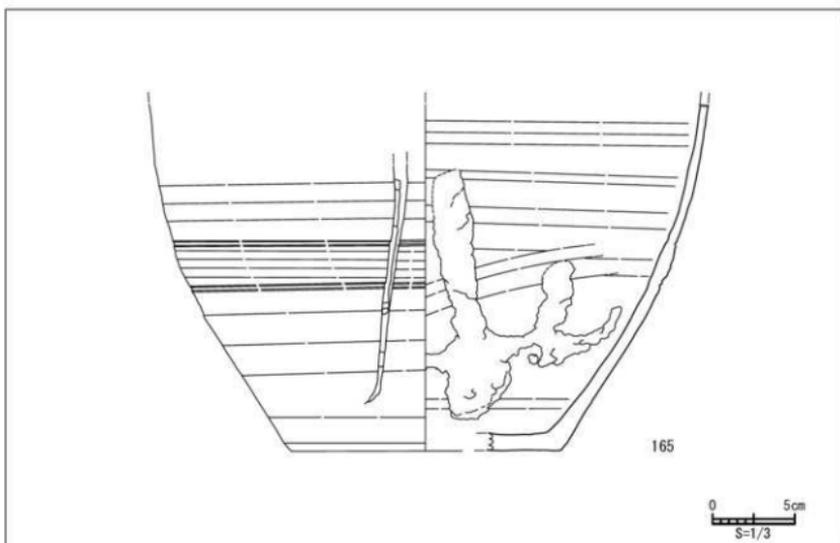
② 埋甕遺構 2 (第 8 図、第 31 図 165、第 18 表 165、図版 92・93、165)

埋甕遺構 2 は、B1 グリッドの北西側から検出された。甕の西側半分が西壁に入り込む状態で、沖縄産無釉陶器の胴部以下が検出されている。そのサイズは、残存箇所で最大径 68 cm、内底径 30 cm、外底径 32.6 cm、内底までの深さは最大で 40.4 cm である。埋甕遺構 1 とほぼ同じ大きさの甕である。甕の内側には、埋甕遺構 1 と同様に亀裂が走る箇所に漆喰で補修がなされている。覆土も 2 層に分けることができ、下層は砂利が混ざる。覆土からは、沖縄産施釉陶器 2 点、沖縄産無釉陶器 4 点、獣骨 2 点、獣歯 2 点、赤瓦 2 点、漆喰 2 点、プラスチック製品 1 点、不明 1 点が出土している。

内、埋甕(165)のみを図化している。

第18表 遺物観察表(埋甕2)

図／番号	出土区	出土層位	遺物種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土混入物	色調
第31図 165	B1	埋甕2	沖縄産無釉陶器 甕 胴～底	—	胴部下部に2条の沈線を通らせる。内面の亀裂が走る箇所に漆喰で補修を行っている。	底:32.6	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:(外)赤褐(2.5YR 4/8)、(内)褐灰(10 YR5/1)



第31図 遺物実測図(埋甕2)

[2]溝状遺構（第8図）

B2グリッドの2b層を掘り下げると、グリッド中央やや北側に東西軸状に溝状の遺構のようなものを確認した。また、その西側から南北軸状にも、溝状に落ちこんでいることを確認した。この箇所の掘り下げを行ったところ、オリーブ褐色、オリーブ黒色、黄褐色の土がまだら状に混じっており、土質は粘性がある。幅が約60～120cm、深度が約20～36cmである。

溝状落ち込み内からは、グスク土器3点、青磁2点、褐釉陶器1点、石1点、獣骨9点、獣歯3点、魚骨1点、沖縄産陶器2点、赤瓦1点、鉄片1点、焼土21点、炭化物1点が出土している。

[3]石組遺構（第32図、第33図166～171、第19表166～171、図版94～97、166～171）

本遺構はB1・C1グリッド間に位置しており、近世層である5層から検出された。土色は、オリーブ褐色(Hue.2.5Y4/3)に黄灰色(Hue.2.5Y4/1)が混ざるが、全体的にオリーブ褐色である。平面形は楕円形を呈しており、最大径約134cm、残存の深度約44cm、石の大きさは約5～23cmで、石材は石灰岩である。覆土を確認するため少し掘り下げると、石が詰められている状態が確認できた。また、C1グリッドのP1とつながった形態となっており、覆土も類似している。P1が石組遺構に切られていると思われる。

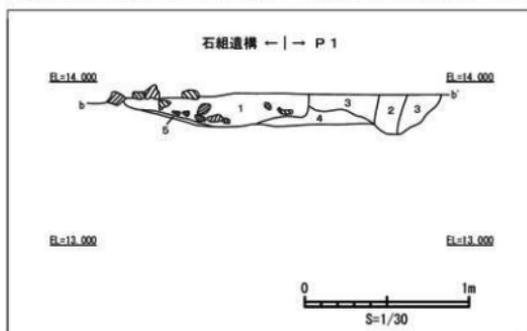
遺物は、1層からは、グスク土器2点、褐釉陶器3点、沖縄産施釉陶器28点、沖縄産無釉陶器11点、近現代磁器1点、鉄片1点、石材1点、獣骨14点、獣歯2点、魚骨1点、海産貝5点、焼土4点、サンゴ4点、炭化物2点、ガラス片2点、2層からは、グスク土器1点、青磁1点(166)、褐釉陶器1点(167)、沖縄産施釉陶器8点(168～171)が出土している。

166は青磁碗の口縁片である。口縁部がやや内湾する。上田編年E類に該当する。

167は褐釉陶器の壺の底部であり、内面のロクロ痕が明瞭に残っている。

168～170は沖縄産施釉陶器碗である。168は、内外面にコバルト釉で菊唐草文を施している。169・170は底部であり、見込みを蛇の目に釉剥ぎしており、畳付も釉剥ぎしている。見込みには重ね焼き痕が残る。

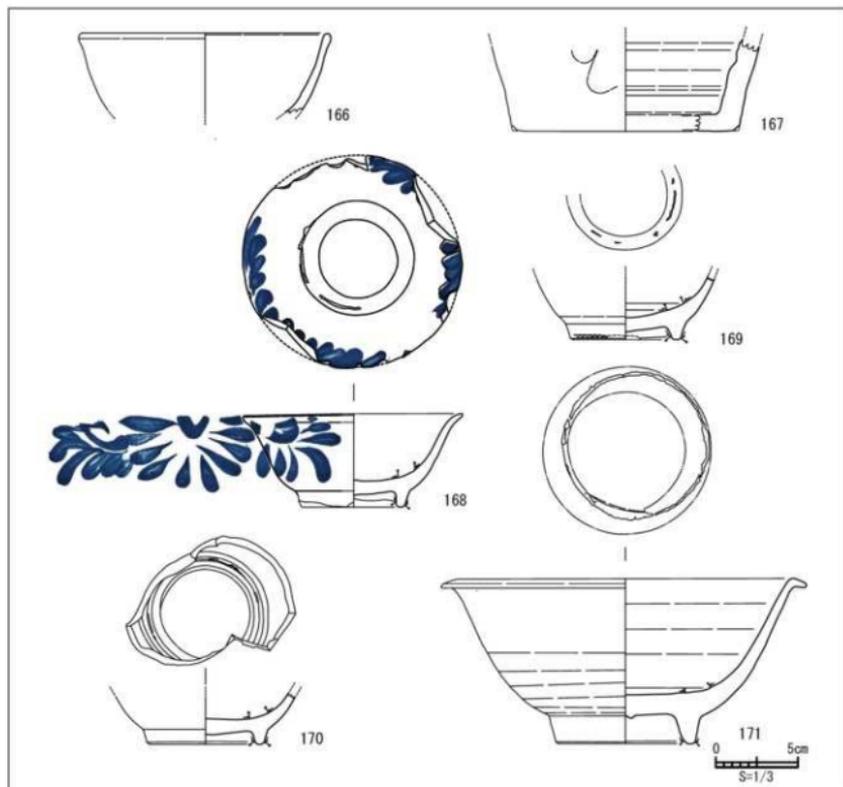
171は沖縄産施釉陶器の鉢であり、口縁部をL字状に成形している。見込みを蛇の目に釉剥ぎ、畳付も釉剥ぎしている。見込みには重ね焼き痕が残る。



第32図 石組遺構断面図

第19表 遺物観察表(石組遺構)

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第33図 166	B1・C1	石組 遺構 覆土	青磁碗 口縁部	上E	残存部全面施釉。口縁部が若干内 湾する。貫入有り。	口:15.0	白色粒 黑色粒	胎:灰白(N8/) 釉:オリーブ灰(7.5Y 5/2)
第33図 167	B1	石組 遺構 覆土	褐釉陶器 蓋 底部	—	内面クワ痕が明瞭。	底:13.8	白色粒 褐色粒 石炭粒	胎:褐灰(5YR5/1)~ にぶい橙(2.5YR6/4)
第33図 168	B1	石組 遺構 覆土	沖調産 施釉陶器碗 口~底	—	見込み蛇の目軸割ぎ。登付軸割ぎ。 内外面にコバルト軸で菊唐草文を施 す。	口:13.2 底:6.2	白色粒 黑色粒	胎:にぶい黄橙(10YR 7/3) 釉:白化粧後、透明軸 施釉
第33図 169	B1	石組 遺構 覆土	沖調産 施釉陶器碗 底部	—	見込み蛇の目軸割ぎ。登付軸割ぎ。 見込みに重ね焼き痕有り。貫入有 り。	底:6.5	黒色粒 褐色粒	胎:浅黄橙(10YR8/3) 釉:白化粧後、透明軸 施釉
第33図 170	B1	石組 遺構 覆土	沖調産 施釉陶器碗 底部	—	見込み蛇の目軸割ぎ。登付軸割ぎ。 見込みに重ね焼き痕あり。僅かに貫 入有り。	底:6.8	黒色粒 褐色粒	胎:浅黄橙(10YR8/3) 釉:白化粧後、透明軸 施釉
第33図 171	B1	石組 遺構 覆土	沖調産 施釉陶器 鉢 口~底	—	内面見込み蛇の目軸割ぎ。外面登 付軸割ぎ。口縁部逆し字状。見込 みに重ね焼きの痕跡有り。貫入有 り。	口:22.2 底:8.4	黒色粒	胎:灰黄(2.5Y7/2)~灰白 (2.5Y7/1) 釉:(外)黒(10YR7/1)~にぶ い赤橙(5YR5/4)、(内)白化 無釉、灰白(5Y7/2)



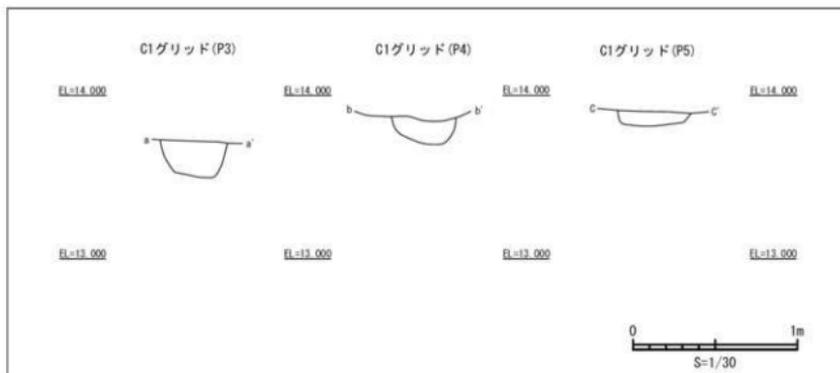
第33図 遺物実測図(石組遺構)

[4]小穴・土壇等（第34・35図、第36図172～177、第20・21表172～177、図版98～101、172～177）
 小穴は、31基検出されている。その規模は、最大径21～138cm前後で、深さは6～56cm前後である（第20表）。検出された小穴の内、柱穴として3基が確認できた。柱穴のつながりについては確認できず、近現代の建物跡のプラン等を想定することはできなかった。小穴のうち、6基の断面を図化した。

P3の覆土は、グスク土器1点、青磁1点(172)、沖縄産施釉陶器1点、沖縄産無釉陶器1点、獣骨5点、サンゴ1点、焼土6点、炭化物2点、芯心から白磁1点、青磁1点、軽石1点、獣骨4点が出土している。172は青磁碗の底部片であり、高台内から高台内側まで露骨を呈する。外面高台脇に2条、高台に1条の圈線を有する。

P4の覆土は、グスク土器2点、獣焼骨3点、魚骨1点、焼土5点が出土している。

P5の覆土は、暗灰黄色(2.5Y4/2)に黄褐色(10YR5/8)が混ざっている。また、粘りがあり、しまっている。遺物は、グスク土器6点(173)、沖縄産施釉陶器2点、沖縄産無釉陶器1点、獣骨1点、海産貝1点、焼土1点が出土している。173はグスク土器の底部片である。内外面指押さえ後にナデ調整が施されている。

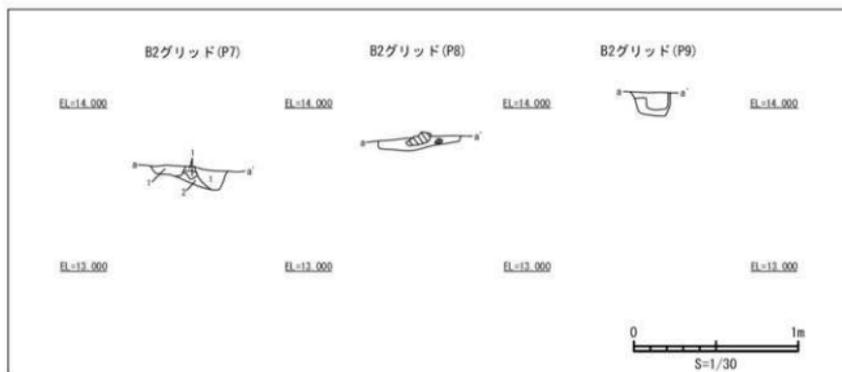


第34図 遺構断面図 (P3～5)

P7の覆土は、中心部と下部にオリーブ褐色(2.5Y4/6)がみられ、それ以外は暗灰黄色(2.5Y4/2)にオリーブ褐色(2.5Y4/6)が少し混ざっている。遺物は、褐釉陶器1点、沖縄産施釉陶器1点、重厚1点、焼土1点が出土している。

P8の覆土は、黒褐色(2.5Y3/2)にオリーブ褐色(2.5Y4/6)が混ざっており、石灰岩の石が5個入っていた。遺物は、褐釉陶器1点(174)、獣骨2点、海産貝1点、サンゴ1点、焼土1点が出土している。174は褐釉陶器壺の底部片である。外面胴部半ばまで施釉されており、内面のロクロ痕が明瞭に残っている。

P9の覆土は、暗灰黄色(2.5Y4/2)にオリーブ褐色(2.5Y4/6)が少し混ざり、焼土や炭を若干含んでいる。



第35図 遺構断面図 (P7~9)

その他の小穴の出土遺物については、グスク土器 23 点、カミイヤキ 1 点、白磁 1 点、青磁 3 点 (175)、青花 3 点、褐釉陶器 3 点 (176)、沖縄産施釉陶器 8 点、沖縄産無釉陶器 4 点 (177)、石器・石材 8 点、鉄片 2 点、青銅製品 1 点、海産貝 25 点、獣骨 42 点、獣歯 3 点、焼土 148 点、炭化物 7 点が出土している。

175 は外反口縁の青磁碗であり、上田編年 D II 類に該当する。

176 は褐釉陶器壺の胴部片であり、肩部が緩く丸みを帯びている。

177 は沖縄産無釉陶器壺の口～胴部片である。口縁部は逆 L 字状に屈曲しており、肩部に 3 条の沈線が施されている。

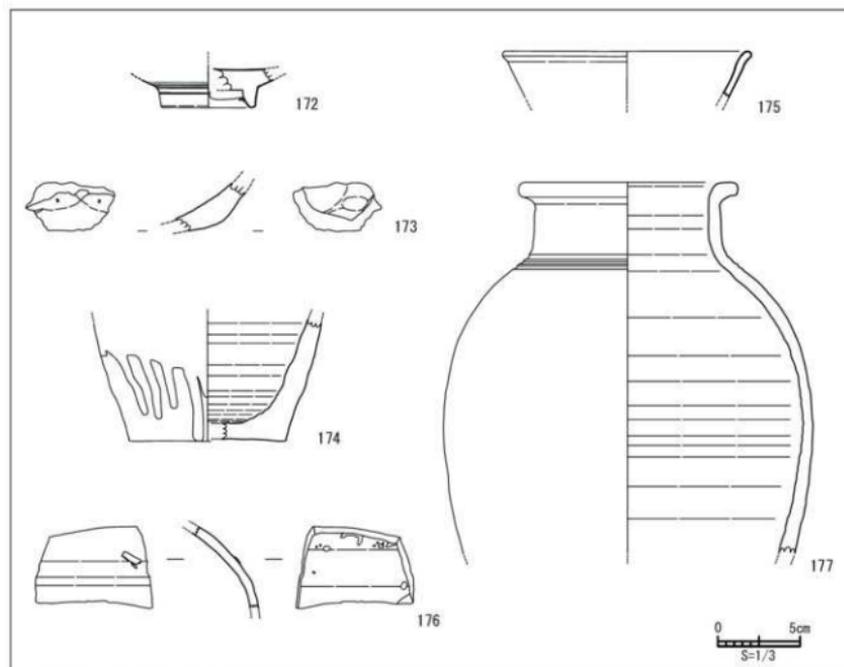
また、B2グリッド西側の溝状遺構と接する土壌からは、グスク土器 3 点、青磁 6 点、色絵 1 点、日本産陶器 1 点、沖縄産施釉陶器 36 点、沖縄産無釉陶器 10 点、近現代磁器 2 点、鉄片(現代) 4 点、青銅製品(現代) 1 点、砥石 1 点、獣骨 3 点、獣歯 1 点、海産貝 13 点、円盤状製品 1 点、赤瓦 2 点、古銭 5 点が出土しており、近現代の攪乱層と考えられる。

第20表 遺構観察表(近世～近現代)

NO.	グリッド	検出層	平面形	最大径 (cm)	深度 (cm)	遺物	備考
埋藏遺構1	B1	2c・2d?	円形	74	52	有	
埋藏遺構2	B1	2a	半円形	68	46	有	
石組遺構1	B1・C1間	5	不整楕円形	134	43.9	有	
P1	C1	5	不整楕円形	40	24	有	
P2	B1	5	円形	44	—	有	
P3	C1	5	円形	40	25	有	
P4	C1	5	不整楕円形	42	21	有	柱穴
P5	C1	5	不整楕円形	52	9	有	柱穴
P6	C1	5	—	—	—	有	3層の残土 図面なし
P7	B2	8	楕円形	46	14.7	有	
P8	B2	8	不整楕円形	55	9.6	有	
P9	B2	8	不整楕円形	35	16		
P10	B2	8	不整形	96	40		
P11	B2	8	—	—	—		2b層の残土 図面なし
P12	C2	8	不整円形	64	12		
P13	C2	8	不整形	38	6.2		
P14	C2	8	不整楕円形	45	6	有	
P15	C2	8	不整形	54	22.2	有	
P16	C2	8	不整楕円形	40	4.4	有	
P17	C2	8	不整形	138	49.8	有	
P18	C2	8	不整楕円形	42	19.4	有	
P19	C2	8	不整形	69	28.6	有	
P20	C2	8	不整楕円形	58	17	有	
P21	C2	8	不整楕円形	26	—		Pの可能性 低い
P22	B2	8	不整形	45	16.6		
P23	B2	8	楕円形	87	—	有	
P24	B2	8	不整楕円形	77	40.3	有	
P25	B2	8	不整楕円形	64	28.1	有	
P26	B2	8	楕円形	70	20.4	有	
P27	B2	8	不整形	65	56.8	有	柱穴
P28	B2	8	円形	21	56.8		
P29	B1	9	—	—	—		残土? 図面なし
P30	B1	9	—	—	—	有	樹根 図面なし
P31	B1	12	—	—	—		残土 図面なし

第21表 遺物観察表(小穴)

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第36図 172	C1	P3 覆土	青磁碗 底部	—	高台内から高台内側の途中まで露胎。外面高台脇に2条、高台に1条の圓縁有り。	底:5.5	白色粒 黑色粒	胎:灰白(N8/) 輪:オリーブ灰(10Y 5/2)
第36図 173	C1	P5 覆土	グスク土器 底部	底 I	底面から外側に開き気味で丸みを帯びながら立ち上がる。内外面指おさえ後ナヅ。焼成やや不良。アバタ状を呈す。	—	白色粒 黑色粒 褐色粒	胎:灰黄(2.5YR7/2) ~灰白(2.5YR8/1)
第36図 174	B2	P8 覆土	褐釉陶器 壺 底部	—	外面胴部半ばまで施釉。内面口ロ痕明瞭。	底:9.6	白色粒 黑色粒 褐色粒 石英粒	胎:褐灰(5YR6/1) 輪:暗赤灰(2.5YR 3/1)
第36図 175	C1	P1 覆土	青磁碗 口縁部	上DII	外反口縁碗。残存部全面施釉。貫入有り。	口:14.8	白色粒	胎:灰白(N7/) 輪:オリーブ灰(2.5GY 6/1)
第36図 176	B2	P23 覆土	褐釉陶器 壺 胴部	—	外面に施釉。口ロロ成形。肩部が緩く丸みを帯びる。	—	白色粒 褐色粒 石英粒	胎:褐灰(10YR6/1) 輪:黒褐(10YR3/1)
第36図 177	B2	P26 覆土	沖縄産 無釉陶器 壺 口~胴	—	口ロロ成形。胴部は丸味を持ち頸部に向けてすぼまり、頸部は立ち上がる。口縁部は逆L字状に組曲。肩部に3条の沈線有り。	口:13.0	白色粒 褐色粒	胎:明赤褐(2.5YR 5/6)



第36図 遺物実測図(小穴)

(2)遺物 (第37～45図 178～268、第22～28表 178～268、図版102～136、178～268)

遺物は、グスク時代相当期から近現代までの遺物が出土している。

1層からは、古銭1点が出土している。

2層からは、グスク土器148点(178～185)、カムイヤキ12点(186～188)、白磁13点(189～191)、青磁81点(192～202)、青花36点(203・204)、褐釉陶器66点、黒釉陶器8点、色絵2点(205)、陶器6点(206・207)、沖縄産施釉陶器243点(208～214)、沖縄産無釉陶器149点(215～218)、近現代磁器27点、石器・石材44点(219)、石製品1点(220)、鉄片33点、鉄製品4点、青銅製品4点、円盤状製品1点(221)、円柱状製品1点(222)、古銭6点(223～227)、木片1点、海産貝119点、骨1点、獣骨217点、魚骨8点、獣歯24点、魚歯2点、瓦63点、焼土76点、炭化物10点、サンゴ2点、その他23点(228)が出土している。

178・179はグスク土器の鍋形土器である。178は口縁片で、口縁部外端がやや尖っている。179は胴部片で、底面から内側に閉じた状態で、丸みを保持しながら胴部へ移行する。

180・181はグスク土器の壺形土器で、180は短頸壺の口縁片、181は頸部片である。

182はグスク土器の碗形土器の口縁片であり、口縁が直口し、外傾する。

183～185はグスク土器の底部片である。183は底面から内側に閉じた状態で、丸みを保持しながら胴部へ移行する。184は立ち上がり部分にヘラや指圧でくびれをつくっている。185は外側に開いた状態で立ち上がり、若干丸みを持たせながら胴部へ移行する。

186・187はカムイヤキの壺である。186は頸部片であり、内面に当て具痕が残っている。187は外面に若干平行線文の叩き痕、内面に格子目状の当て具痕がみられる。188はカムイヤキの底部片であり、やや開き気味に立ち上がっている。

189～191は白磁碗である。189は薄手で口縁端部がやや外反する小碗である。森田編年E類に該当する。190は玉縁口縁碗の口縁片であり、大宰府編年IV類に該当する。191は底部片であり、腰部の一部が露胎している。

192～194は青磁碗である。192は外反口縁碗の口縁片であり、上田編年DII類に該当する。193は直口口縁碗で、外面に雷文帯とラマ式蓮弁文を施し、上田編年CII類に該当する。194は直口口縁碗で内外面に軸垂がみられ、上田編年E類に該当すると思われる。

195は青磁皿の口縁片である。口縁部が外反し、外面に蓮弁文が施されている。

196～198は青磁皿の底部片である。196は粗雑な作りをしており、197は外面胴部に細描の蓮弁文、見込みに草花文が描かれており、上田編年BIV類に該当する。198は底部が碁筈底となっている。

199・200は青磁盤である。199は口縁片である。釉葉が発色しておらず、白色を呈する。口縁端部が摘み上げられ、内面に幅の細い蓮弁文が巡る。200は碁筈底に近い底部片であり、外面腰部に圈線、内面に櫛描きの蓮弁文が施されている。

201は青磁壺の胴部片であり、外面に文様の一部が描かれている。

202は青磁播鉢の口縁部である。外面から内面口縁部途中までの施釉となっている。

203・204は青花碗である。203は端反口縁碗の口縁片で、外面に圈線と文様の一部が描かれており、小野編年B群に該当すると思われる。204は底部片であり、外面は腰部までの施釉と、見込みと高台内の

一部に薄く施釉している。外面に文様の一部が描かれている。

205 は中国産色絵の口縁片である。陵花皿で、内面に剥がれた文様らしきものが残っている。

206 は近現代陶器の播鉢の底部片で、内底面に櫛目が施されている。

207 は火炉である。立方体を呈しており、外面は磨かれている。底部に「三秀新川板倉特撰」、通風調節口部に「三河名産製造組合小島猪太郎」の印がみられる。

208～212 は沖縄産施釉陶器碗である。208 は口縁部がやや外反し、見込みに重ね焼き痕が残っている。209・210 は口縁端部が若干外反し、畳付釉剥ぎと見込みに蛇の目釉剥ぎを施している。見込みに重ね焼き痕がみられる。211 は直口口縁碗で内外面とも口縁部から胴部上半まで施釉されている。212 も底部片だが、209・210 と同様の成形となっている。

213 は沖縄産施釉陶器の大皿であり、内面にコバルトで花文が施されている。

214 は沖縄産施釉陶器の煙管の雁首である。楕円形の目跡が3箇所みられる。

215 は沖縄産無釉陶器の三耳壺である。口縁部が玉縁状で、耳の下部に2条の沈線が巡っている。

216・217 は沖縄産無釉陶器の鉢である。2点とも外面口縁部に2条の沈線と5条の波状沈線が施されている。217 は胴部にも一部櫛目がみられる。

218 は沖縄産無釉陶器の蓋である。摘みを貼り付けている。

219 は石器片である。上部が欠損しており、研磨痕や磨耗がみられる。

220 は石製品である。石臼の上臼または鉢の口縁部のような成形である。

221 は円盤状製品である。側面は剥離痕がなくなめらかで、表裏面にへら状の工具痕が残っている。

222 は円形状製品である。円柱状を呈しており、側面に剥離痕が残る。

223～226 は寛永通宝である。227 は近代銭である。

228 は不明製品で、石が剥離したものと思われる。

第22表 遺物観察表(2層)①

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第37図 178	B1	2e層	グスク土器 口縁部	鍋Ⅱ	口縁部外端がやや実る。外面口縁指押さえ、内外面とも荒いナデ調整。焼成やや不良。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	浅黄(2.5Y7/3)
第37図 179	B1	2e層	グスク土器 胴部	鍋Ⅱ	内面ナデ、外面ナデとやや粗いケズリ。	—	褐色粒	胎:橙(7.5YR6/6) ～黄灰(2.5Y5/1)
第37図 180	B1	2e層	グスク土器 口縁部	壺c	短頸壺の口縁部。外面へら削り後、ナデ消し。内面ナデ仕上げだが、部分的に指圧を加えている。	—	白色粒 黒色粒	胎:橙(7.5YR6/6)
第37図 181	B1	2e層	グスク土器 頸部	壺a	外面へら削り、指押さえ後ナデ。内面は雑な指ナデ。	—	白色粒 褐色粒	胎:橙(2.5YR6/6)、緻密
第37図 182	B2	2e層	グスク土器 口縁部	碗Ⅱ	口縁が直口し、外傾する。内外面指押さえ調整。	—	白色粒 褐色粒 黒色粒	胎:にぶい橙(7.5YR6/4)
第38図 183	B2	2b層	グスク土器 底部	底Ⅱ	底面からの立ち上がりは内側に閉じた状態で、丸味を保持しながら胴部へ移行する。外面はへら削りとナデと指押さえ。内面はナデ。	—	白色粒 褐色粒 光沢粒	胎:(外)橙(2.5YR7/8)、(内)灰(N6/)

第23表 遺物観察表(2層)②

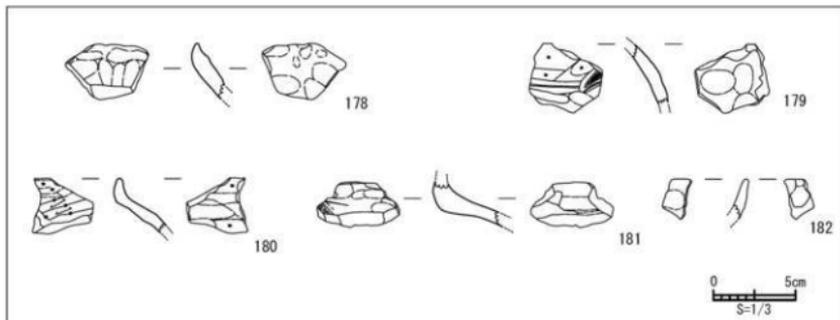
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第38図 184	B2・B3	2b層	グスク土器 底部	底IV	底面から内側に閉じた状態で立ち上がる。立ち上がり部分にヘラや指圧でくびれをつくる。内外面指押さえ後ナゲ消し。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎:橙(5YR6/6)
第38図 185	B1 南北 サブトレ	2d層	グスク土器 底部	底I	底面からの立ち上がりは外側に開いた状態で、若干丸みを持たせながら胴部へ移行する。外面ヘラ削り後ナゲ消し。内面ヘラ削り、指押さえ後ナゲ。	—	白色粒	胎:浅黄褐(7.5YR 8/4)、緻密
第38図 186	B1 南北 サブトレ	2b層	カムイヤキ 壺 頸部	—	内外面ヘラ状工具による回転調整。外面ナゲ、内面に当て具痕有り。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰(N4/)、芯部は 明赤褐(2.5YR5/6)
第38図 187	B1 南北 サブトレ	2b層	カムイヤキ 壺 胴部	—	外面ヘラ状工具による回転調整と若干平行線文の叩き痕がみられる。内面ヘラ状工具による回転調整と格子目状の当て具痕が残る。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰(N4/)、芯部は 明赤褐(2.5YR5/6)
第38図 188	B2	2b層	カムイヤキ 底部	—	底部から、やや開き気味に立ち上がる。外面ナゲ、内面ヘラ削り。	底:15.0	白色粒 褐色粒	胎:灰(N4/)、芯部は 暗赤褐(2.5YR3/3)
第38図 189	B2	2e層	白磁碗 口～底	森E	全面施釉後、畳付軸削ぎ。手で口縁端部がやや外反する小碗。高台は低く、腰部は丸みを帯びながら立ち上がる。	口:8.4 底:3.4	褐色粒	胎:灰白(5Y8/1)、 緻密 軸:灰白(10Y8/1)
第38図 190	B2	2b層	白磁碗 口縁部	大IV	玉縁口縁碗。残存部は全て施釉。口縁部は玉縁状に肥厚する。口縁部は逆「ハ」の字状に開く。貫入有り。	口:15.8	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1) 軸:灰白(7.5Y8/1)
第38図 191	B1・C1	2b層	白磁碗 底部	—	腰部の一部に軸がからまない。畳付軸削ぎ。高台断面がやや逆三角形を呈す。	底:8.8	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1)より 白味がかる 軸:灰白(5Y8/1)
第38図 192	C3	2b層	青磁碗 口縁部	上DII	外反口縁碗。残存部全面施釉。焼成良好。口縁部付近の灰オーリーブ輪の部分のみやや貫入有り。	口:15.5	黒色粒	胎:灰白(5Y8/1) 軸:浅黄(5Y8/4) ～灰オーリーブ(5Y5/2)
第38図 193	B1	2e層	青磁碗 口縁部	上CII	直口口縁碗。全面に施釉。外面に雷文帯とラマ式蓮弁文を片切彫で施す。貫入有り。	—	黒色粒	胎:灰白(5Y8/1)、 緻密 軸:明オーリーブ灰 (2.5GY7/1)
第38図 194	B1	2e層	青磁碗 口縁部	上E?	直口口縁碗。残存部全面に施釉。内外面に軸垂れがみられる。貫入有り。	口:12.6	白色粒 黒色粒	胎:黄灰(2.5Y6/1)、 緻密 軸:灰黄褐(10YR5/2)
第38図 195	B1	2d・e 層	青磁皿 口縁部	—	外反口縁皿。残存部全面施釉。外面に片切彫による蓮弁文が描かれている。貫入有り。	—	白色粒 褐色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/)、緻密 軸:オーリーブ灰(10Y 6/2)
第38図 196	B2	2b層	青磁皿 底部	—	全面に施釉後、高台内蛇の目軸削ぎ、やや雑な施釉。高台外面を斜めに削る。粗雑なつくり。	底:5.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:にぶい橙(5YR 7/4)、緻密 軸:灰白(5YR8/2)
第38図 197	B2	2e層	青磁碗 底部	上BIV	高台内側途中まで施釉だが、畳付は軸が割られている。高台内に一部付着している。外面胴部にヘラ先による細密蓮弁文、見込みに草花文が描かれている。貫入有り。	底:4.6	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1)緻密 軸:オーリーブ灰(10Y 6/2)
第38図 198	B2	2b層	青磁皿 底部	—	残存部全面に施釉。底部が甚弱底で丸みを保ちながら胴部へ立ち上がる。貫入あり。	底:8.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N7/)、緻密 軸:明緑灰(10GY7/1)
第38図 199	B1・C1	2b層	青磁盤 口縁部	—	軸葉が発色しておらず、白色を呈する。口縁部端はつまみ上げられる。内面に幅の細い蓮弁文がめぐる。	口:23.2	黒色粒	胎:灰白(5Y8/1)

第24表 遺物観察表(2層)③

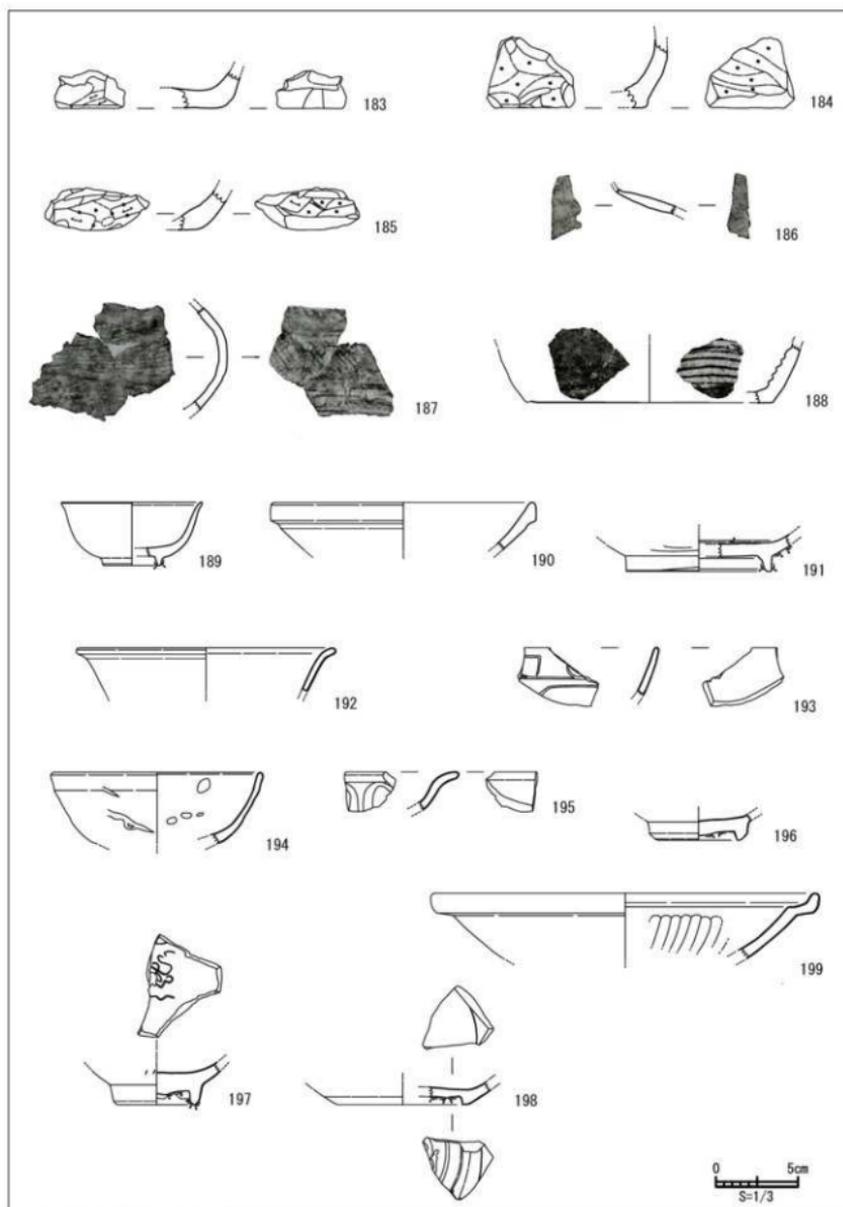
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第39図 200	C2	2b層	青磁盤 底部	—	基筋底に近い底部。高台内露胎。内面に櫛描きの蓮弁文、外面腰部に圓線有り。	底:12.6	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1) 輪:オリーブ灰(10Y 6/2)
第39図 201	B1・C1	2b層	青磁表 胴部	—	外面に施軸。内面薄く施軸。外面に文様の一部が描かれている。	—	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 輪:オリーブ灰(10Y 6/2)
第39図 202	B1 南北 サブトレ	2d層	青磁瑠鉢 口縁部	—	外面から内面口縁部に施軸。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N7/) 輪:暗オリーブ灰(2.5 GY7/1)
第39図 203	A1	2c層	青花碗 口縁部	小B?	端反口縁碗。残存部全面に施軸。外面口縁部に圓線と文様の一部が描かれている。	口:13.4	黒色粒	胎:灰(5Y8/1) 輪:明緑灰(7.5GY 8/1)薄
第39図 204	B2	2b層	青花碗 底部	—	見込みと高台内の一部に薄く施軸。外面腰部まで没しかける。外面高台を斜めに削る。外面に文様の一部のみみられる。	底:6.8	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y8/2) 輪:灰白(10Y8/1)
第39図 205	B1・C1	2b層	中国産 色絵皿 口縁部	—	桜花皿。残存部全面施軸。内面に楕円形状の割がれた文様らしきものが残る。貫入有り。	—	黒色粒	胎:白 輪:透明軸
第39図 206	B2	2c層	近現代 陶器瑠鉢 底部	—	底面に欄目が施されている。	—	白色粒 褐色粒 褐色粒	胎:灰白(10Y7/1)
第39図 207	B1	2c層	本土産 陶器	火炉	立方体を呈しており、通風調節口の扉有り。外面は磨かれている。「三河名産製造組合小島猪太郎」三秀新川板倉特選の印がみられる。	—	白色粒 褐色粒 褐色粒 光沢粒	胎:橙(5YR6/6)
第40図 208	B2	2b層	沖縄産 施軸陶器 碗 口～底	—	見込み蛇の目軸刺ぎ、疊付軸刺ぎ。口縁がやや外反し、胴部がふくらむ。見込み重ね焼き痕あり。貫入あり。	口:14.0 底:6.2	黒色粒	胎:灰白(10YR8/2) 輪:灰白(5Y8/2)
第40図 209	B1	2c層	沖縄産 施軸陶器 碗 口～底	—	口縁端部が若干外反する。見込み蛇の目軸刺ぎ、疊付軸刺ぎ。見込みに重ね焼き痕がみられる。	口:14.4 底:6.7	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5YR/2)、 鐵赤 輪:白化粧後、灰白 (5Y8/2)
第40図 210	B1	2c層	沖縄産 施軸陶器 碗 口～底	—	口縁端部が若干外反する。見込み蛇の目軸刺ぎ、疊付軸刺ぎ。見込みに重ね焼き痕がみられる。	口:14.3 底:6.6	黒色粒	胎:灰白(10YR8/2) 輪:灰白(2.5Y8/2)
第40図 211	B2・B3	2b層	沖縄産 施軸陶器 碗 口縁部	—	直口口縁碗。内外面口縁部から胴部上半施軸。	口:12.8	黒色粒 褐色粒	胎:灰黄(2.5Y6/2) 輪:灰軸
第40図 212	B1	2c層	沖縄産 施軸陶器 碗 底部	—	全面に施軸後、見込みを蛇の目刺ぎ、疊付も軸を刺ぐ。ロクロ成形。見込みに重ね焼き痕が見られる。	底:6.6	黒色粒	胎:灰白(2.5YR/2)、 鐵赤 輪:白化粧後、灰白 (5Y8/2)の透明軸
第40図 213	B1	2c層	沖縄産 施軸陶器 大皿 口～底	—	疊付軸刺ぎ。見込み蛇の目軸刺ぎ。内面にコバルトで花文が施されている。見込みに重ね焼き痕あり。	口:21.3 底:9.0	黒色粒	胎:灰白(2.5Y8/2) 輪:灰白(5Y8/2)
第40図 214	B1	2c層	沖縄産 施軸陶器 煙管	—	外面は小口以外施軸。円形の煙管の煙首。楕円形の目跡が3箇所(1箇所は剥離)みられる。	—	—	胎:白色 輪:瑠璃軸
第41図 215	B2	2c層	沖縄産 無軸陶器 壺 口～胴	—	口縁部が玉縁状。頸部に3つの耳を貼り付けてその下に2条の沈線の圓線をめぐらせている。	口:15.0	白色粒 黒色粒	胎:にぶい赤褐 (2.5YR5/4)
第41図 216	B1	2c層	沖縄産 無軸陶器 鉢 口～底	—	ロクロ成形。外面口縁部に2条の沈線と5条の波線沈線。	口:28.7 底:14.8	白色粒 黒色粒	胎:明赤褐(2.5YR 5/6)

第25表 遺物観察表(2層)④

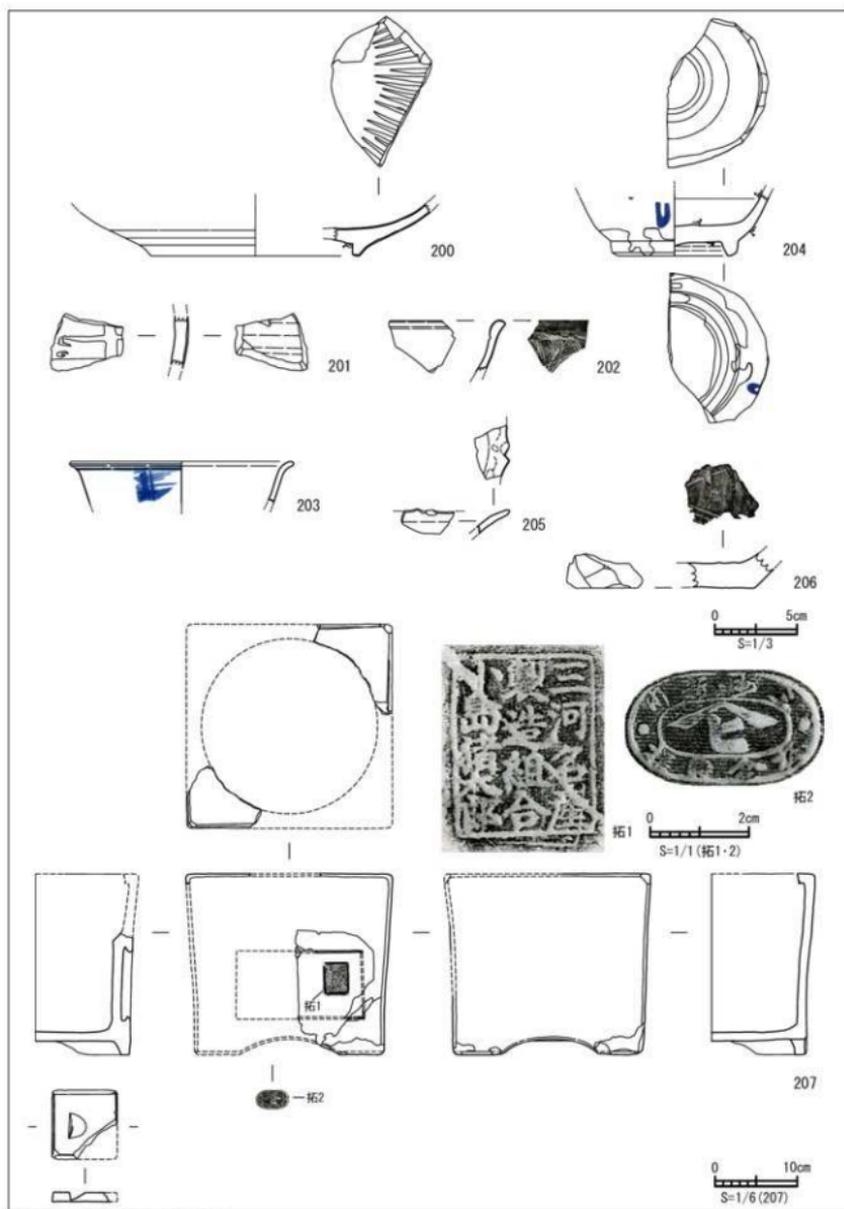
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第41図 217	B2	2c層	沖縄産 無軸陶器 鉢 口～底	—	外面口縁部に2条の沈線と5条の 波状沈線。外面胴部にも一部櫛 目がみられる。	口:29.7 底:15.6	白色粒 黒色粒	胎:にぶい赤褐(2.5YR 4/4)
第42図 218	B1	2c層	沖縄産 無軸陶器 蓋	—	陶質土器(赤物)。把手状の横み を貼付けている。	口:11.8	白色粒 光沢粒	胎:橙(5YR7/6)
第42図 219	B1	2c層	石器片	—	上部欠損。研磨痕や磨耗がみら れる。	—	—	—
第42図 220	B2	2b層	石製品	—	石臼の上臼または鉢の口縁部の ような成形。	—	—	—
第42図 221	B2	2b層	円盤状 製品	—	側面は剥離痕がなくなめらか。 表面と裏面にへら状の工具痕が 残る。	—	—	胎:にぶい赤褐(5YR 5/4)
第42図 222	B2	2c層	円形状 製品	—	円柱状を呈す。側面に剥離痕が 残る。漆喰か。	—	—	—
第42図 223	B2	2c層	銭貨	—	寛永通宝。	直径:2.4	—	—
第42図 224	B2	2c層	銭貨	—	寛永通宝。	直径:2.6	—	—
第42図 225	B2	2c層	銭貨	—	2枚とも寛永通宝。2枚が重なり つついている。	直径:2.3	—	—
第42図 226	B2	2c層	銭貨	—	寛永通宝。	直径:2.4	—	—
第42図 227	B2	2c層	銭貨	—	近代銭。	直径:2.3	—	—
第42図 228	B2 サブトレ	2b層	不明	—	不明。丸みを帯びている。石が剥 離したものか。	—	—	—



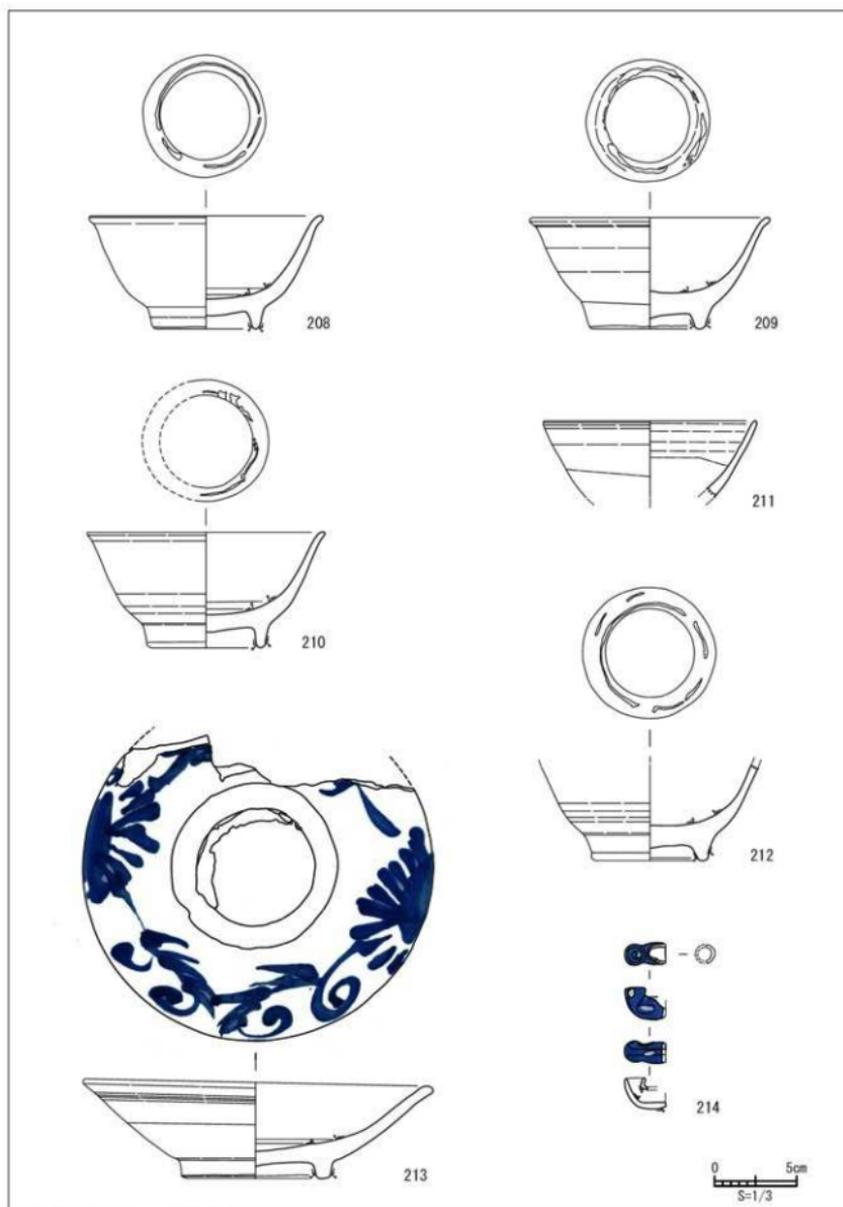
第37図 遺物実測図(2層)①



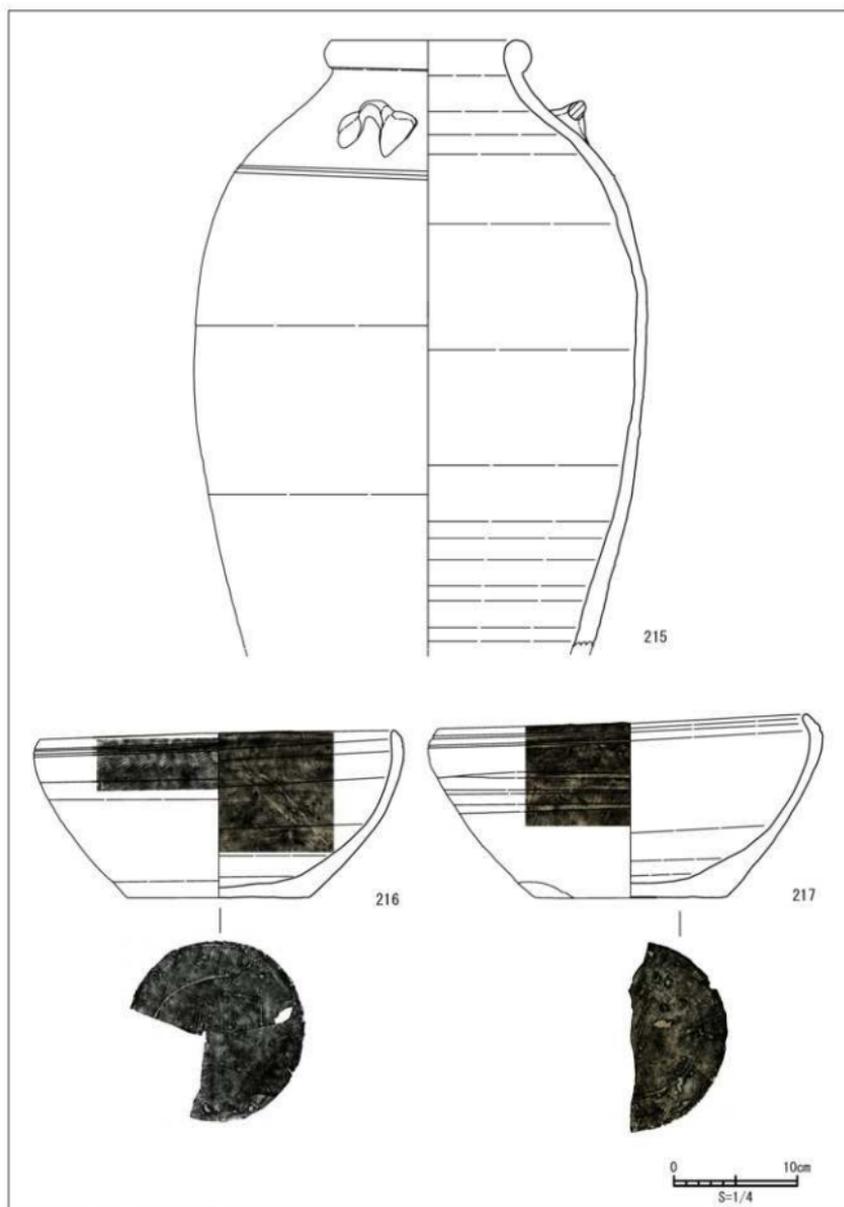
第38図 遺物実測図(2層)②



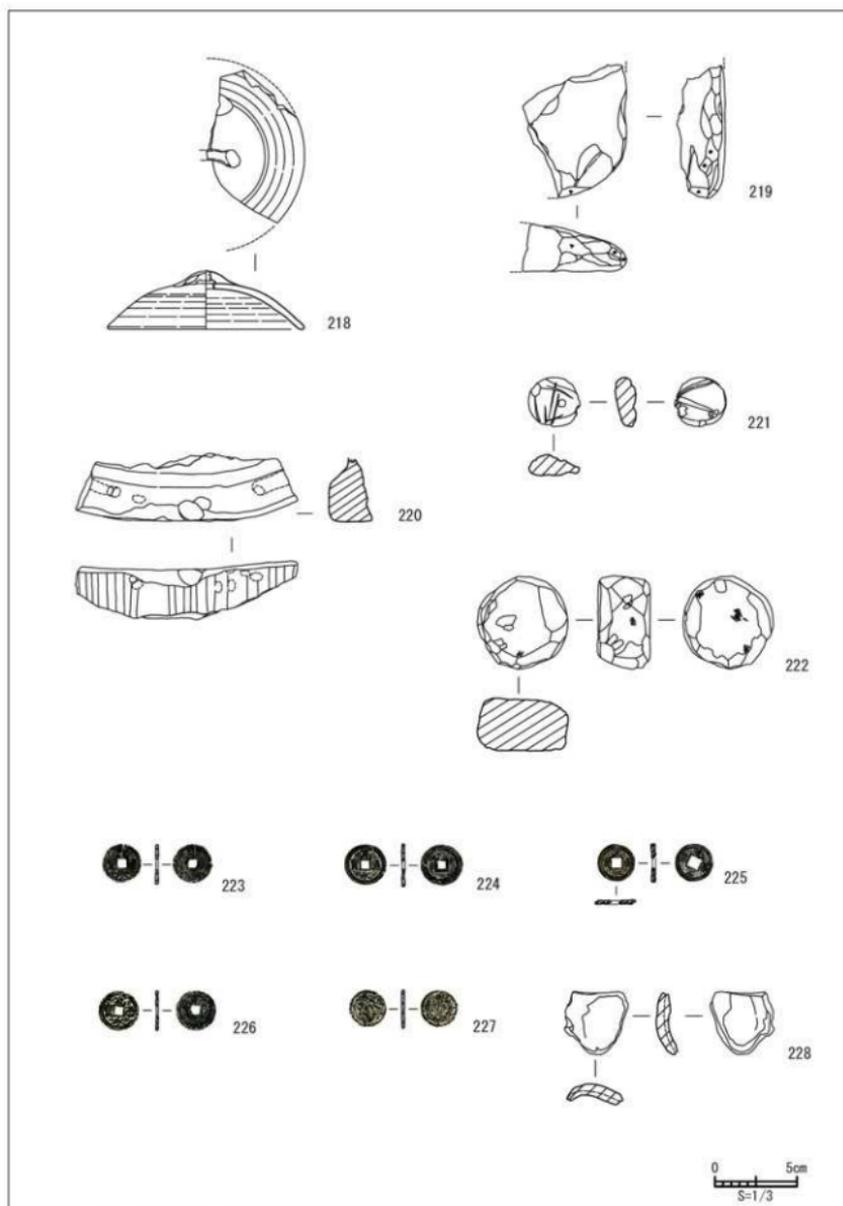
第39図 遺物実測図(2層)③



第40図 遺物実測図(2層)④



第41図 遺物実測図(2層)⑤



第42図 遺物実測図(2層)⑥

3層からは、グスク土器 25 点、白磁 3 点、青磁 10 点(229～231)、青花 6 点(232・233)、褐釉陶器 9 点(234)、黒釉陶器 2 点、沖縄産施釉陶器 9 点、沖縄産無釉陶器 12 点、現代遺物 1 点、石器・石材 7 点(235)、鉄片 6 点、木片 1 点、海産貝 87 点、獣骨 66 点、魚骨 1 点、獣歯 7 点、焼土 16 点、炭化物 4 点、その他 2 点が出土している。

229・230 は青磁碗である。229 は直口口縁碗の口縁片で、雷文帯とラマ式蓮弁が施されている。内面にも文様がみられる。上田編年CⅡ類に該当する。230 は底部片で、粗い成形である。見込みに文様がみられる。

231 は青磁盤の口縁片である。稜花盤で、内外面に幅の広い蓮弁文が施されている。

232・233 は青花碗の口縁片である。232 は口縁部がやや外反し、外面に花文が描かれている。内面口縁部に圏線が巡っている。233 は内外面に 2 条の圏線が巡り、外面部に波状文帯が描かれている。

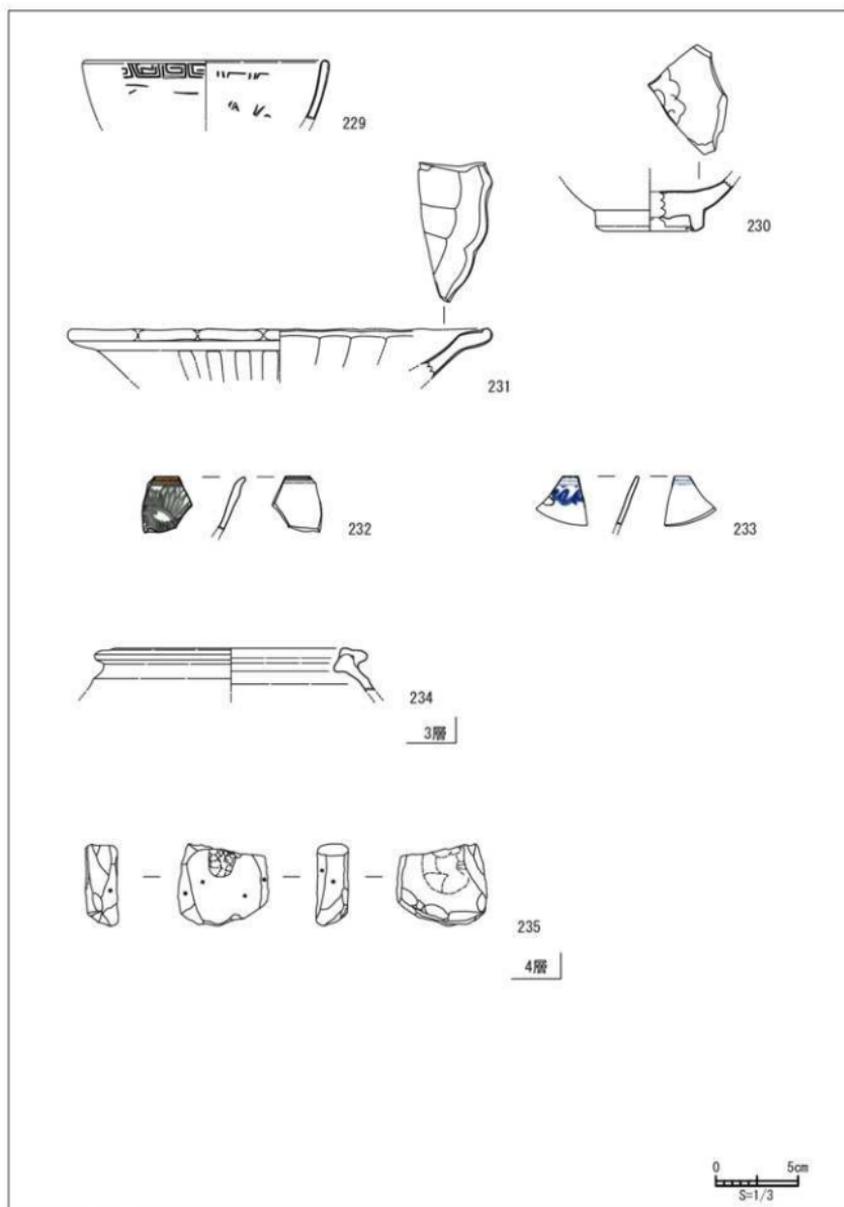
234 は褐釉陶器壺の口縁部である。平口縁で蓋受けが浅く、最大径を肩部に持つと思われる。

4層からは、グスク土器 11 点、白磁 1 点、青磁 10 点、青花 4 点、色絵 2 点、褐釉陶器 2 点、黒釉陶器 1 点、沖縄産施釉陶器 4 点、沖縄産無釉陶器 8 点、現代遺物 1 点、石器・石材 2 点(235)、鉄片 1 点、海産貝 215 点、陸産貝 1 点、獣骨 17 点、瓦 1 点、焼土 7 点、サンゴ 3 点が出土している。

235 は石器片である。上部が欠損している。両面に敲打痕、表面に研磨痕、側面に磨耗がみられる。

第26表 遺物観察表(3・4層)

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第43図 229		3層	青磁碗 口縁部	上CⅡ	直口口縁碗。残存部全面に施釉。雷文帯碗。胴部にラマ式蓮弁がみられる。内面にも文様有り。	口:14.6	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N7/) 釉:オリーブ灰(10Y 6/2)
第43図 230		3層	青磁碗 底部	—	高台内側～高台内粗い軸刺ぎ。粗い成形。見込みに文様がみられる。焼成やや不良。	底:5.6	白色粒 黒色粒	胎:灰白(5Y7/1) 釉:明オリーブ灰(2.5 GY7/1)
第43図 231	A1・B1	3層	青磁盤 口縁部	—	稜花盤。残存部全面施釉。内外面に幅の広いへつ彫りの蓮弁文。	口:25.2	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 釉:明緑灰(10GY8/1)
第43図 232	B1	3層	青花碗 口縁部	—	口縁部がやや外反する。外面に草花文が描かれている。内面口縁部に圏線。	—	黒色粒	胎:灰白(10YR8/2) 釉:灰白(10Y8/1)。 口唇部褐釉
第43図 233	C1・C2	3層	青花碗 口縁部	小D	直口口縁碗。残存部全面施釉。口縁部内外に2条の圏線がめぐる。外面口縁部に波状文帯。	—	白色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1) 釉:明緑灰(10GY8/1)
第43図 234	C2	3層	褐釉陶器 壺 口縁部	—	残存部全面施釉。最大径を肩部に持つと思われる。平口縁で蓋受けが浅い。	口:14.3	白色粒 黒色粒	胎:にぶい黄橙(10YR 7/2) 釉:黒褐(10YR2/2)
第43図 235	C1	4層	石器片	—	上部が欠損している。両面に敲打痕、表面に研磨痕、側面に磨耗がみられる。	—	—	—



第43図 遺物実測図(3・4層)

5層からは、グスク土器 84 点(236～241)、カムイヤキ 4 点(242)、白磁 2 点、青磁 10 点(243)、青花 9 点(244)、褐釉陶器 15 点(245・246)、黒釉陶器 1 点、沖縄産施釉陶器 5 点(247)、沖縄産無釉陶器 5 点、石器・石材 11 点、鉄片 2 点、金属片 1 点、海産貝 17 点、獣骨 200 点、魚骨 4 点、獣歯 13 点、魚歯 2 点、瓦 1 点、焼土 72 点、炭化物 10 点が出土している。

236 はグスク土器の鍋形土器の口縁片である。内湾しており、内外面に指圧痕が残る。

237 はグスク土器の頸部片である。内外面指押さえ後、ナデ調整が施されている。

238～240 はグスク土器の底部片である。3 点とも底面から開き気味に立ち上がる。240 は底部に工具痕または板の継ぎ目らしきものが残る。

241 はグスク土器の碗である。緩やかに立ち上がり、内外面に指圧痕が残る。

242 はカムイヤキの胴部片であり、外面は平行線文の叩き痕、内面は当て具痕が残っている。

243 は青磁皿の底部片である。外面に片切彫りによる蓮弁文が施され、見込みに文様がみられる。

244 は青花皿の底部片である。畳付から高台内が露胎を呈し、外面と見込みに文様が描かれている。

245・246 は褐釉陶器壺である。245 は口唇がやや玉縁状を呈し、246 は薄手で肩部に最大径を持つ。

247 は沖縄産施釉陶器の直口口縁碗の口縁片である。

6層からは、グスク土器 46 点(248)、カムイヤキ 1 点(249)、白磁 1 点、青磁 4 点、青花 1 点、褐釉陶器 5 点(250)、沖縄産無釉陶器 1 点、石器・石材 4 点、鉄片 1 点、獣骨 15 点、獣歯 1 点、焼土 6 点、炭化物 2 点が出土している。

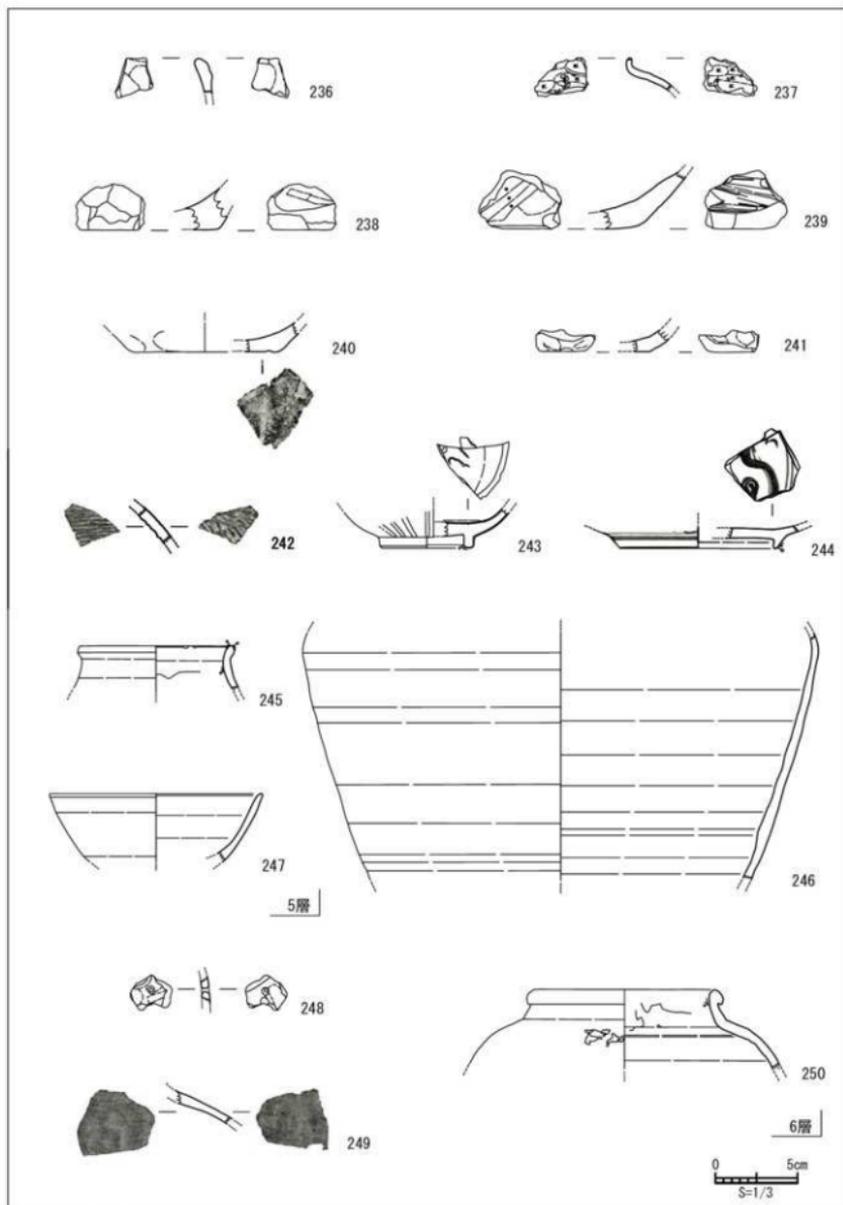
248 はグスク土器の胴部片である。孔を穿っている。

249 はカムイヤキの頸部に近い胴部片と思われる。

250 は口縁部が玉縁状の褐釉陶器壺である。外面胴部に溶着痕が付着している。

第27表 遺物観察表(5・6層)

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第44図 236	A1	5層	グスク土器 口縁部	鍋	口縁部は内湾する。内外面に指圧痕が残る。	—	白色粒	胎: 橙(2.5YR6/6)
第44図 237	B1 南北 サブトレ	5層	グスク土器 頸部	—	内外面指押さえ後、ナゲ調整。焼成やや不良。内外面アバタ有り。	—	白色粒 黒色粒	胎: 灰白(N8/7)~ にぶい橙(5YR7/4)
第44図 238	A1	5層	グスク土器 底部	底I	底面からやや緩やかに立ち上がる。内面へラ削り後ナゲ。外面は指圧痕がみられる。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎: 灰白(10YR8/2)
第44図 239	B1	5層	グスク土器 底部	底I	立ち上がりは外側に大きく開いた状態で、若干丸みを持たせながら胴部へ移行する。外面粗いナゲ、内面へラ削りとナゲ調整。	—	黒色粒 褐色粒	胎: 橙(5YR7/6)
第44図 240	C2 サブトレ	5層	グスク土器 底部	底I	底面から外側に開き気味に立ち上がる。外面へラ削り後ナゲ消し。底部に工具痕または板の継ぎ目と思われる部分がある。内面ナゲ。	底: 9.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎: 橙(5YR6/6)
第44図 241	C1	5層	グスク土器 底部	碗	底部から緩やかに立ち上がる。内外面に指圧痕が残る。	—	褐色粒 黒色粒	胎: にぶい橙(7.5YR 7/4)
第44図 242	B1 東西 サブトレ	5層	カムイヤキ 胴部	—	胴部片。外面は平行線文の叩き痕、内面は当て具痕が残る。	—	白色粒 褐色粒	胎: 灰(N4/7)、芯部は にぶい赤褐(2.5YR 4/3)
第44図 243	A1	5層	青磁皿 底部	—	片切彫による蓮弁文風。高台の内外から高台内は露胎している。見込みに文様が描かれている。	底: 5.4	褐色粒	胎: 灰(2.5Y7/1) 輪: 明緑灰(10GY7/1)
第44図 244	C1	5層	青花皿 底部	—	壺付から高台内露胎。高台断面逆三角形。見込みと外面にそれぞれに2条の墨線と文様の一部が描かれている。	底: 9.4	黒色粒 褐色粒	胎: 灰白(5Y8/1) 輪: 明緑灰(7.5GY 8/1)
第44図 245	C1	5層	褐釉陶器 壺 口縁部	—	外面から内面口縁部まで施釉。口唇部輪割ぎ。口縁部がやや玉縁状。	口: 9.2	白色粒 黒色粒	胎: 灰白(5Y7/1) 輪: 黒褐(10YR2/2)
第44図 246	A1	5層	褐釉陶器 壺 胴部	—	残存部全面に施釉。ロクロ成形。薄手で肩部に最大径をもつ。	最大径: 31.4	白色粒 黒色粒	胎: 灰褐(7.5YR6/2)、 灰(N5/7) 輪: 暗褐(10YR3/3)
第44図 247	C2	5層	沖調産 施釉陶器 碗 口縁部	—	直口口縁碗。残存部全面施釉。ロクロ成形。	口: 12.8	黒色粒	胎: 灰白(2.5Y8/2) 輪: 黒褐(10YR2/2)
第44図 248	B1 東西 サブトレ	6b層	グスク土器 胴部	—	胴部に両面から孔を穿っている。内外面に指圧痕がみられる。	—	黒色粒	胎: にぶい橙(7.5YR 6/4)
第44図 249	B1 東西 サブトレ	6b層	カムイヤキ 胴部	—	頸部に近い胴部と思われる。内外面へラ状工具による回転調整後にナゲ。	—	白色粒 褐色粒	胎: 灰(N4/7)、芯部は 明赤褐(2.5YR5/4)
第44図 250	C1 サブトレ	6a層	褐釉陶器 壺 口縁部	—	外面から内面口縁部まで施釉。口縁が玉縁状。外面胴部に溶着痕が付着。	口: 11.0	白色粒 褐色粒	胎: 灰赤(10R5/2) 輪: 暗赤灰(2.5YR 3/1)



第44図 遺物実測図(5・6層)

また、層序不明の遺物を17点、表採1点を図化している。

A1 グリッド南壁から、木製の玉(251)等が出土している。

B1 グリッド掃除中から中国産の朱泥茶器の蓋(252)等が出土している。袴が高い形状である。

B2 グリッド試掘壕覆土からは、青磁(253)や褐釉陶器(254)、玉(255)等が出土している。

253は青磁碗の底部片である。外面に細描蓮弁文が施されており、上田編年BIV類に該当する。

254は褐釉陶器壺の口縁片である。最大径を肩部に持ち、平口縁で蓋受けが浅くなっている。

255はガラス製の玉である。巻き上げ技法によって製造したものと考えられ、横位に窪みがみられる。

C1 グリッドでは、試掘壕覆土から青磁(256)や掃除中に玉(257)等が出土している。また、北壁崩土からは青磁(258)や褐釉陶器(259)、石器片(260)等が出土している。

256は外反口縁の青磁皿の口縁片であり、外面に文様が施されている。

257は赤紫色に塗られた木製の玉である。

258は青磁盤の口縁部である。口縁端部が微弱な玉縁状を呈し、内面に蓮弁文が施されている。

259は褐釉陶器壺の口縁片である。口縁を外側に折り曲げ、三角に肥厚させた口唇部を窪ませている。

260は石器片である。大部分は破損しており、残存部には研磨痕がみられる。

南壁からは、青磁(261)や瓦質土器(262)、棒状製品(263)等が出土している。

261は青磁碗の口縁片である。直口口縁碗で、片切彫りの蓮弁文を施しており、上田編年BII類に該当する。

262は瓦質土器の壺の頸部片である。外面に指押さえ痕がみられる。

263は石筆と思われる。先端が使用によるものなのか、丸く削られている。

北壁からは、グスク土器(264)、カムイヤキ(265・266)、青磁(267)等が出土している。

264はグスク土器の壺形土器の口縁片で、器面はアバタ状を呈している。

265はカムイヤキの口縁片である。口縁部が直立し、口縁端部をやや平坦に仕上げている。

266はカムイヤキの胴部片で、外面に格子目状の叩き痕、内面に格子目状の当て具痕が残る。

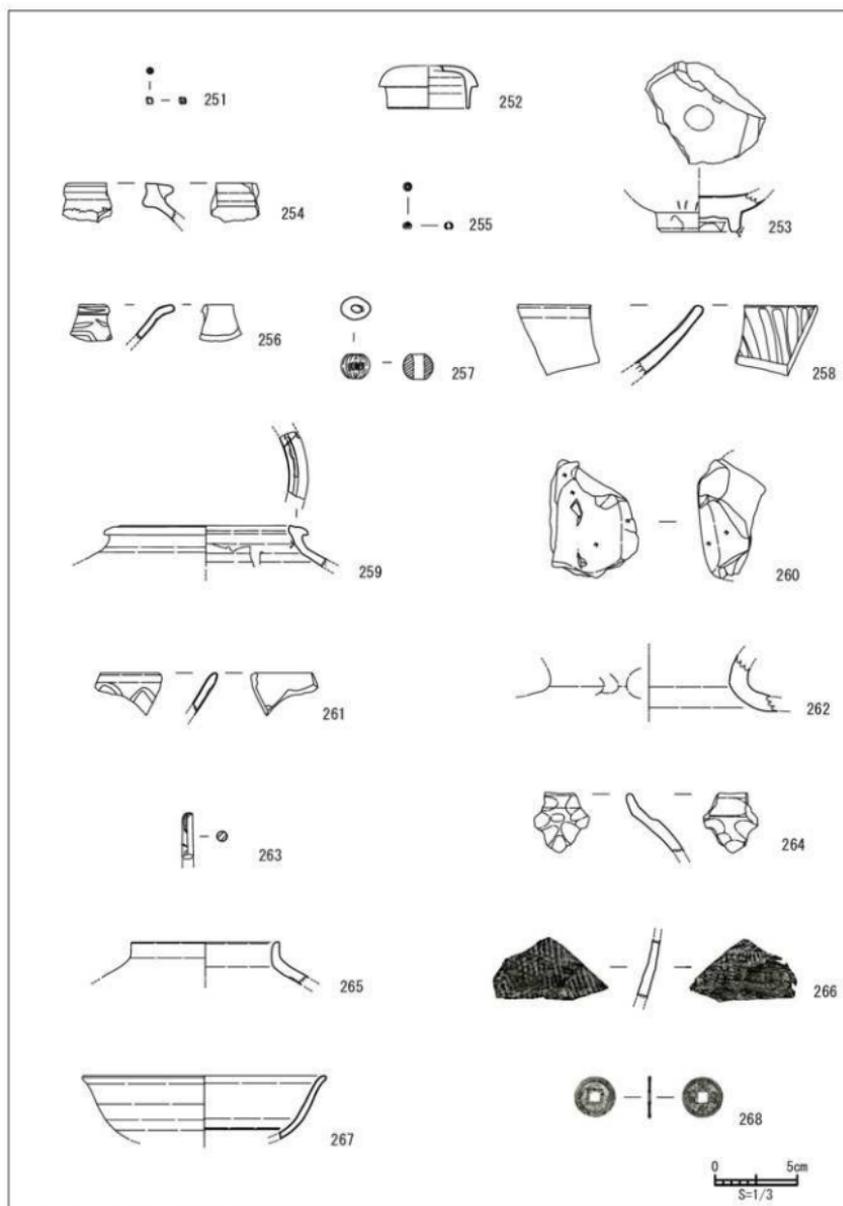
267は青磁碗の口縁片である。外反口縁碗で、見込みに圏線が施されている。上田編年DII類または大宰府編年IV類に該当する。

表採では、銭貨(268)等を確認した。

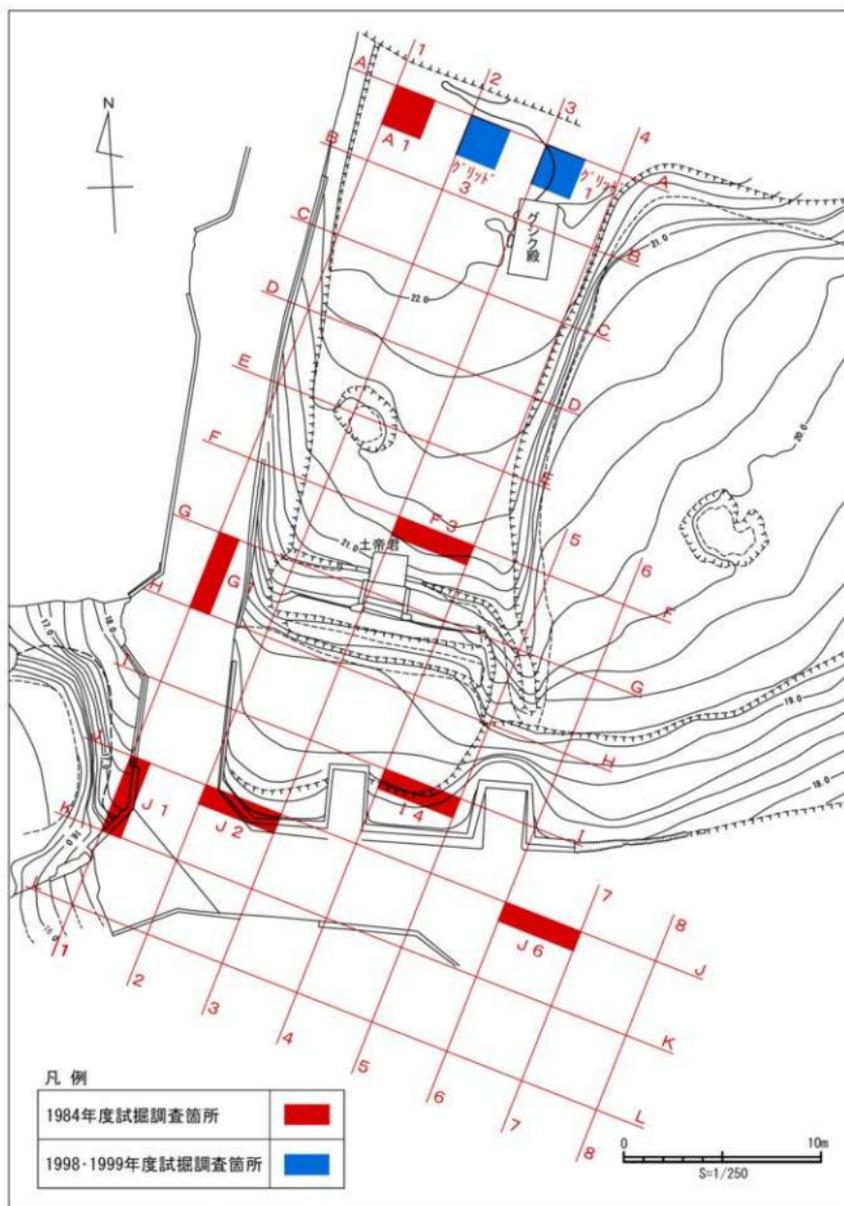
268は寛永通宝である。

第28表 遺物観察表(その他)

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第45図 251	A1	南壁	玉	—	木製の玉。にぶい黄褐色だが、 白く塗っていたものが剥がれている。	孔径: 0.2	—	—
第45図 252	B1	掃除	中国産 無釉陶器 蓋	—	朱泥茶器の蓋。袴が高い形状。清 代。	—	黒色粒 褐色粒	胎:にぶい赤褐(2.5 YR4/3)、緻密
第45図 253	B2	試堀擴 覆土	青磁碗 底部	上BIV	甕付から高台内軸剥ぎ。ロクロ成 形。外面にヘラ先による細描蓮弁 文が施されている。	底:4.6	白色粒 黒色粒	胎:灰白(2.5Y7/1)、 緻密 軸:明オリーブ灰(5 GY7/1)、貫入有り。
第45図 254	B2	試堀擴 覆土	褐釉陶器 壺 口縁部	—	残存部全面に施軸。最大径を肩 部に持つと思われる。平口縁で蓋 受けが浅い。	—	白色粒	胎:にぶい黄橙 (10YR7/2)、緻密 軸:黒褐(10YR2/2)
第45図 255	B2	試堀擴 覆土	玉	—	ガラス製。白色。表面に螺旋状の 筋が見られることや、両端が若干 突出していることから巻き上げ技 法によって製造したものと考えら れる。横位に一箇所くぼみ有り。	—	—	—
第45図 256	C1	試堀擴 覆土	青磁皿 口縁部	—	外反口縁皿。外面に文様を施す。	—	黒色粒	胎:灰白(N8/) 軸:明緑色
第45図 257	C1	試堀擴 掃除	玉	—	木製。赤紫色に塗られている。	—	—	—
第45図 258	C1	北壁 崩土	青磁盤 口縁部	—	直口口縁盤。口縁端部を微かな 玉縁口縁としている。内面に蓮弁 文を施す。	—	黒色粒	胎:灰白(5Y8/1) 軸:黄褐(2.5Y5/4)
第45図 259	C1	北壁 崩土	褐釉陶器 壺 口縁部	—	薄手壺口縁部。外面から内面口 縁部まで施軸。口縁を外側へ折り 曲げた形状。三角に肥厚させた口 唇をくぼませている。	口:10.2	白色粒 褐色粒	胎:灰黄褐(10YR5/2) 軸:灰黄褐(10YR4/2)
第45図 260	C1	北壁 崩土	石器片	—	破損している。残存部に研磨痕が みられる。	—	—	—
第45図 261	—	南壁	青磁碗 口縁部	上BII	直口口縁碗。残存部全面施軸。 胴部に片切り彫りの蓮弁文を施 す。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 軸:灰白(10Y7/2)
第45図 262	—	南壁	瓦質土器 壺 頸部	—	外面指押さえ痕有り。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y7/1)
第45図 263	—	南壁	棒状製品	—	石筆?断面は円形で、先端が使 用によるものなのか、丸く削ら れている。	—	—	—
第45図 264	—	北壁	グスタ土器 口縁部	壺c	内外面指押さえ後ナデ。アバタ状 を呈す。	—	白色粒 褐色粒	胎:橙(5YR7/6)
第45図 265	—	北壁	カムイヤキ 小壺 口縁部	—	口縁部が直立し、口縁端部をや や平垣に仕上げる。	口:9.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰(5Y6/1)
第45図 266	—	北壁	カムイヤキ 胴部	—	外面に格子目状の叩き痕、内面 にナデと格子目状の当て具痕が 残る。	—	白色粒	胎:灰(N4/), 芯部は にぶい赤褐(2.5YR 4/3)
第45図 267	—	北壁	青磁碗 口縁部	上DII 大IV	外反口縁碗。残存部全面に施 軸。軸が薄く胴部の回転へラ附 痕がみえる。見込みに同縁有り。	口:14.6	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/) 軸:灰白(5GY8/1)
第45図 268	C2	表探	銭貨	—	寛永通宝。	直径:2.4	—	—



第45図 遺物実測図(その他)



第46図 1984(昭和59)年度 試掘グリッド設定図

第3節 1984(昭和59)年度試掘調査

1984年に沖縄県教育委員会による試掘調査が行われている。調査区は土帝君の祠の前と背後の数箇所となっている(第46図)。当時の図面や写真等の記録がほぼ残っていないため、ここでは出土遺物の報告のみを行う。

1. 遺物 (第47～49図 269～319、第29～32表 269～319、図版 137～148、269～319)

遺物は、グスク時代相当期から近現代までの遺物が出土している。

1層では、グスク土器91点(269)、カムイヤキ4点、白磁2点(270)、青磁26点(271～278)、青花5点(279～283)、褐釉陶器12点(284)、陶器10点、沖縄産施釉陶器18点(285～292)、沖縄産無釉陶器81点(293～303)、近現代磁器21点(304～316)、鉄片5点(317)、釘1点、刀子1点、石器・石材1点、海産貝172点、陸産貝1点、獣骨32点、獣歯9点、魚歯1点、瓦47点、焼土44点、サンゴ7点が出土している。

269はグスク土器の底部片であり、底面から胴部へ開き気味に丸みを帯びて立ち上がる。

270は白磁碗の口縁片である。口縁部が外反しており、森田編年C群に該当する。

271は青磁碗の口～胴部片である。外面に雷文帯とラマ式蓮弁文が施されており、上田編年CⅡ類に該当する。

272～275は青磁碗の口縁片である。272は外面に片切彫の蓮弁文が施されており、上田編年BⅡ類に該当する。273は口縁部がやや内湾しており、上田編年E類に該当する。274は直口口縁で、大宰府Ⅰ類の可能性ある。275は口縁片であり、外面に細線の蓮弁文を持つ。上田編年BⅣ類に該当する。

276は青磁碗の底部片である。見込みに草花文と圏線が施され、上田編年DまたはEに該当する。

277・278は青磁皿の口縁片である。277は口縁部が外反する稜花皿で、278は外面に無鎗蓮弁文が施されている口折皿である。

279～281は青花碗の口縁片である。279は外面に圏線を有する外反口縁碗である。280は外面に草花文、内面口縁部に圏線が巡る。281は口唇部が外反しており、内面口唇部に圏線が巡る。

282も青花の口縁部の小破片であり、外面は文様の一部が描かれており、内面に圏線が巡る。

283は青花碗の底部片である。高台内に「和美」の銘款がみられる。

284は褐釉陶器壺の口縁片である。口縁を外に折り、断面は三角形の罫である。

285～287は沖縄産施釉陶器碗の口縁片である。285は器壁の薄い直口碗、286は外反口縁碗、287は灰釉碗である。

288～290は沖縄産施釉陶器碗の底部片である。288は白化粧後、灰白の透明釉を施釉し、畳付釉剥ぎと見込み蛇の目釉剥ぎを施しており、289は白土で内外面に数条の圏線と外面上部に波状文らしき文様が施されている。290は高台断面がハの字状を呈し、見込みに重ね焼きの際の溶着痕が残る。

291は沖縄産施釉陶器の小碗である。白化粧後、灰白の透明釉を施釉し、畳付釉剥ぎと見込み蛇の目釉剥ぎを施している。

292は沖縄産施釉陶器の急須の口縁片である。コバルト釉の文様の一部がみられる。

293・294は沖縄産無釉陶器壺の口縁片である。293は口唇部が逆L字状で、2条の圏線を有し、294

は広口の小壺である。

295～298 は沖繩産無釉陶器壺の底部片である。295・296 は平底である。297 は底部から胴部へ外側に開き気味に立ちあがる。298 は底面が上げ底状で、糸切り痕が明瞭に残っている。

299～303 も沖繩産無釉陶器であり、299 は播鉢の口縁片、300 は水鉢の口縁片で、口縁部に沈線波状文を巡らせている。301 は香炉の口縁片で、口唇部を平坦にしており、筒型を呈している。302・303 は陶質土器の急須である。302 は内面口縁部に蓋受けが巡っている。303 は外側から注口を貼り付けており、外面に煤が付着している。

304～309 は近現代磁器碗である。304 は口～底部が残る資料、305 は口縁片であり、2点ともゴム判による絵付けが施されている。306・307 も口縁片であり、306 は外反口縁碗、307 は口縁部付近で一旦すぼまるかたちである。308 の口縁片と309 の底部片は接合できなかったが、同一個体である。

310～313 は近現代磁器皿である。310 は銅版転写、311 は型紙刷りによる文様がほどこされている。312 は稜花皿である。313 は底部片であり、内面に文様の一部が描かれている。

314・315 は近現代磁器の湯飲である。314 は型紙施文による染付であり、315 は外面に吹き絵で富士山が施されている。

316 は軍杯である。

317 は刀子と思われる。刃部は尖っている。

2層では、グスク土器 27 点、青磁 2 点(318)、青花 1 点(319)、陶器 3 点、石器・石材 1 点、海産貝 77 点、獣骨 37 点、獣歯 13 点、沖繩産施釉陶器 2 点、沖繩産無釉陶器 2 点、焼土 16 点が出土している。

318 は口縁部が外反する青磁碗で、上田編年D II 類に該当する。

319 は青花碗の底部片である。底部の断面が逆ハの字状を呈し、高台際と高台に圏線が巡る。

3層からは、グスク土器 7 点、陶器 1 点、獣骨 25 点、海産貝 3 点、焼土 2 点、不明 2 点が出土している。

第29表 1984(昭和59)年度 試掘調査遺物観察表①

図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第47図 269	14	1層	グスク土器 底部	底I	底面から開き気味に丸味を帯びて立ち上がる。内外面ナデが残る。	底:11.0	白色粒 黒色粒 褐色粒 光沢粒	胎:赤橙(10R6/6)～ 灰赤(10R6/2)
第47図 270	J6	1層	白磁碗 口縁部	森C	無文外反碗。残存部全面施釉。	口:14.0	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y7/1) 輪:灰白(5Y7/2)
第47図 271	J6	1層	青磁碗 口～胴	上C II	直口口縁碗。残存部全面施釉。外面に雷文帯とその下部にラマ式蓮弁を持つ。	口:15.4	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y7/1) 輪:灰白(10Y7/2)
第47図 272	14	1層	青磁碗 口縁部	上B II	直口口縁碗。残存部全面施釉。外面に片切彫の蓮弁文。若干腐れを持つ。貫入有り。	口:15.8	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y7/1) 輪:灰白(10Y7/2)
第47図 273	14	1層	青磁碗 口縁部	上E	直口口縁だが、やや内湾する。残存部全面施釉。貫入有り。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y7/1) 輪:オリーブ灰(10Y 6/2)

第30表 1984(昭和59)年度 試掘調査遺物観察表②

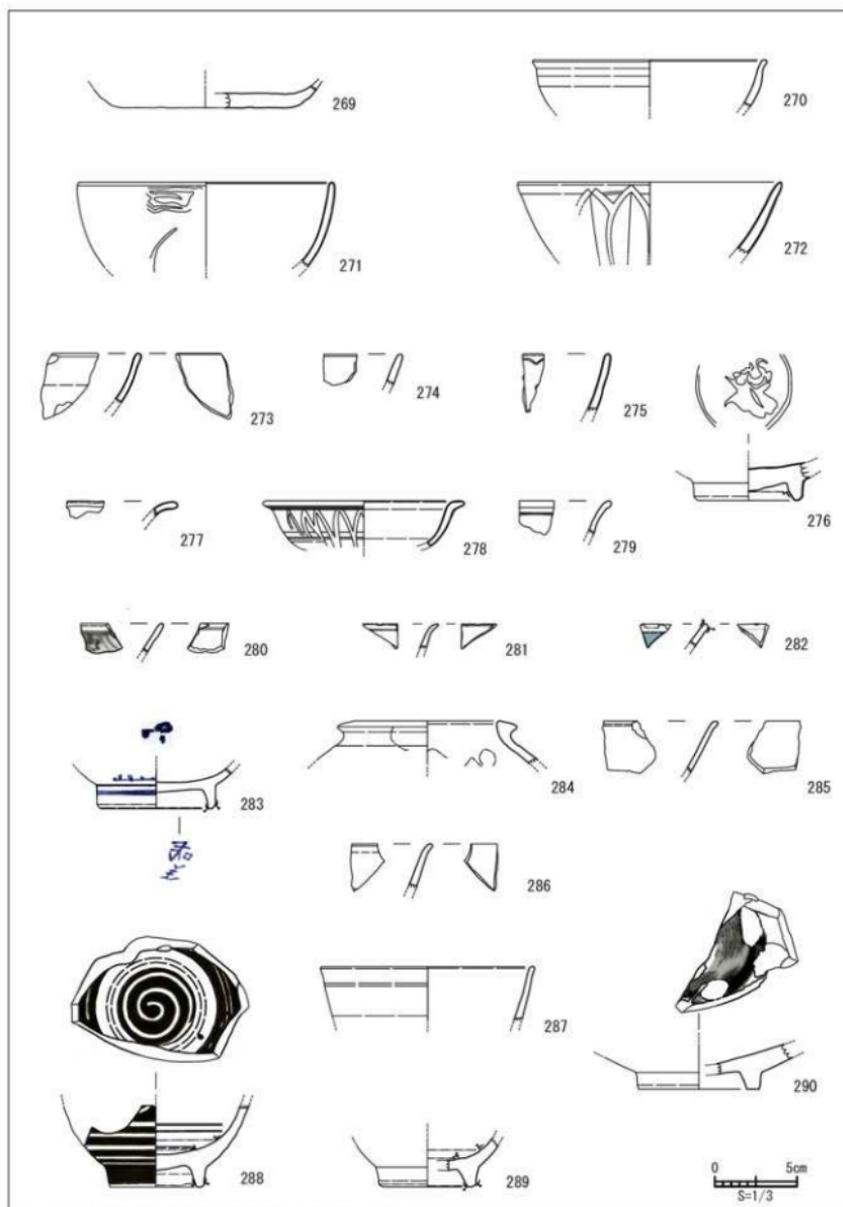
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第47図 274	14	1層	青磁碗 口縁部	大I?	直口口縁碗。残存部全面施軸。貫入有り。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰黄 軸:オリーブ黄(5Y 6/3)
第47図 275	J6	1層	青磁碗 口縁部	上BIV	直口口縁碗。残存部全面施軸。外面にへら先による細線の蓮弁文を持つ。貫入有り。	—	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:黄灰(2.5Y6/1) 軸:オリーブ灰(10Y 5/2)
第47図 276	J1	1層	青磁碗 底部	上 D・E?	高台内面途中まで施軸。高台断面「ハ」の字状を呈す。見込みに圈線と草花文が施されている。	底:6.0	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(5Y8/1) 軸:灰白(5Y7/2)
第47図 277	14	1層	青磁皿 口縁部	—	外反皿で口縁部を稜花にする。残存部全面施軸。内面口縁部に2条の圈線の上のな文様が施されている。貫入有り。	—	黒色粒	胎:灰白(2.5Y8/1) 軸:オリーブ灰(2.5GY 6/1)
第47図 278	14	1層	青磁皿 口縁部	—	口折皿。脚縁は短い。残存部全面施軸。外面に無縁蓮弁文を施している。	口:12.1	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/7) 軸:オリーブ灰(2.5Y7/1)
第47図 279	14	1層	青花碗 口縁部	—	外反口縁碗。残存部全面施軸。外面口縁下に須須で1条の圈線。薄く貫入が入る。	—	黒色粒	胎:淡黄(2.5Y8/3) 軸:灰白(2.5Y8/2)
第47図 280	14	1層	青花碗 口縁部	—	残存部全面施軸。緑灰色の須須により内面口縁部に圈線。外面に草花文有り。	—	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/7) 軸:灰白(7.5Y7/1)
第47図 281	14	1層	青花碗 口縁部	—	口唇が外反する碗。残存部全面施軸。内外面口唇部に圈線が巡る。	—	褐色粒	胎:白色、緻密 軸:透明
第47図 282	F3	1層	青花 口縁部	—	小破片口縁部。口縁部の軸が割がれ落ちている。内面に圈線が巡り、外面は文様の一部が描かれている。貫入有り。	—	黒色粒	胎:灰白(5Y8/1) 軸:灰白(10Y8/1)
第47図 283	J6	1層	青花碗 底部	—	豊付軸割ぎ。見込みに文様有り。外面胴部下位に圈線と縦線の蓮弁文。高台にも2条の圈線があり、高台内に「和美」の銘款。	底:6.8	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y8/1) 軸:灰白(2.5GY8/1)
第47図 284	J6	1層	褐軸陶器 壺 口縁部	—	内外面口唇部から胴部に施軸。一部露胎。口縁を外に折り、断面は三角形の脚を持つ。	口:8.8	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:灰白(N8/7) 軸:黒褐(5YR2/1)～ にぶい赤褐(5YR5/4)
第47図 285	F3	1層	沖繩産 施軸陶器 碗 口縁部	—	器壁の薄い直口の碗。白化粧し、オリーブ色の透明軸施軸。貫入有り。	—	黒色粒	胎:灰黄(2.5Y7/2) 軸:オリーブ(5Y5/4)
第47図 286	F3	1層	沖繩産 施軸陶器 碗 口縁部	—	外反口縁碗。残存部全面施軸。白化粧し、灰白を施軸。	—	黒色粒 褐色粒	胎:暗黄灰(2.5Y5/2) 軸:灰白(5Y8/1)
第47図 287	J1	1層	沖繩産 施軸陶器 碗 口縁部	灰軸	直口口縁碗。残存部全面施軸。	口:12.8	黒色粒 褐色粒	胎:灰黄(2.5Y7/2) 軸:灰オリーブ(5Y 4/2)
第47図 288	J1	1層	沖繩産 施軸陶器 碗 底部	—	見込みに豊付軸割ぎ。いつちん。白土で内外面に数条の圈線と外面上部に波状文らしき線が施されている。	底:5.6	白色粒	胎:褐灰(10YR5/1) 軸:オリーブ黒(5Y 3/2)
第47図 289	F3	1層	沖繩産 施軸陶器 碗 底部	—	白化粧をし、灰白の透明軸を施軸。見込み蛇の目軸割ぎと豊付軸割ぎ。貫入有り。	底:5.4	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:浅黄(2.5Y7/3) 軸:灰白(2.5Y8/2)
第47図 290	J6	1層	沖繩産 施軸陶器 碗 底部	—	見込みに軸が一部残る。高台断面「ハ」の字状を呈す。見込みに重ねた際の溶着痕のようなものが見られる。	底:7.3	白色粒 褐色粒	胎:にぶい黄橙(10YR 7/4) 軸:黒褐(7.5YR3/2)

第31表 1984(昭和59)年度 試掘調査遺物観察表③

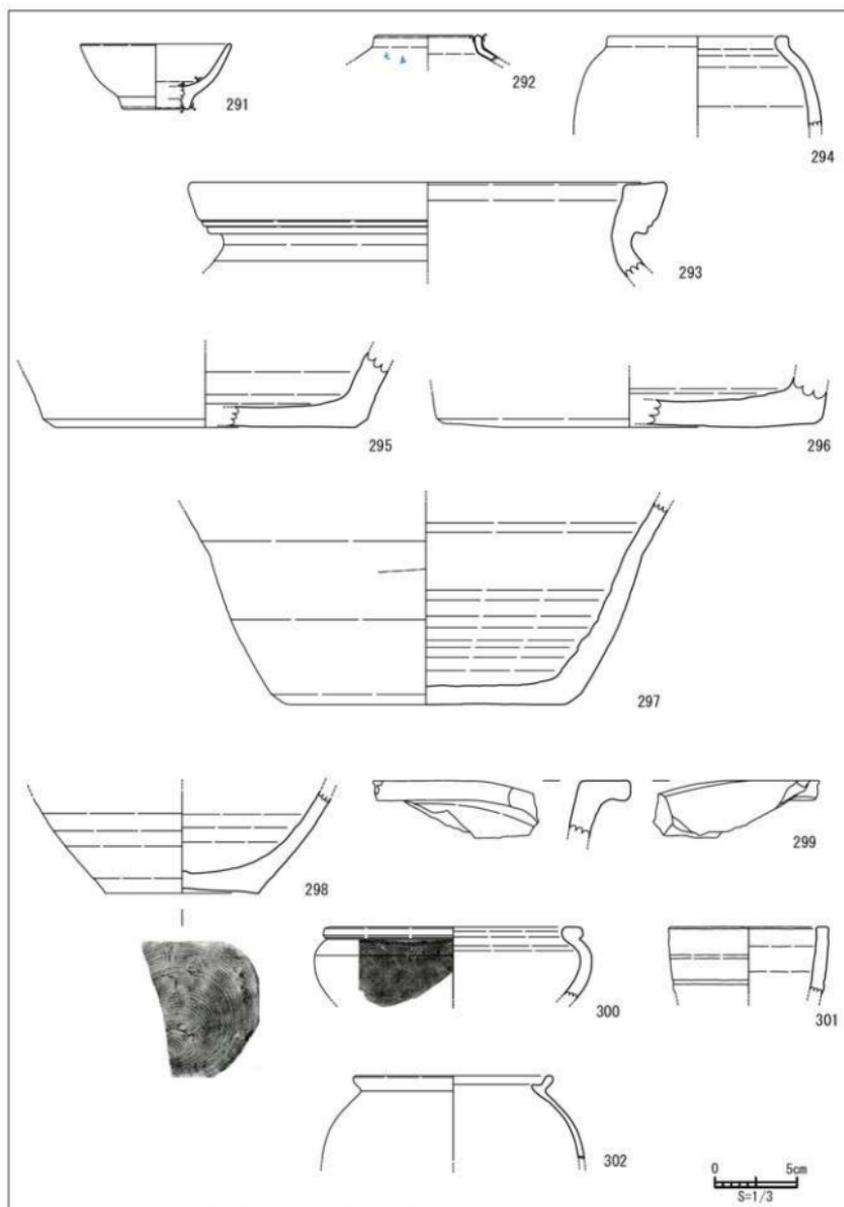
図／番号	出土区	出土層位	遺物種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色調
第48図 291	F3	1層	沖繩産 施軸陶器 小碗 口～底	—	直口口縁碗。高台断面三角。白化粧後、灰白の透明軸をかける。畳付と見込みを蛇の目軸刺ぎ。	口:9.0 底:3.8	黒色粒	胎:浅黄(2.5Y7/3) 軸:灰白(5Y7/1)
第48図 292	J1	1層	沖繩産 施軸陶器 急須 口縁部	—	全面白化粧し、透明軸施軸。口縁部軸刺ぎ。胴部にコバルトで施文。貫入有り。	口:6.0	褐色粒	胎:灰黄(2.5Y7/2) 軸:透明
第48図 293	J1	1層	沖繩産 無軸陶器 壺 口縁部	—	口唇逆L字状を呈する。口縁部に2条の圓線。	口:29.0	黒色粒 褐色粒	胎:にぶい赤褐 (2.5YR5/4)
第48図 294	14	1層	沖繩産 無軸陶器 壺 口縁部	—	広口の小さ。	口:11.0	褐色粒	胎:にぶい赤褐 (2.5YR5/4)
第48図 295	J1	1層	沖繩産 無軸陶器 壺 底部	—	平底。外側に開き気味に立ち上がる。	底:18.4	白色粒	胎:(外)にぶい赤褐 (2.5YR4/4)、(内)暗灰 (N3/7)
第48図 296	J1	1層	沖繩産 無軸陶器 壺 底部	—	平底。ロクロ成形後ナゲ調整。器表面、明赤褐～暗黄灰。	底:23.4	白色粒 褐色粒	胎:黄灰(2.5Y4/1)
第48図 297	J1	1層	沖繩産 無軸陶器 壺 底部	—	内面ロクロ痕顕著。外側に開き気味に立ち上がる。	底:17.0	白色粒 褐色粒	胎:明赤褐(2.5Y5/6)
第48図 298	J6	1層	沖繩産 無軸陶器 壺 底部	—	ロクロ成形。底面は上げ底状で糸切り痕が明瞭。	底:9.4	白色粒 黒色粒 褐色粒	胎:(外)橙(2.5YR 6/6)、(内)暗黄灰 (2.5Y5/2)
第48図 299	J6	1層	沖繩産 無軸陶器 搦鉢 口縁部	—	ロクロ成形とナゲ調整。口縁部が逆L字状に屈曲する。	—	白色粒 黒色粒	胎:灰(10Y6/1)～橙 (5YR6/6)
第48図 300	14	1層	沖繩産 無軸陶器 水鉢 口縁部	—	外面に肥軸をわずかに施す。口唇は玉縁状で、その上面は平坦。口縁部下に沈線波状文を巡らせている。	口:15.0	褐色粒	胎:(外)青灰(5B 6/1)、(内)にぶい 赤褐(2.5YR5/3) 軸:にぶい赤褐 (2.5YR4/3)
第48図 301	14	1層	沖繩産 無軸陶器 香炉 口縁部	—	筒型を呈す。口唇平坦。	口:9.4	褐色粒	胎:にぶい赤褐 (2.5YR4/3)
第48図 302	14	1層	沖繩産 無軸陶器 急須	—	陶質土器。薄手の急須。胴部に丸味を帯びる。内面口縁部に蓋受けが巡る。	口:12.0	黒色粒	胎:橙(2.5YR6/8)
第49図 303	14	1層	沖繩産 無軸陶器 急須	—	陶質土器。外面から注口を貼付けている。胴部は丸味を帯びる。外面に煤が附着している。	—	褐色粒	胎:橙(5YR7/8)
第49図 304	J1	1層	近現代 磁器碗 口～底	—	外反口縁碗。残存部全面施軸後、畳付軸刺ぎ。外面と見込みにゴム版による給付けが施されている。	口:11.2 底:4.2	—	胎:白色、緻密 軸:透明
第49図 305	G1	1層	近現代 磁器碗 口縁部	—	直口口縁碗。残存部全面施軸。外面口縁部に一条の圓線とゴム版で輪が施されている。	—	褐色粒	胎:白 軸:明緑灰(7.5GY 8/1)
第49図 306	14	1層	近現代 磁器碗 口縁部	—	外反口縁碗。残存部全面施軸。	口:11.8	褐色粒	胎:白色、緻密 軸:明緑灰(10GY8/1)

第32表 1984(昭和59)年度 試掘調査遺物観察表④

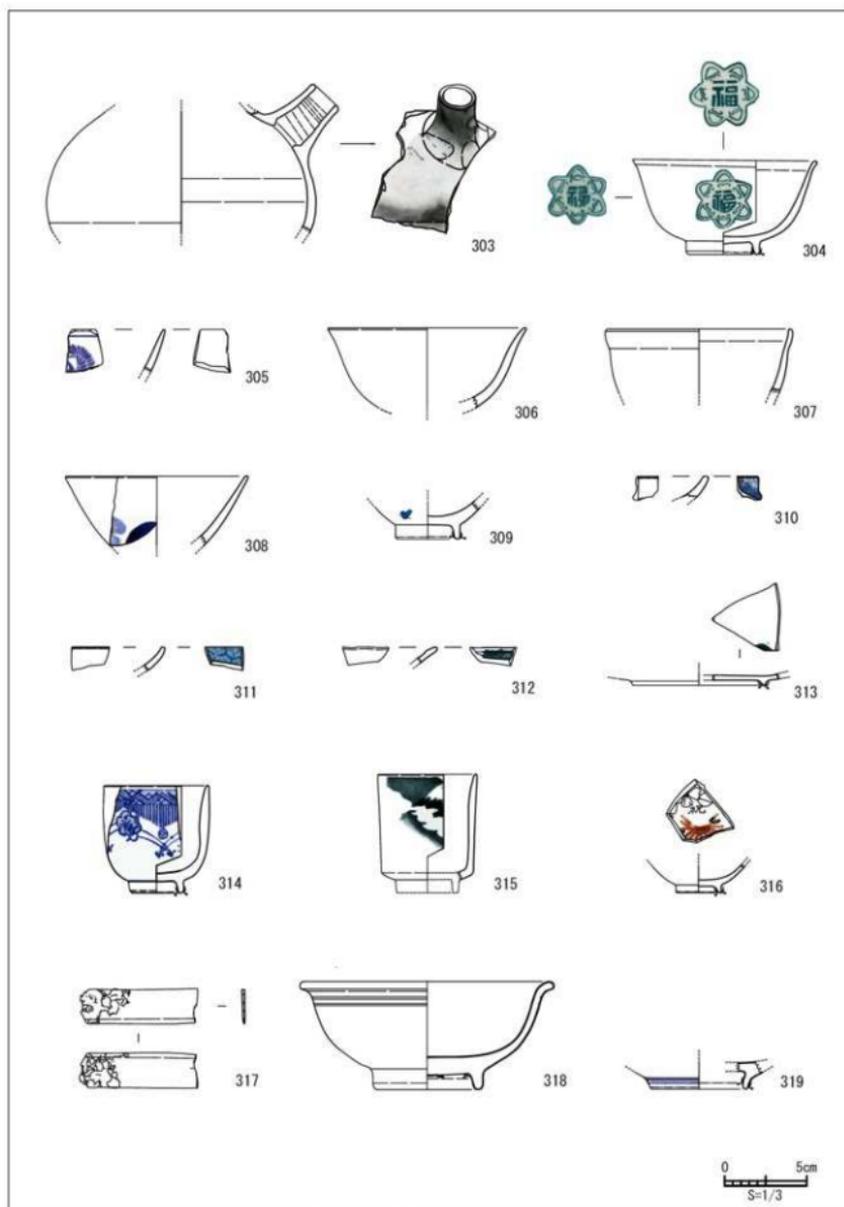
図/ 番号	出土区	出土 層位	遺物 種別	分類	観察事項	復原径 cm	胎土 混入物	色 調
第49図 307	14	1層	近現代 磁器碗 口縁部	—	残存部全面施軸。口縁部付近で一旦寸ばまる。	口:11.0	黒色粒	胎:灰白(5Y8/1) 軸:黒褐(5YR2/2)
第49図 308	14	1層	近現代 磁器碗 口縁部	—	残存部全面施軸。外面に草花文が描かれている。309と同一個体。	口:11.0	白色粒	胎:白色、緻密 軸:透明
第49図 309	14	1層	近現代 磁器碗 底部	—	透明軸を全面施軸後、疊付軸剥ぎ。外面胴部下に文様の一部が描かれている。308と同一個体。	底:3.6	白色粒 黒色粒	胎:白色、緻密 軸:透明
第49図 310	F3	1層	近現代 磁器皿 口縁部	—	残存部全面施軸。口縁。銅版転写による文様が施されている。	—	—	胎:灰白(7.5Y8/1)、 緻密 軸:透明
第49図 311	14	1層	近現代 磁器皿 口縁部	—	ロケロ成形。残存部全面施軸。口縁。内面に型紙刷りによる文様が施されている。	—	—	胎:白色、緻密 軸:透明
第49図 312	14	1層	近現代 磁器皿 口縁部	—	陵花皿。残存部全面施軸。内面口縁部に文様の一部が見られる。	—	—	胎:白色、緻密 軸:灰白(2.5GY8/1)
第49図 313	14	1層	近現代 磁器皿 底部	—	全面施軸後、疊付軸剥ぎ。高台が低く、断面逆三角形を呈す。内面に文様の一部が描かれている。	底:8.0	—	胎:白色、緻密 軸:明青灰(5B7/1)
第49図 314	J1	1層	近現代 磁器湯飲 口～底	—	疊付軸剥ぎ。型紙施文による染付。	口:6.1 底:3.0	黒色粒	胎:白色、緻密 軸:透明
第49図 315	J1	1層	近現代 磁器湯飲 口縁部	—	残存部全面施軸。外面に吹き絵で富士山の文様が施されている。	口:6.0	—	胎:白色、緻密 軸:透明
第49図 316	J1	1層	近現代 磁器小杯 底部	—	軍杯。全面施軸後、疊付軸剥ぎ。見込みに「祝」の文字と桜、色絵で旭日旗が描かれている。	底:2.7	—	胎:白色、緻密 軸:透明
第49図 317	J1	1層	鉄片	—	現代遺物? 刀子と思われる。刀部が失る。	—	—	—
第49図 318	J6	2層	青磁碗 口～底	上DII	外反口縁碗。高台内蛇の目軸剥ぎ。口縁端部に丸味を持つ。口縁部に2条の圈線が巡る。貫入有り。	口:15.4 底:6.4	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y8/1) 軸:明緑色
第49図 319	J1	2層	青花碗 底部	—	全面施軸後、疊付軸剥ぎ。底部断面逆「ハ」の字状を呈す。高台際と高台にそれぞれ1条の圈線が巡る。貫入有り。	底:5.8	黒色粒 褐色粒	胎:灰白(2.5Y8/2) 軸:灰白(10Y8/1)



第47図 1984(昭和59)年度 試掘調査遺物実測図①



第48図 1984(昭和59)年度 試掘調査遺物実測図②



第49図 1984(昭和59)年度 試掘調査遺物実測図③

第3章 2015年度調査出土の動物遺体

名古屋大学博物館 新美倫子

屋比久グスクの2015年度調査では、グスク期から近現代までの動物遺体が出土した。それらのうち、ここでは貝類以外の資料について報告する。貝類以外の動物骨は908点出土しており、いずれも発掘時に取り上げられたものである。資料には割れて小さな破片となった骨が多く、これは発掘地点がくり返し利用され、掘り返されたことが大きく影響していると思われる。継続的な土地利用が近現代まで続いた結果、908点のうち約3割の271点は近現代の遺構及び攪乱層(2層)からの出土であった。

すべての動物骨について出土種名を第33表に、魚類の出土内容を第34表に、哺乳類の出土内容を第35～42表に示し、以下にその内容について述べることにする。なお、伊達市噴火湾文化研究所の西本豊弘先生には種同定に関して御教示をいただき、南城市教育委員会の津波陽子氏にはこの資料を分類する機会を与えていただいた。ここに感謝いたします。

第33表 出土動物種名

I. 魚類	III. 鳥類
1 サメ類	1 種不明
2 フェフキダイ類	
3 ハタ類	IV. 哺乳類
4 ヘダイ	1 イノシシ類
5 ベラ類	2 ウシ
6 ブダイ類	3 ウマ
	4 イヌ
II. 爬虫類	5 ヤギ
1 ウミガメ類	6 ヒト

1. 魚類 (第34表)

魚類は13点が出土した。その内訳は、攪乱層からの出土が4点、近世～近代に属する資料が1点、近世のものが4点、グスク期が4点であり、種別に見るとフェフキダイ類が4点(うち1点はフェフキダイ類?)、サメ類3点、ベラ類3点、ハタ類1点、ヘダイ1点、ブダイ類1点である。なお、種同定不可能な棘破片などの3点は、上記の出土点数に含めていない。

フェフキダイ類は前上顎骨・上顎骨が各1点と椎骨2点が見られた。上顎骨と近世の石組み遺構出土の第一椎骨はハマフェフキに非常によく似ている。一方、フェフキダイ類?とした椎骨はフェフキダイ類の可能性が高いと思われるが、他種の可能性を完全に排除できないので?をつけた。いずれの資料も体長35cmのキツネフェフキ現生標本よりもかなり大きい。サメ類は3点ともホオジロザメタイプの椎骨で、直径は21～31mmであった。

ベラ類とした資料は多くの種が含まれるベラ科の中でタキベラ亜科と思われる資料で、前上顎骨・上咽頭骨・下咽頭骨が1点ずつ見られた。前上顎骨の形態はクサビベラに近く、上咽頭骨・下咽頭骨はシロクロベラによく似ている。いずれも体長41cmシロクロベラ現生標本よりもかなり大きい。ハタ類はアカハタによ

く似た前上顎骨で、体長 50～60 cm 程度の個体と思われる。ヘダイも前上顎骨が見られ、その長さは 33 mm 程度である。ブダイ類は下咽頭骨が見られ、体長 30 cm のナンヨウブダイ現生標本と形態は少し異なるが、ほぼ同じ大きさであった。

第34表 魚類出土内容

時期	遺構など	層位	種	部位・点数	計
近現代	包含層	2	サメ類	椎骨2	4
			フエフキダイ類	上顎骨右1	
			ベラ類	前上顎骨右1	
近世～近代	包含層	3	ハタ類	前上顎骨左1	1
近世	石組遺構	覆土	フエフキダイ類	椎骨1	4
			サメ類	椎骨1	
	包含層	5	フエフキダイ類	前上顎骨左1	
			フエフキダイ類?	椎骨1	
グスク	包含層	7	ヘダイ	前上顎骨右1	4
			ベラ類	上咽頭骨右1	
			8	ブダイ類	
		9	ベラ類	下咽頭骨1一部焼	
計					13

註 焼: 焼けた資料。

2. 爬虫類・鳥類

爬虫類は、攪乱層からウミガメ類の甲羅破片(1点は甲羅?破片)が2点出土した。鳥類は近世に属する種不明の四肢骨中間部が1点のみ出土した。

3. 哺乳類 (第35～42表)

出土した動物骨 908 点のうち、大部分の 888 点は哺乳類である。先に述べたように、これらには割れて小さな破片となった骨が多い。そこで、第 35～42 表では四肢骨の関節部分などについて、1/2 以上残存している資料を 1 点と数え、1/2 程度残っているものは半欠、それ以下なら破片と表記した。四肢骨中間部は、全周が残っているものを 1 点と数え、そうでないものは破片と記した。ただし、寛骨については寛骨臼の残存している資料を 1 点と数え、寛骨臼の残存しない資料は破片扱いしている。

なお、細かく割れているため種名が確定できなかった資料も多い。これらについては、破片の厚さや形状から見てウシまたはウマであるが、どちらであるかは判別できない資料 299 点を「ウシまたはウマ」として第 38 表にその内容を示し、同様に家畜も含めた陸生哺乳類の破片であるが、それ以上は分類できなかった資料 175 点を「陸獣」として第 42 表に内容を示した。

a. イノシシ類 (第35表)

233 点と哺乳類の中で最も多く出土した。このグループには飼育されたブタと野生のイノシシの両方を含むが、出土した資料の多くは後述のようにブタであると思われる。資料の所属時期は、近現代の遺構と攪

乱層のものが78点、近世～近代のものが24点、近世のものが94点、グスク期～近世のものが4点、グスク期のものが33点である。まず、これらのうちの攪乱層は別にして、ある程度出土量がまとまっている近世～近代・近世・グスク期における資料群の年齢構成について検討してみたい。

最も確実に年齢を判断できるのは上顎骨・下顎骨であるため、近世～近代・近世・グスク期の3時期において、出土した上下顎骨から年齢別最小個体数を数えてみると、近世～近代とグスク期はそれぞれ若獣が1個体であり、近世は幼獣1個体と若獣3個体となる。近世の若獣3個体は雌下顎骨2点と雄下顎骨1点に由来し、このうち雌下顎骨は左右1点ずつなので同一個体のようにも見えるが、両者は形態から見て別個体である。そして、3時期とも成獣と確定できる顎骨や歯は出土していない。一方、主要な四肢骨の近位部・遠位部で見ると、成長が終わって骨端の癒合した資料は近世～近代では上腕骨遠位部1点、近世では上腕骨遠位部2点が出ているものの、グスク期では出土しておらず、大部分の資料は成長途中で骨端のはずれた若い個体のものである。そして、近世～近代とグスク期では幼獣の小さな寛骨・上腕骨も出土している。以上の点から、近世～近代・近世・グスク期のいずれにおいても若獣が主体であり、幼獣が少し混じり、成獣はほとんど含まれていないと考えられる。このような若獣が主体となる年齢構成は家畜集団に多く見られる。

次に、出土したイノシシ類がブタかイノシシかについて、資料の形質を検討したい。両者を区別するための形質の特徴が最も顕著にあらわれるのは頭蓋骨・下顎骨である。しかし、当遺跡では頭蓋骨はすべて割れて破片となっており、その特徴がよくわからない。一方、ある程度全体形が残っている下顎骨は4点出土しているので、これら(1)攪乱層出土の雌若獣左下顎骨、近世包含層出土の(2)幼獣左右下顎骨、(3)雌若獣左下顎骨、(4)雌若獣右下顎骨、(1)～(4)は第35表のNo.と対応)を現生リュウキュウイノシシ下顎骨と比較した。すると、これらにはそれぞれ野生イノシシと異なる以下の特徴が見られた。

- (1): 第三前臼歯・第四前臼歯が乱ぐい歯であり、歯列が乱れている。
- (2): 左右の下顎骨体がなす角度が大きい。
- (3): 第四前臼歯が乱ぐい歯であり、歯列が乱れている。下顎枝が垂直に立ち上がる。
- (4): 下顎枝が垂直に立ち上がる。

また、これら4点には共通して同年齢のイノシシと比べて骨体の肥大も認められた。上記の特徴はいずれも家畜に伴う形態の変化であり、4資料とも野生イノシシではなく家畜のブタであると考えられる。さらに、下顎骨以外で形態変化がわかりやすい部位である環椎が1点のみ近世包含層から出土しているが、これもイノシシと比べて上面がなだらかで低く、ブタであることを示している。これら下顎骨・環椎に見られる特徴と先述の年齢構成から見て、当遺跡のイノシシ類の多くはブタであると考えられる。なお、四肢骨の形質は破片となった資料が多いためにはっきりしないが、寛骨の多くで野生イノシシとは異なり腸骨部分が厚い点がめだつた。また、頭蓋骨が正中線で縦に割られているケースが多く、これは解体方法を示すものと思われる。

第35表 イノシシ類出土内容

時期	遺構など	層位	部位・点数	小計	計				
近現代	埋蔵遺構1	覆土	下顎右C1♀	1	78				
		覆土	下顎左C♂1若、寛骨右坐破片1	1					
	埋蔵遺構2	包含層	2	上顎骨(x×x)M2部分、M3未出、若		76			
				上顎左M1、上顎骨破片1					
				頭頂骨+後頭骨破片1同一、頭頂骨破片+後頭骨破片1同一					
				後頭骨頭頂突起右1、後頭骨破片1					
				側頭骨左下顎関節高部分あり+後頭骨頭頂突起部分在1同一若					
				側頭骨下顎関節高部分のみ左1、右1					
				側頭骨右下顎関節高部分なし1、若、頭蓋骨破片1					
				下顎骨左(xP34M1)♀2萌出完了前後、若..(1)					
				下顎骨左(P4)					
				下顎左i2 1、右M2萌出途中1、下顎骨右破片2					
肩甲骨左1、破片6、右1若、左右不明破片1、上胸骨右中～下1									
機骨左1若下ハズレなし、上1、下関節部のみ1若、中破片1									
機骨右1上、中1、中破片1、尺骨左1、右1									
寛骨左恥1、腸破片1、坐破片1、右腸1、1若?									
大腿骨左1若上下ハズレなし、下関節部のみ破片1若									
大腿骨右1若上顎のみ1若、中1一部焼、中破片1									
脛骨左中1若?、右中1、膝骨中破片1、距骨右1、踵骨左1									
膝蓋骨左1、中足骨111左上1、中手足骨(側指)1若上下ハズレなし									
仙骨破片1、椎骨4若、破片2、肋骨破片13									
近世～近代	埋蔵遺構1	覆土	頭蓋骨破片7+上顎骨右(M1②)M2萌出途中、同一若	24					
		覆土	頭頂骨左1、側頭骨右1、前頭骨左破片1、1幼						
	包含層	3	頬骨左破片1、鼓室胎左1右1同一、上顎骨左破片1		24				
			肩甲骨左破片1、上胸骨右1上関節部のみ半欠1若、中～下1、中1						
			寛骨左腸破片1、坐1幼、右腸破片2、脛骨左中1若、距骨左1						
			中足骨1V左下1若下ハズレなし、椎骨1若、破片1、肋骨破片3						
			石組遺構			覆土	下顎骨破片1、肩甲骨破片1	5	
							上胸骨左中1一部焼、尺骨左下1、寛骨右恥1		
							P1 覆土 脛骨左中1、四肢骨破片1		2
							P2 覆土 下顎右C♀1		1
							P3 覆土 肋骨破片1		1
							P4 覆土 椎骨半欠1若		1
P19 覆土 寛骨右腸破片1、大腿骨左下1若下ハズレなし一部焼	2								
P23 覆土 前頭骨左破片1若?	1								
P30 覆土 中手足骨111右1上	1								
近世	埋蔵遺構1	覆土		頭頂骨右+側頭骨右+後頭骨破片1同一	94				
		覆土	後頭骨左破片1若、右4若、頭蓋骨破片1						
	包含層	5	下顎骨左(xP34M12③)M3未出♀若、関節突起あり..(3)	80					
			下顎骨左(i1×x×x×m34M③)M1萌出途中、M2未出、幼..(2)						
			上顎骨(x×x)M2部分						
			上顎骨(x×x)M23部分、M3萌出途中、M3未出♀若..(4)						
			下顎骨右(P1m2)のみ未出P2あり、若						
			下顎骨左破片1、左右不明破片11						
			下顎左11 1、未出1、萌出途中1、C♀2、M2 1						
			下顎右1 2、13 1、C♀1、i2 2、m4 1、左右不明破片1						
			環椎1、肩甲骨左破片1、右1若?、左右不明破片4						
			上胸骨左中～下1、1一部焼、右中～下1若下ハズレなし						
機骨左中1、寛骨左腸1若?、腸破片1、坐1、右坐2、恥1									
大腿骨右1若上下ハズレなし、下関節部のみ1若									
脛骨左上1若上下ハズレなし									
脛骨右1上中1若上下ハズレあり、中～下1若下ハズレなし、中1、1若									
踵骨右1、中手足骨111左上1、中手足骨(側指)なし									
中手足骨下関節部のみ1若、椎骨2若、破片4、肋骨破片9									
大腿骨右1上顎のみ1若、下関節部のみ半欠1若									
距骨右1、中手足骨111右1上									
グスク～近世	埋蔵遺構1	覆土	頭頂骨右破片1若、左右不明破片1、下顎2?破片1、下顎骨右破片1	4					
		覆土	上顎右C萌出途中1♀若、下顎右M1 1、大腿骨左上～中1若上下ハズレなし						
	包含層	7	脛骨右中1、中足骨111右1若下ハズレなし、肋骨破片1		6				
			頭頂骨左+右1同一、後頭骨左1若、後頭骨頭頂突起右1						
			上顎骨左(x×x)123部分						
			上顎骨左(x×x)M23部分、M3萌出途中か、若						
			上顎右11 1、上顎骨右破片1、下顎左?11 1、右P3 1、頭蓋骨破片2						
			上胸骨右1若下ハズレなし、中1幼、寛骨左腸1、坐破片1、右坐1						
			大腿骨左中1、脛骨左上関節部のみ1若、椎骨1若、肋骨破片1						
			10 大腿骨右中1若			1			
			11 脛骨右上関節部のみ1若			1			
			12 下顎左M2 1			1			
グスク	埋蔵遺構1	覆土	頭頂骨右破片1若、左右不明破片1、下顎2?破片1、下顎骨右破片1	33					
		覆土	上顎右C萌出途中1♀若、下顎右M1 1、大腿骨左上～中1若上下ハズレなし						
	包含層	8	脛骨右中1、中足骨111右1若下ハズレなし、肋骨破片1		20				
			頭頂骨左+右1同一、後頭骨左1若、後頭骨頭頂突起右1						
			上顎骨左(x×x)123部分						
			上顎骨左(x×x)M23部分、M3萌出途中か、若						
			上顎右11 1、上顎骨右破片1、下顎左?11 1、右P3 1、頭蓋骨破片2						
			上胸骨右1若下ハズレなし、中1幼、寛骨左腸1、坐破片1、右坐1						
			大腿骨左中1、脛骨左上関節部のみ1若、椎骨1若、肋骨破片1						
			10 大腿骨右中1若			1			
			11 脛骨右上関節部のみ1若			1			
			12 下顎左M2 1			1			
計				233					

注 上切歯、C: 犬歯、P: 前臼歯、M: 後臼歯、I: 乳切歯、c: 乳犬歯、m: 乳臼歯、1・P・M・1・mに付る数字は歯の順番を示す。()は顎骨があることを示し、×は歯が脱落していることを示す。○のついた歯は未出または萌出途中であることを示す。上: 近位部、中: 中間部、下: 遠位部、上・中・下のないものは完存。
幼: 幼獣、若: 若獣、老: 老獣、幼若: 老のなみの成獣、腸: 腸骨部分、坐: 坐骨部分、恥: 恥骨部分、後: 焼けた資料、ハズレなし: 成長途中であるため骨髄が分離して、かつ残存していることを示す。ハズレあり: 同様に分離して残存することを示す。同一: 同一個体。

b. ウシ (第36表)

132点とイノシシ類について多く出土した。時期別に見ると、攪乱層から46点出土し、近世～近代に属する資料が14点、近世が35点、グスク期～近世が1点、グスク期が36点である。

これらの年齢を見ると、近世～近代と近世ではそれぞれ乳臼歯と萌出完了した第三後臼歯が出土している。幼獣または若獣と成獣の両方が含まれている。グスク期においても、第二後臼歯が萌出途中の下顎骨や萌出途中の第三後臼歯が出土するので、若獣が含まれていることは明らかである。

個体の大きさについては、歯と骨端の癒合した四肢骨の大きさを現生改良和種標本(石垣市産)と比較すると、どの時期においても標本とほぼ同程度のものが多い。標本より若干小さいまたは大きい資料も見られるものの、この範囲から大きくはずれるものはなかった。

第36表 ウシ類出土内容

時期	遺構など	層位	部位・点数	小計	計
近現代	包含層	2	側頭骨右破片1、上顎左P2 1、M1M2 各1同一老、M3 1	46	46
			上顎右P2 1、P3 1、M1 1破損		
			下顎左I2or3 1、P3 2、P4未出1、萌出途中1、M3 1、m4 1		
			下顎右M2 1、M3半欠1、歯破片5、下顎骨左破片3		
			肩甲骨右関節部破片1、上腕骨右下1		
			橈骨左上破片1、下関節部のみ半欠1若、中1		
			橈骨右上～中1、尺骨右破片1、中手骨右上～中1		
			寛骨破片1		
			大腿骨左上骨頭部分のみ1、中～下1若下ハズレなし		
			大腿骨右下破片1、左右不明大腿骨頭破片1		
脛骨左中1、右中破片1、距骨右1、破片1					
中足骨右中～下1、左右不明中破片1					
基節骨下1、破片1、手根足根骨1					
近世～近代	包含層	3	上顎右m4 1、下顎左P3 1、M3 1、歯破片1	12	14
			橈骨左下破片1、大腿骨右中1若		
		4	末節骨1、破片1、手根足根骨4	2	
近世	石組遺構	覆土	上顎右M3 1、下顎右I1 1	4	35
			上顎骨左中破片1、脛骨左下破片1一部焼		
	P2	覆土	歯破片1	1	
			P26	覆土	下顎左M3破片1
	包含層	5	岩株骨左1、頭蓋骨破片1、角芯破片5、先端部破片1	29	35
			上顎左m4 1、右P4 1、m2半欠1		
下顎左M3 1、歯破片1、下顎骨破片1					
包含層	5	肩甲骨右破片1、上腕骨左上1、下破片1	29	35	
		尺骨左中破片1、中手骨右中1、破片2			
		寛骨右端破片1、恥骨片1、脛骨左中1、右中～下1			
包含層	6	距骨右1、中足骨左上～中1若、基節骨1、末節骨1	1	1	
		上顎左P4 1			
		SK1			覆土
グスク	包含層	8	歯破片1	19	36
			側頭骨下顎関節窩部分のみ左1		
			上顎左P4 1、右M3萌出途中1		
			下顎骨右 (P3m4M1②③) M2萌出途中、P3M3未出、若		
			下顎左M2 1、右I1 1、臼歯破片1、肩甲骨左破片1		
			上腕骨右下半欠1、中破片1、中手骨中破片1		
寛骨右端破片1、大腿骨右骨頭のみ1、中破片1					
包含層	9	脛骨左中1、基節骨1、椎骨1、手根足根骨2	7	36	
		下顎関節突起右1			
		肩甲骨左1、橈骨右上～中1、寛骨右端破片1			
包含層	10	大腿骨頭破片1若、中足骨左上1、手根足根骨1	7	36	
		後頭額左1右1+後頭骨頸靜脈突起左1右1同一			
包含層	10	肩甲骨破片1、上腕骨右中1、橈骨右中1	7	36	
		中手骨右上～中1、大腿骨右中1、脛骨左中破片1			
計				132	

註 第35表と同じ。

c. ウマ (第37表)

ウマは24点見られたが、出土量はウシよりかなり少ない。時期別の出土点数は、攪乱層が10点、近世～近代が1点、近世が5点、グスク期が8点である。攪乱層と近世～近代層から遊離骨が4点出土したが、いずれも永久歯で乳歯は含まれておらず、摩滅の少ない比較的若い個体のものから摩滅の進んだ老獣のものまで見られた。一方、主要四肢骨を見ると、骨端のはずれた若獣資料と癒合した成獣資料が出土しているが、四肢骨は部位によって骨端が癒合する時期が少しずつ異なるため、その年齢区分は顎骨や歯から見たものとは少しずれる。

骨端の癒合した四肢骨はいずれも筆者所有の現生ヨナグニウマ標本とほぼ同じ大きさだが、体高を復元できる完存資料はなかった。また、歯4点のうち、攪乱層出土の上顎第三臼歯は現生標本よりもかなり小さかったが、他の3点は現生標本程度の大きさであった。

第37表 ウマ出土内容

時期	遺構など	層位	部位・点数	小計	計
近現代	包含層	2	上顎左P2 1老、右M3 1、下左M2 1 下顎骨左破片1、左右不明破片1 脛骨左中1、右中1若、中足骨左上破片1 椎骨1、手足根骨1	10	10
		近世	包含層	3	上顎右12 1
近世	包含層	P5	覆土 下顎骨左破片1	1	5
		5	肩甲骨左1、右關節部半欠1 上腕骨右中～中1若上ハズレあり 椎骨1若	4	
グスク	包含層	7	脛骨右中1	1	8
		8	鼓室胞右半欠1 上腕骨左下半欠1、中2 上腕骨右中～下1若下ハズレあり 椎骨左中1若、脛骨左中1若?	7	
計					24

註 第35表に同じ。

第39表 イヌ出土内容

時期	遺構など	層位	部位・点数	小計	計
近世	包含層	3	側頭骨下顎関節窩部分のみ右1	1	1
		5	椎骨1、肋骨破片1	2	2
グスク	包含層	SK1	覆土 中手中足骨下1	1	6
		9	下顎骨右 (P23AM1) - (××) 関節突起あり 上腕骨左下1、右中～下1 椎骨左中～下1、中手中足骨上1	5	
計					9

註 第35表に同じ。

d. イヌ (第39表)

イヌは近世～近代に属する資料が1点、近世のものが2点、グスク期のもの6点の計9点が出土した。このうち、グスク期の9層では右下顎骨・左右の上腕骨・左椎骨がまとまって出土した。この下顎骨の骨体は破損のため大部分が失われていて形質はよくわからないが、第一後臼歯の長さは18.1mmであり、小型のイヌである。左右の上腕骨は形態から見て同一個体のものと考えられる。この上腕骨と椎骨も現生柴犬程度の大きさであり、これら4点は同一個体由来する可能性がある。また、近世～近代に属する側頭骨下顎関節窩部分も現生柴犬程度の大きさであった。

第38表 ウシ or ウマ出土内容

時期	遺構など	層位	部位・点数	小計	計	
近現代	包含層	2	頭蓋骨破片2、四肢骨破片47 肋骨破片3、不明破片31、線1	90	91	
		3	頭蓋骨破片1、四肢骨破片21 不明破片14	36		36
近世	包含層	右組遺構	1	環椎?破片1、不明破片1	2	82
		P1	覆土	四肢骨破片3、不明破片1	4	
		P2	覆土	不明破片1	1	
		P3	覆土	肋骨破片1、不明破片1	2	
		P4	覆土	不明破片1	1	
		P17	覆土	肋骨破片1	1	
		P19	覆土	四肢骨破片1	1	
		P23	覆土	肩甲骨破片1、不明破片3	4	
		5	四肢骨破片33、線1 椎骨破片5、肋骨破片7 不明破片20	66		
		6	不明破片5	5		
グスク	包含層	SK1	覆土 椎骨破片2、不明破片1	3	85	
		7	四肢骨破片4、椎骨破片1 不明破片6、線1	12		
		8	四肢骨破片4、不明破片27 肋骨破片4	58		
		9	四肢骨破片5、不明破片4	9		
10	不明破片3	3				
計					299	

註 第35表に同じ。不明破片：部位不明の破片。

e. その他 (第40・41表)

その他の種としては、ヤギ・ヒト・ネコが見られた。ヤギは攪乱層から7点と近世の資料が1点の計8点が出土した。攪乱層から出土した7点のうちの4点は上顎後臼歯であるが、形がよく似た第一後臼歯と第二後臼歯のいずれであるかは確定できなかった。攪乱層では他に下顎骨破片・肩甲骨・上腕骨近位部破片が各1点見られた。近世に属する資料は脛骨遠位部であり、焼けていた。いずれの資料も、在来種と西洋種の交雑個体である現生ヤギ標本(南城市産)と比較すると、かなり小さい。

ヒトは6点出土し、その内訳は近現代の埋蔵遺構1から肋骨破片1点、攪乱層から下顎第一後臼歯1点、近世の石組遺構から肋骨破片1点と、グスク期の包含層から橈骨遠位部・尺骨中間部破片・上顎第二切歯各1点である。橈骨遠位部は現代男性標本より少し細く、尺骨中間部は現代男性より少し太い。第一後臼歯には摩滅が少し見られ、第二切歯は現代人標本よりやや小さかった。

ネコは攪乱層から中足骨近位部が1点と、近世のP23から橈骨中間部が1点出土した。中足骨の近位部は、保存状態から見てかなり新しい時代のもと思われる。

他に、哺乳類であるかどうかもわからない小さな不明骨片が攪乱層で1点、近世の包含層で3点出土した。

第40表 ヤギ出土内容

時期	遺構など	層位	部位・点数	計
近現代	包含層	2	上顎左M1orM2 1	7
			上顎右M1orM2 2、半欠1	
			下顎骨左破片1	
近世	石組遺構	覆土	肩甲骨左1、上腕骨左破片1	1
			脛骨右下1焼	
計				8

註 第35表に同じ。

第41表 ヒト出土内容

時期	遺構など	層位	部位・点数	計
近現代	埋蔵遺構1	覆土	肋骨破片1	2
			2 下顎左M1 1	
近世	石組遺構	覆土	肋骨破片1	1
グスク	包含層		7 橈骨左下1、尺骨左中破片1	3
			10 上顎右12 1	
計				6

註 第35表に同じ。

第42表 種不明胎獣出土内容

時期	遺構など	層位	部位・点数	計		
近現代	包含層	2	不明破片27、焼2	29		
近世～近代	包含層	3	不明破片9	12		
		4	不明破片3			
近世	石組遺構	覆土	不明破片7	80		
			P1 不明破片1			
			P2 不明破片4			
			P3 不明破片6			
			P4 不明破片1			
			P7 不明破片1			
			P8 不明破片1			
			P14 不明破片1			
			P17 不明破片7、焼1			
			P19 不明破片3			
			P30 不明破片2、焼1			
			包含層		5	不明破片44
			包含層		6	不明破片5
			グスク～近世		包含層	6
グスク	包含層	SK1 覆土	不明破片3	49		
		P32 覆土	不明破片2			
		7	不明破片7			
		8	不明破片32			
		9	不明破片3			
		10	不明破片2			
計				175		

註 第38表に同じ。

第4章 まとめ

屋比久グスクは、13～14世紀の遺跡とされている。今回の調査では、調査区の中央から東側は近現代に削平され、西側にのみ往時の遺物包含層が残存しており、グスク時代から近世～近現代の遺構が確認された。グスク時代の遺構と考えられる小穴や土壇、近世～近現代の遺構と考えられる埋甕遺構や石組遺構、溝状落ち込み、柱穴をそれぞれから検出した。

グスク時代の小穴については、上層及び周辺で造成工事等による攪乱を受けているため、小穴のつながりについては確認できず、グスク時代の建物跡のプラン等を想定することはできなかった。しかし、B2・C2グリッドの11層を掘り下げた際、B1・C1グリッド側へ急に落ち込む状況が確認できた。今回の調査箇所は、馬蹄形地形の斜面地であることや湿地帯である等の地形的な状況から、グスク時代の切岸であると想定することができる。実際、調査期間中も大雨が続き、水が湧き出てくるため調査が思うように進まなかった経緯がある。このことから、本地域を屋比久グスクの防御の一つとして利用していた可能性が考えられる。

また、7層の堆積状況から整地層が数枚確認されており、焼土や炭を含む層が交互に重なっていることから、耕作地として造成していたと考えられる。屋比久グスクの防御である切岸として利用された後、農業の発達に伴い、湿地帯であることを利用して整地面で耕作が行われたものと想定される。整地層からの出土遺物に近世遺物がみられないことから、グスク時代に相当すると思われる。ただし、上層の2b層が、近現代の建物解体後、客土を行って造成しているため、平面図に切岸の想定ラインの破線を引くことに留めることとする(第9図)。

7層以降では、グスク時代相当期の遺物包含層を確認することができた。7層以降からは、グスク土器が最も多く、次いで青磁、カムイヤキ、褐釉陶器、白磁と続いている。その多くは小片であるものの、実数との差異は少ないと考えている。古いものでは、大宰府編年Ⅳ類(11世紀後半～12世紀前半)の白磁玉縁口縁碗等がみられるが、出土数の多い青磁は、上田編年のⅡ類以降が多数を占めており(14世紀後半～15世紀前半)、褐釉陶器、青花も15世紀前半から出土するようになってくる。遺物の出土状況から考えると、遅くとも14世紀頃には成立していたと考えられる。

また、近世～近現代の遺構については、埋甕遺構2基を検出した。埋甕遺構1内から、鉄鍋やスカンマカイを含む近現代磁器、プラスチック製品、ランプ等が出土していることから、近現代の貯蔵甕のような役割を担っていたと考えられる。埋甕遺構2についても、埋甕遺構1と同様に近現代の造成層と同時期であると考えられる。甕の内側の亀裂が走る部分に漆喰で補修がなされており、貯蔵甕または水甕として利用されたと思われる。

溝状遺構については、近現代の建物の雨端の可能性が考えられる。1945(昭和20)年頃の米軍の航空写真を確認すると、この位置に住居が建っていることがわかる。また、1977(昭和52)年の航空写真を確認すると、地番内に建物が3棟ほど建っているようにもみえる。明確な位置は断定できないが、基礎固めの石が検出されたP8が柱の1つとなり、戦前または戦後の航空写真で確認できた建物のどちらかが、溝状落ち込みに沿うように建っていたという可能性も考えられる。2b層から出土する瓦については、戦後の建物を解体した際に破棄されたものと思われる。

石組遺構については、獣骨や魚骨、貝等が出土していることから食糧残滓と考えられ、近世のゴミ捨て場としての可能性が考えられる。または、水が溜まりやすい土地であることから、雨水を溜めるクムイのとして利用された可能性も考えられる。石組遺構は、C1 グリッドのP1 とつながった形態となっており、覆土も類似し、P1 が石組遺構に切られていると思われるため、両遺構の関係性も含めてその利用法については他の事例を収集しながら今後検討したいと考える。

以上のことから、本地域はグスク時代における屋比久グスクの防御としての機能を持った範囲に該当すると考えられる。また、近世～近現代にかけては、屋比久集落の一角であったことがうかがえる。今後も、より詳細な成立時期や今回検出できなかった屋比久グスク関連の遺構、周辺のグスクとの関係性、馬蹄形地形を活かしたグスクの縄張りやその規模等についての調査の必要性がある。

【引用・参考文献】

伊仙町教育委員会

- 2005『カムイヤキ古窯跡群Ⅳ 平成13年度から平成16年度 カムイヤキ古窯跡群発掘調査等事業』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(12)

上田秀夫

- 1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

大里村教育委員会

2005『真手川原遺跡－大里城址公園事業に係わる発掘調査報告書(1)－』大里村文化財調査報告書第6集 沖縄県立埋蔵文化財センター

- 2013『首里城跡－御内原北地区発掘調査報告書(2)－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第69集

- 2017『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書 4－普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第90集

沖縄県今帰仁村教育委員会

- 1991『今帰仁城跡発掘調査報告書Ⅱ』今帰仁村文化財調査報告第14集

小野正敏

- 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

佐敷町教育委員会

- 2000『佐敷町の文化財－遺跡詳細分布調査報告書－』佐敷町文化財調査報告書第2集

瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座真充・松原哲志

- 2007「沖縄における貿易陶磁研究」『沖縄埋文研究』5 沖縄県立埋蔵文化財センター

大宰府市教育委員会

- 1994『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類－』

玉城村教育委員会

- 2002『志堅原遺跡－個人住宅建築工事に係る発掘調査報告－』玉城村文化財調査報告書第3集

北谷町教育委員会

- 2016『平安山原A遺跡－桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業(平成19・21・22・23年度)－』北谷町文化財調査報告書第38集

南城市教育委員会

- 2008『垣花遺跡－個人住宅建設に係る緊急発掘調査報告－』沖縄県南城市文化財調査報告書第3集

- 2011『市内遺跡発掘調査報告書－新原貝塚・知名グスク－』沖縄県南城市文化財調査報告書第10集

- 2012『市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ－志堅原第2次・第3次 中山小祿原遺跡 ティーラガマ試掘－』沖縄県南城市文化財調査報告書第13集

- 2013『市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ－知名原遺跡 斎場御嶽周辺・第5次島添大里グスク南遺跡・島添大里城跡周辺壕調査－』沖縄県南城市文化財調査報告書第15集

- 2015『玉城城跡－史跡整備に伴う発掘調査報告書－』南城市文化財調査報告書第17集

2017 『糸数城跡－蔵屋敷地区発掘調査報告書－』南城市文化財調査報告書第19集

2017 『南城市のグスク』

2018 『南城市の御嶽』

森田勉

1982 「14～16世紀の白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

遺物点数表

2014(平成26)年度 試掘遺物点数表

トレンチ4

青磁	碗:口縁(1)底部(3)
----	--------------

トレンチ5

グスク土器	胴部(1)
カムイヤキ	壺:底部(1)胴部(1)
青磁	碗胴部(1)皿胴部(1)
無袖陶器(沖縄)	赤物胴部(2)
その他	獣骨(2)

表探

カムイヤキ	壺胴部(1)
青磁	碗口縁(1)
色絵	皿口縁(1)

2015(平成27)年度 遺物点数表

A1サブトレンチ 2e 層

グスク土器	胴部(3)
カムイヤキ	胴部(1)
青磁	碗or皿胴部(大IV)(1)
施袖陶器(沖縄)	壺胴部(4)
無袖陶器(沖縄)	壺or甕胴部(1)瓦質胴部(1)
その他	軽石(1)獣骨(6)獣歯(1)獣骨(小型)(3)焼土(4)

A1グリッド 2c 層

青花(染付)中国	碗口縁(1)
施袖陶器(沖縄)	碗底部(1)香が胴部(1)
無袖陶器(沖縄)	瓦質(7)
近現代磁器	碗:口縁(4)胴部(2)底部(1)皿口縁(3)
その他	獣骨(1)獣歯(1)赤瓦(1)

A1グリッド 2層d-e 層

グスク土器	胴部(1)
青磁	皿口縁(1)
青花(染付)中国	碗底部(1)
施袖陶器(沖縄)	碗:胴部(白+透明)(1)胴部(灰)(1)
無袖陶器(沖縄)	壺:胴部(1)胴部(自然釉)(1)赤物胴部(1)
近現代磁器	碗口縁(1)皿(1)
その他	赤瓦(5)海産巻貝(5)獣骨(3)獣骨(小型)(1)魚骨(1)漆喰貼(1)

A1グリッド 2e 層

グスク土器	胴部(5)
褐袖陶器	壺胴部(1)
その他	獣骨(7)獣骨(小型)(1)焼土(1)

A1グリッド 試掘場 覆土層

グスク土器	胴部(1)
青磁	碗底部(上田II)(1)
青花(染付)中国	袋物胴部(1)
施袖陶器(沖縄)	壺胴部(1)
近現代磁器	碗口縁(1)皿底部(2)香伊口縁(1)
その他	鉄片(1)海産巻貝(1)赤瓦(1)木片(1)焼土(1)ガラス(薬瓶)(1)現代遺物(コンバクト)(1)

A1グリッド 南壁 掃除中層

グスク土器	胴部(2)
その他	玉(1)焼土(4)

A1グリッド 5 層

グスク土器	鉢形口付近(1)胴部(5)底部(1)
青磁	皿底部(直口蓮弁)(1)
褐袖陶器	壺胴部(1)
無袖陶器(沖縄)	赤物花鉢胴部(1)
その他	獣骨(8)海産貝(5)

A1グリッド 8 層

グスク土器	胴部(4)底部(1)
カムイヤキ	胴部(1)
青磁	碗(蓮弁文):胴部(1)底部(1)
その他	獣骨歯? (1)焼土(3)

A1グリッド 9 層

グスク土器	胴部(1)
白磁	碗口縁(ピロースク)(1)
青磁	碗底部(1)
褐袖陶器	壺胴部(1)

A2グリッド 2b 層

グスク土器	胴部(1)
施袖陶器(沖縄)	碗胴部(灰)(2)
その他	獣骨(1)海産巻貝(1)海産二枚貝(1)赤瓦(1)焼土(6)

A2グリッド 南壁掃除中層

その他	海産巻貝(1)焼土(1)
-----	--------------

B1グリッド 掃除中層

グスク土器	胴部(1)
白磁	碗口縁(ピロースク)(1)
青磁	碗:口縁(上田BIV)(1)口縁(蓮弁文)(1)胴部(蓮弁文)(1)皿胴部(1)
褐袖陶器	壺胴部(1)
陶器(中国)	蓋(1)
施袖陶器(沖縄)	碗:口縁(白+透明)(1)胴部(1)底部(1)
その他	鉄片(1)獣歯(2)海産巻貝(1)海産二枚貝(1)

B1グリッド 東西サブトレッチ 3層

グスク土器	胴部(7)
白磁	碗:口縁(ピロースク)(1)胴部(1) 皿口縁(森田E)(1)
青磁	碗胴部(外面有文)(1)
青花(染付)中国	碗胴部(1)
褐釉陶器	胴部(3)壺胴部(1)
黒釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗胴部(灰)(1)胴部(3)
無釉陶器(沖縄)	壺胴部(3)赤物胴部(5)
その他	鉄片(3)石材(1)獣骨(18)獣骨(小型)(2) 獣骨(3)海産巻貝(35)海産二枚貝(2)炭 化物(4)木片(1)漆喰(2)焼土(5)

B1グリッド 東西サブトレッチ 中央-西 5層

グスク土器	胴部(4)
青磁	碗高台(1)
無釉陶器(沖縄)	壺胴部(1)
その他	鉄片(1)獣骨(3)獣骨(小型)(5)海産巻貝 (1)焼土(6)炭化物(1)

B1グリッド 東西サブトレッチ 5層

グスク土器	頸部(1)胴部(17)朱塗胴部(2)
カムイヤキ	胴部(1)
白磁	皿口縁(1)
その他	金属片(1)石器片(1)石材(1)獣骨(8)獣 骨(2)海産巻貝(1)海産二枚貝(1)

B1グリッド 東西サブトレッチ 6b層

グスク土器	鏡形口縁(1)壺形頸部(1)鉢形頸部(1)胴 部(14)胴部(有孔)(1)底部(2)
カムイヤキ	胴部(1)
白磁	皿口縁(1)
青磁	碗胴部(両面に花文)(1)
青花(染付)中国	碗胴部(B群?)(1)
その他	獣骨(3)獣骨(小型)(1)獣骨(1)焼土(2)

B1グリッド 東西サブトレッチ西側 7層

グスク土器	底部(1)
-------	-------

B1グリッド 東西サブトレッチ東側 8層

グスク土器	鏡形口縁(1)胴部(6)底部(2)
その他	獣骨(1)焼土(4)

B1グリッド 東西サブトレッチ西側 8層

グスク土器	胴部(12)底部(2)
カムイヤキ	胴部(2)
その他	石材(2)獣骨(4)焼土(3)炭化物?(1)

B1グリッド 東西サブトレッチ 東側 軽石だまり層

グスク土器	胴部(1)
その他	軽石(7)焼土(1)

B1グリッド 南北サブトレッチ段差部 2d層

グスク土器	胴部(1)
-------	-------

青磁	碗胴部(上田IV)(3)
褐釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	壺胴部(1)
無釉陶器(沖縄)	すり鉢胴部(1)
その他	獣骨(1)海産巻貝(2)海産二枚貝(1)

B1グリッド 南北サブトレッチ段差部 2e層

青磁	碗胴部(1)
青花(染付)中国	碗胴部(2)
褐釉陶器	胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗胴部(白+透明)(1)
無釉陶器(沖縄)	鉢胴部(1)赤物胴部(1)
その他	獣骨(1)海産巻貝(1)海産二枚貝(1)

B1グリッド 南北サブトレッチ 2b層

グスク土器	胴部(8)朱塗胴部(1)底部(1)
カムイヤキ	頸部(1)胴部(2)
青磁	胴部(1)胴部(浮文有文)(1)皿(外反口 縁)(1) 碗:口縁(上田BIV)(1)口縁(上田C II) (1)胴部(1)
青花(染付)中国	碗胴部(1)
褐釉陶器	胴部(1)壺胴部(1)
黒釉陶器	碗口縁(天目)(1)壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白+透明)(1)口縁(褐+透明) (1)口縁(灰)(1)底部(灰)(1) 小壺胴部(黒×無)(1)
無釉陶器(沖縄)	壺胴部(1)赤物胴部(5)
近現代磁器	胴部(1)
その他	石材(1)軽石(2)獣骨(16)獣骨(小型)(2) 海産二枚貝(1)焼土(3)炭化物(1)赤瓦 (1)

B1グリッド 南北サブトレッチ 中央-南側 2d層

グスク土器	胴部(9)底部(1)
白磁	皿森田E?口縁(1)袋物胴部(1)
青磁	碗胴部(1)皿(摺折)口縁(1)搦鉢口縁(1) 盤:胴部(口縁付近)(1)胴部(底部付近) (1)
青花(染付)中国	口縁(1)胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(2)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(1)口縁(灰)(1)口縁(褐)(2)口 縁(白+透明)(2)口縁(白+透明+有文) (1)胴部(白+透明)(1)胴部(灰)(1)底部 (白+透明)(3) 壺:胴部(褐)(2)底部(褐)(2)
無釉陶器(沖縄)	壺胴部(1)瓶子胴部(1)搦鉢胴部(2)赤物 胴部(4)
近現代磁器	小杯:口縁(1)口~底(2)
その他	鉄片(2)石材(ニールビ)(1)獣骨(17)獣骨 (1)海産巻貝(5)海産二枚貝(11)赤瓦(2) 焼土(1)

B1グリッド 南北サブトレッチ 北側 5層

グスク土器	朱塗頸部(1)胴部(3)
カムイヤキ	胴部(1)

褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	石材(泥岩)(1)獣骨(5)焼土(2)

B1グリッド 2b-d 層

グスク土器	胴部(4)底部(1)
カムイヤキ	壺胴部(1)
白磁	胴部(1)
青磁	胴部(2)
青花(染付)中国	胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白+透明)(1)口縁(褐×灰)(1)口縁(褐×白+透明)(1)胴部(灰)(1)胴部(白+透明)(1)底部(褐×灰)(1)
無釉陶器(沖縄)	鉢:口縁(1)赤物口縁(1)壺胴部(2)
その他	鉄片(1)獣骨(8)獣骨(小型)(2)獣歯(1)赤瓦(1)焼土(1)

B1グリッド 2b 層

グスク土器	胴部(1)
青磁	碗口縁(上田BⅢ)(1)
その他	獣骨(3)

B1グリッド 2c層

施釉陶器(沖縄)	碗:底部(褐×灰)(1)胴部(灰)(1)
無釉陶器(沖縄)	赤物胴部(1)
その他	赤瓦(1)

B1グリッド 2d-e 層

グスク土器	胴部(1)
青磁	碗口縁(上田Ⅱ)(1)皿口縁(口折+外面蓮弁)(1)
青花(染付)中国	口縁(1)胴部(1)
黒釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(灰)(1)胴部(白+透明)(1)鉢口縁(褐×白化粧)(1)瓶胴部(胎×無)(1)
無釉陶器(沖縄)	壺胴部(2)播鉢口縁(1)赤物:把手(1)胴部(1)
その他	鉄片(2)獣骨(7)獣骨(小型)(1)獣歯(1)海産二枚貝(3)焼土(1)

B1グリッド 2e 層

グスク土器	口縁(2)壺形頸部(1)胴部(15)朱塗胴部(1)底部(2)
白磁	胴部(2)
青磁	碗:口縁(上田Ⅲ)(2)口縁(上田BⅢ)(1)口縁(CⅡ)(1)胴部(3)胴部(蓮弁文・上田Ⅲ)(1)皿口縁(外反)(2)杯口縁(1)胴部(1)
青花(染付)中国	碗:口縁(1)胴部(1)胴部(3)
青花(染付)肥前	小壺胴部(1)袋物胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(4)頸部(3)胴部(4)

施釉陶器(沖縄)	碗:半形品(白+透明)(1)半形品(2)口縁(灰)(3)口縁(白+透明)(7)口縁(褐×透明)(1)口縁(無)(2)胴部(灰)(5)胴部(褐×白+透明)(1)胴部(白+透明)(10)胴部(褐)(2)胴部(鉄×灰)(1)底部(白+透明)(2)小碗底部(灰)(1) 皿:大皿(白+透明、内有文)(1)角皿胴部(白+透明)(1)底部(白+透明)(1) 鉢:口縁(褐×無)(1)口縁(褐×白+透明)(1)胴部(1)把手(1) 瓶:口縁(黒)(1)底部(1) 火鉢口縁(褐)(1)小壺胴部(褐)(1)袋物胴部(褐釉)(1)キセル口(灰)(1)キセル口(1)香炉胴部(緑×無)(1)
無釉陶器(沖縄)	壺:口縁(自然釉)(1)胴部(2) 鉢:半形品(1)口縁(2) 甕:胴部(外面有文)(1) 瓶:口縁(1)胴部(2)瓶子胴部(2) 赤物:蓋(1)胴部(7)
近現代磁器	半形品(2)口縁(1)胴部(1)
その他	鉄片(10)石材(1)石材(ニービー)(1)石材(軽石)(17)石材(泥岩)(2)石器片(2)石(5)獣骨(54)獣骨(調理痕?)(1)獣骨(小型)(6)獣歯(6)魚骨(2)海産巻貝(8)海産二枚貝(4)青銅製品(指輪)(1)焼土(2)赤瓦(4)木片(1)コルタルール(1)サンゴ(2)

B1グリッド 北西側 2e 層

施釉陶器(沖縄)	袋物胴部(褐×無)(1)
その他	軽石(1)獣骨(1)焼土(4)

B1グリッド(埋戻し側) 2e 層

グスク土器	胴部(12)朱塗胴部(4)底部(5)朱塗底部(1)壺形口縁(1)
カムイヤキ	胴部(1)
青磁	碗口縁(上田EⅡ)(1)胴部(2)
褐釉陶器	壺胴部(1)
黒釉陶器	胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(灰)(1)胴部(1)壺胴部(褐)(1)香炉胴部(無×褐)(1)
無釉陶器(沖縄)	胴部(4)播鉢口縁(1)水鉢口縁(1)瓶子胴部(1)赤物蓋(2)
近現代磁器	胴部(2)
その他	石材(1)石材(ニービー)(1)獣骨(15)獣骨(小型)(4)獣歯(3)焼土(2)ガラスピン片(1)

B1グリッド 3 層

グスク土器	鉢形:口縁(1)胴部(1)胴部(5)
青花(染付)中国	碗口縁(2)皿口縁(小野B1)(1)
施釉陶器(沖縄)	碗口縁(灰)(1)
無釉陶器(沖縄)	甕口縁(1)赤物胴部(1)
近現代磁器	胴部(1)
その他	鉄片(3)獣骨(3)海産巻貝(7)

B1グリッド 4層

グスク土器	朱塗胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖瀧)	壺胴部(黒×無)(1)
その他	獣骨(4)海産巻貝(41)海産二枚貝(6)焼土(1)サンゴ(3)

B1グリッド 5層

グスク土器	壺形頸部(1)胴部(16)朱塗胴部(6)底部(Ⅱ部)(1)
カムイヤキ	胴部(1)
白磁	胴部(ビロースク)(1)
褐釉陶器	壺:口縁(1)胴部(1)
無釉陶器(沖瀧)	胴部(1)赤物底部(1)
その他	石材(3)軽石(1)獣骨(18)獣骨(小型)(2)魚骨(1)海産巻貝(4)海産二枚貝(1)焼土(12)炭化物(3)

B1グリッド(埋費1側) 5層

グスク土器	胴部(5)
青磁	碗底部(上田Ⅱ)(1)碗or皿胴部(1)
青花(染付)中国	碗胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	獣骨(28)獣骨(小型)(5)獣骨(1)魚骨(1)焼土(2)

B1グリッド 6b層

グスク土器	胴部(19)朱塗胴部(1)底部(3)
青磁	盤底部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
無釉陶器(沖瀧)	赤物胴部(1)
その他	軽石(1)獣骨(7)炭化物(2)泥岩(2)

B1グリッド 7層

グスク土器	胴部(11)朱塗胴部(10)底部(1)
白磁	胴部(1)
青磁	胴部(2)
その他	獣骨(5)獣骨(小型)(1)焼土(13)炭化物(3)

B1グリッド(焼土層) 7層

グスク土器	胴部(61)朱塗胴部(24)底部(5)鉢形口縁(1) 鉢形:口縁(1)口縁(直口)(1)口縁(外端突)(1)胴部(横耳)(1)胴部(貼付)(1)
カムイヤキ	胴部(2)
白磁	碗胴部(1)皿底部(1)
青磁	胴部(5)碗胴部(1)皿底部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
黒釉陶器	碗:口縁(天目)(1)胴部(天目?)(1)
その他	軽石(4)泥岩(6)獣骨(18)獣骨(1)魚骨(2)炭化物(4)焼土(49)

B1グリッド 8層

貝塚後期土器	胴部(1)
--------	-------

グスク土器	胴部(124)朱塗胴部(31)底部(9)朱塗底部(1)底部付近(2)朱塗底部付近(1)底部(3) 壺形:口縁(Ⅱ)(1)朱塗口縁(1)朱塗頸部(1) 鉢形:口縁(2)口縁(Ⅱa)(1)
カムイヤキ	胴部(4)底部(1)壺胴部(1)
白磁	胴部(1)皿胴部(森田E)(1)皿底部(1) 碗:口縁(ビロースク)(1)口縁(玉縁・大宰府IV)(1)
青磁	碗:口縁(上田CⅡ)(1)口縁(上田Ⅱ)(1)口縁(上田DⅡ)(1)胴部(上田Ⅱ)(3)胴部(上田BⅢ)(2)底部(上田Ⅱ)(1)
褐釉陶器?中国	胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(4)胴部(2)
無釉陶器(沖瀧)	赤物胴部(1)
その他	鉄片(1)石器片(1)滑石(1)軽石(3)石材(ニービ)(2)石材(2)石材? (1)獣骨(22)獣骨(小型)(1)魚骨(1)魚骨(1)焼土(65)炭化物(1)

B1グリッド(北側) 8層

グスク土器	胴部(10)朱塗胴部(6)底部(5)
白磁	皿胴部(森田D)(1)
その他	獣骨(4)焼土(2)

B1グリッド 9層

グスク土器	口縁(1)胴部(48)朱塗胴部(10)胴部上平(5)底部(2)朱塗底部(1)底部付近(6)底部(2) 鉢形:口縁(1)口縁(Ⅰa)(1)口縁(Ⅱa)(1)口縁(Ⅱ)(1)
カムイヤキ	胴部(6)壺胴部(2)
白磁	碗口縁(玉縁・大宰府IV)(1)
青磁	碗:胴部(上田BⅢ)(1)胴部(上田Ⅱ)(1)底部(上田Ⅱ)(1)
褐釉陶器	胴部(1)壺胴部(1)
無釉陶器(沖瀧)	赤物底部(1)
その他	石器片(4)石材(2)獣骨(4)焼土(11)サンゴ(1)

B1グリッド(埋費1側) 9層

グスク土器	胴部(5)底部(1)
その他	焼土(1)

B1グリッド 10層

グスク土器	碗形口縁(Ⅳ)(1)鉢形口縁(Ⅱ)(1)胴部(37)朱塗胴部(7)底部(6)底部(Ⅱ)(2)底部(Ⅲ)(1)
カムイヤキ	胴部(1)
白磁	碗口縁(玉縁・大宰府IV)(1)皿口縁(森田D×E)(1)
青磁	碗:口縁(陵花)(1)胴部(1)胴部(外面有文)(1) 皿口縁(外反)(1)
褐釉陶器	壺底部(1)

その他	石器(1)石器片(4)石材(3)滑石製品(1) 獣骨(17)獣歯(1)魚骨(1)海産二枚貝(2) 焼土(11)
-----	---

B1グッド 12層

グスク土器	朱塗頸部(1)胴部(12)朱塗胴部(1)底部(1)(1)底部(II)(1)
白磁	皿胴部(森田D)(1)
青磁	皿胴部(上田II)(1)
その他	石器(1)石器片(1)石材(2)

B1グッド 西壁整形中層

青磁	碗胴部(1)
その他	鉄片(1)焼土(1)

B1グッド 西壁掃除中層

無袖陶器(沖縄)	赤物胴部(1)
近現代磁器	胴部(1)

B1グッド バケツ間? 北壁掃除中層

グスク土器	胴部(1)
無袖陶器(沖縄)	赤物胴部(1)
その他	獣骨(3)

B2グッド 掃除層

白磁	碗口縁(森田D)(1)
無袖陶器(沖縄)	荒焼瓶子胴部(1)
近現代磁器	胴部(1)

B2グッド 試掘覆土層

グスク土器	胴部(3)
白磁	碗口縁(玉縁)(1)皿胴部(1)
青磁	碗胴部(1)
褐袖陶器	壺口縁(1)胴部(3)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白+透明)(1)口縁(褐×灰)(1) 口縁(灰)(3)胴部(1)底部(1) 袋物胴部(黒×褐)(1)
無袖陶器(沖縄)	荒焼胴部(1)赤物把手(1)
近現代磁器	胴部(1)底部(1)
その他	鉄片(1)獣骨(2)獣骨(小型)(1)海産巻貝(1)玉(ガラス製)(1)赤瓦(17)焼土(4)

B2グッド 試掘墳 2e層

グスク土器	口縁(1)胴部(2)
カムイヤキ	胴部(1)
白磁	碗小碗(森田E)(1)
青磁	碗胴部(1)皿口縁(稜花)(1)
青花(染付)中国	碗:胴部(1)底部(1)
褐袖陶器	壺胴部(3)
黒袖陶器	碗胴部(1)
日本産陶器	播鉢底部(1)

施釉陶器(沖縄)	碗:半形品(白+透明)(1)口縁(白+透明)(9)口縁(灰)(4)口縁(褐)(1)口縁(褐+灰)(1)胴部(白+透明)(3)胴部(灰)(1)胴部(褐+白+透明)(1)底部(白+透明)(3)底部(灰)(1) 皿:角皿口縁(白+透明)(3)口縁(白+透明)(1)胴部(灰)(1)底部(白+透明)(1)瓶:頸部(1)底部(1) 鉢:胴部(褐×白+透明)(1)小鉢口縁(褐×無)(1) 急須口縁(白+透明、外面有文)(1)袋物胴部(褐×無)(1)
----------	--

無袖陶器(沖縄)	鉢口縁(1)蓋(3)胴部(3) 壺:半形品(1)胴部(1) 荒焼:壺(1)鉢(1)壺胴部(11)播鉢胴部(1) 赤物:胴部(1)急須胴部(把手付)(1)
----------	---

近現代磁器	小鉢半形品(1)口縁(3)胴部(1)底部(1)
その他	鉄製品片(現代)(3)獣骨(6)魚骨(2)海産巻貝(4)海産二枚貝(25)赤瓦(1)焼土(2)

B2グッド 西側試掘墳?覆土 2e層

グスク土器	胴部(2)底部(1)
青磁	碗:口縁(上田CIII)(1)胴部(BIII)(1)胴部(上田II)(2)底部(2)
色絵	胴部(1)
日本産陶器	瓦質陶器底部(1)

施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白+透明)(7)口縁(灰)(2)口縁(褐×白+透明)(1)胴部(白+透明)(4)底部(白+透明)(4)底部(灰)(3) 皿:角皿口縁(1)角皿胴部(白+透明)(1)口縁(1)底部(白+透明)(1) 鉢:口縁(2)胴部(褐×白+透明)(2) 大鉢胴部(褐)(1)小壺口縁(褐×無)(1)壺胴部(褐×無)(1) 瓶:口縁(1)胴部(褐×無)(1) 急須:口(1)蓋(1)
----------	---

無袖陶器(沖縄)	荒焼:壺胴部(1)瓶子胴部(2) 赤物:急須胴部(1)急須口縁(2)把手(1)口縁(1)蓋(1)胴部(1)
----------	--

近現代磁器	胴部(1)底部(1)
その他	鉄片(現代)(4)青銅製品(現代)(1)砥石(1)獣骨(3)獣歯(1)海産巻貝(1)海産二枚貝(12)円盤状製品(1)赤瓦(2)古銭(5)

B2グッド サブレンチ 2b層

グスク土器	頸部(1)
青磁	盤底部(1)
褐袖陶器	胴部(2)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白+透明)(1)胴部(灰、白+透明)(2)
無袖陶器(沖縄)	赤物胴部(1)
その他	獣骨(1)赤瓦(1)焼土(1)不明(1)

B2グッド サブレンチ 8層

グスク土器	胴部(11)底部(1)鐏形口縁(1)鐏形胴部(1)鉢形頸部(1)
青磁	碗口縁(森田D)(1)
その他	鉄片(1)石材(1)獣骨(2)焼土(9)

B2グリッド サブトレンチ 12層

グスク土器	胴部(2)
-------	-------

B2グリッド 2b層

グスク土器	朱塗頸部(1)胴部(26)朱塗胴部(2)壺形(b)口縁(1)壺形頸部(1)錐形胴部(2)底部(1)底部(II型)(1)
カムイヤキ	底部(1)壺胴部(2)
白磁	碗:口縁(ピロースタ)(2)口縁(玉縁・大宰府IV)(1)胴部(1) 皿:角皿口縁(森田D)(1)胴部(森田D×E)(1)
青磁	碗:口縁(上田BIII)(1)口縁(上田BIV)(1)口縁(上田DII)(1)口縁(上田EII)(1)胴部(2)胴部(上田BIV)(1)胴部(上田II)(2)胴部(上田BIII×IV)(1)胴部(内面有文)(1) 碗or皿胴部(3) 皿:胴部(2)胴部(稜花)(1)底部(2)底部(こげ底)(1) 杯口縁(1)盤口縁(外反)(1)胴部(1)
青花(染付)中国	碗:口縁(4)胴部(2)底部(1)胴部(3)
日本産?陶器	碗胴部(2)
褐釉陶器	壺:口縁(1)胴部(7)胴部(7)
黒釉陶器	碗:胴部(天目)(2)胴部(1)
施釉陶器(沖瀧)	碗:半形品(白+透明)(1)口縁(灰)(3)口縁(白+透明)(1)口縁(褐)(1)胴部(褐×錆)(1)胴部(灰)(3)胴部(褐)(2)胴部(褐×灰)(2)胴部(白+透明)(3)底部(灰)(2) 香炉胴部(褐)(1)鉢口縁(褐×白+透明)(1)瓶口縁(白+透明、有文)(1)壺胴部(1)
無釉陶器(沖瀧)	荒焼:胴部(3)鉢鉢胴部(1)壺胴部(6)瓶子胴部(4)胴部(壺×壺)(1)碗?底部(1)赤物:口縁(1)胴部(4)急須口縁(1)水鉢口縁(1)
近現代磁器	胴部(1)
その他	青銅製品(1)青銅製品(ボタン)(1)鉄製品(現代)(1)鉄片(5)鉄片(現代)(6)石製品(1)石材(1)石材(軽石)(3)骨(人の歯?)(1)獣骨(24)獣骨(小型)(3)獣骨(刃骨有)(2)獣骨(8)焼骨(1)魚骨(2)魚骨(1)海産二枚貝(2)海産巻貝(3)赤瓦(9)灰色瓦(1)ガラス片(2)炭化物(4)円盤状製品(1)焼土(23)

B2グリッド 2e層

グスク土器	碗口縁(IIb)(1)胴部(1)
青磁	碗胴部(1)
青花(染付)中国	碗胴部(1)
日本産陶器	鉢口縁(現代)(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)

施釉陶器(沖瀧)	碗:口縁(白+透明)(4)口縁(灰)(1)胴部(白+透明)(3)胴部(灰)(2)底部(白+透明)(2)底部(灰)(2) 鉢:口縁(褐×白+透明)(1)胴部(褐×白+透明)(1) 壺胴部(黒褐×灰)(1)
無釉陶器(沖瀧)	荒焼:鉢半径(1)鉢口縁(1)瓶子(袋物)胴部(2) 赤物:口縁(1)蓋(1)胴部(2)胴部(2)
近現代磁器	口縁(3)
その他	獣骨(5)獣骨(1)海産巻貝(5)海産二枚貝(3)古銭(1)赤瓦(2)焼土(4)

B2グリッド 東側バケット痕 覆土層

青磁	碗底部(上田II)(1)
施釉陶器(沖瀧)	碗口縁(灰)(1)
無釉陶器(沖瀧)	荒焼小壺?胴部(1)
その他	石材(軽石)(1)獣骨(1)赤瓦(12)炭化物(1)

B2グリッド 8層

グスク土器	胴部(11)胴部(滑石入)(1)底部(1)錐形口縁(IIa)(1)
カムイヤキ	胴部(1)
その他	炭化物(1)焼土(3)

B2グリッド 北西側 8層

グスク土器	錐形口縁(IIa)(1)胴部(6)
その他	鉄釘(1)焼土(2)

B2グリッド 11層

グスク土器	壺形口縁(a)(1)胴部(1)
その他	炭化物(1)焼土(5)

B2グリッド 12層

グスク土器	胴部(1)
その他	獣骨(1)

B3グリッド 掃除層

青磁	碗胴部(外面有文)(1)
施釉陶器(沖瀧)	碗:口縁(灰)(2)口縁(白+透明)(1)胴部(白+透明)(1) 火取口縁(褐)(1)
無釉陶器(沖瀧)	荒焼壺胴部(1)
その他	鉄片(現代)(1)獣骨(1)

B3グリッド 2b層

青磁	碗口縁(上田EII)(1)
施釉陶器(沖瀧)	碗底部(灰)(1)香炉胴部(無×褐)(2) 壺:胴部(黒)(1)胴部(ナマコ)(1)
無釉陶器(沖瀧)	荒焼壺胴部(1)赤物胴部(1)
近現代磁器	スンカイマカイ胴部(1)底部(1)
その他	海産二枚貝(1)赤瓦(28)ガラス片(4)ガラス瓶(1)焼土(2)

B3グッド 試験場 覆土層

施釉陶器(沖漣)	碗:口縁(灰)(2)胴部(白+透明)(1) 壺胴部(褐)(1)
近現代磁器	口縁(2)胴部(3)
その他	鉄片(現代)(5)赤瓦(16)

B3グッド バケツ痕 覆土層

その他	赤瓦(2)
-----	-------

C1グッド 掃除層

青磁	皿口縁(外反)(1)
その他	獣骨(1)

C1グッド サブトレッチ 2b層

グスク土器	胴部(1)鍋形口縁(II a)(1)
カムイヤキ	胴部(1)
青磁	碗胴部(外反有文)(1)
施釉陶器(沖漣)	碗:口縁(灰)(1)口縁(白+透明)(1)
その他	石材(2)獣骨(2)海産巻貝(2)海産二枚貝(1)焼土(3)

C1グッド サブトレッチ 5層

グスク土器	胴部(3)底部(II)(1)
青磁	碗:口縁(上田E II)(1)胴部(1)
青花(染付)中国	皿胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(南中国系)(2)
黒釉陶器	壺胴部(東南アジア産)(1)
施釉陶器(沖漣)	碗口縁(灰)(1)
その他	獣骨(22)魚骨(1)海産巻貝(3)海産二枚貝(1)炭化物(1)焼土(13)

C1グッド サブトレッチ 6層

グスク土器	胴部(2)朱塗胴部(1)
青磁	碗口縁(上田D II)(1)壺?胴部(1)
褐釉陶器	壺:口縁(1)胴部(3)
その他	鉄片(1)石材? (1)獣骨(1)獣骨(小型)(3)焼土(4)

C1グッド サブトレッチ 8層

グスク土器	壺形口縁(b)(2)頸部(1)胴部(22)朱塗胴部(6)
カムイヤキ	胴部(1)
白磁	皿口縁(大宰府IX)(1)
青磁	皿胴部(内面有文)(1)
無釉陶器(沖漣)	赤物胴部(2)
その他	石材? (1)獣骨(7)海産巻貝(1)焼土(5)

C1グッド 4層

グスク土器	壺形頸部(1)胴部(8)
白磁	碗胴部(森田C)(1)
青磁	碗:口縁(上田BIV)(1)胴部(1) 碗or皿胴部(4)皿胴部(1)
青花(染付)中国	碗:口縁(1)胴部(1) 碗or皿胴部(1)
青花(染付)日本	碗口縁(1)徳利胴部(1)

褐釉陶器	壺胴部(1)
黒釉陶器	壺胴部(東南アジア産)(1)
施釉陶器(沖漣)	碗:胴部(褐×白+透明)(1)胴部(なまこ)(1)胴部(灰)(1)
無釉陶器(沖漣)	荒焼:壺口縁(2)壺胴部(3)徳利胴部(1)捕鉢胴部(1)胴部(1)
近現代磁器	口縁(1)
その他	鉄片(1)石器片(1)石材? (1)獣骨(8)獣骨(小型)(4)海産巻貝(126)海産二枚貝(14)陸産貝(1)赤瓦(1)焼土(4)

C1グッド 5層

グスク土器	碗形底部(1)胴部(7)
カムイヤキ	胴部(1)
青磁	碗:口縁(上田E II)(1)胴部(1)胴部(上田BIV)(1)底部(1)
青花(染付)中国	碗:胴部(5) 皿胴部(1)皿底部(1)
褐釉陶器	壺:口縁(1)胴部(5)
施釉陶器(沖漣)	碗:口縁(灰)(1)胴部(なまこ)(1)
無釉陶器(沖漣)	荒焼壺胴部(1)
その他	鉄片(1)石材(1)石材(軽石)(1)石材(砂岩)(1)石材? (1)獣骨(65)獣骨(7)獣骨下顎(2)焼骨(1)魚骨(1)魚骨顎(1)炭化物(5)瓦(1)焼土(21)

C1グッド 7層

グスク土器	胴部(22)朱塗胴部(3)
青磁	碗:口縁(上田C II)(1)胴部(上田II)(2) 皿口縁(櫻花)(1)
褐釉陶器	壺:口縁(1)胴部(1)
その他	鉄片(1)獣骨(8)獣骨(小型)(1)獣骨(2)焼土(11)

C1グッド 8層

グスク土器	頸部(2)朱塗頸部(1)胴部(215)朱塗胴部(50)底部(28)朱塗底部(3)鉢形口縁(IV)(1) 鍋形:口縁(1 a)(3)口縁(II a)(2) 壺形:口縁(a)(1)朱塗口縁(b)(3)頸部(1)胴部(1)
カムイヤキ	口縁(3)壺口縁(2)頸部(1)胴部(12)底部(2)
白磁	碗胴部(3)壺胴部(1) 皿:口縁(外反)(1)口縁(森田E)(2)胴部(森田E)(1)底部(1)底部(櫛歯文)(1)
青磁	碗:口縁(上田C II)(2)口縁(上田D II)(1)口縁(上田D II)(3)口縁(上田D III)(1)口縁(大IV)(1)胴部(3)胴部(上田II)(6)胴部(上田B III)(3)胴部(大II)(1)底部(上田B III)(1) 皿:口縁(外反)(3)口縁(櫻花)(1)底部(3) 胴部(3)杯形半形品(1)盤口縁(2)
褐釉陶器	壺:胴部(18)胴部(把手付)(1)胴部(有文?)(1)
黒釉陶器	碗(天目)(1)壺底部(1)
日本製陶器	口縁(1)
施釉陶器(沖漣)	壺形部(鉄)(1)

無釉陶器(沖縄)	小壺胴部(1)
その他	鉄片(4)石器(砥石)(1)石器片(4)石材(9)軽石(17)獣骨(77)獣骨(小型)(2)獣骨(6)炭化物(2)焼土(52)不明(1)鉄分に覆われた軽石? (2)土製品?(1)

C1グリッド 9層

グスク土器	碗形口縁(Ⅰa)(1) 鍋形:口縁(Ⅰa)(2)口縁(Ⅱa)(6) 壺形:口縁(a)(3)口縁(b)(1)頸部(b)(1) 頸部(2)胴部(76)朱塗胴部(25)底部(18)
カムイヤキ	胴部(5)底部(1)
白磁	碗底部(大宰府Ⅲ)(1)
青磁	碗:口縁(上田DⅡ)(1)口縁(大宰府Ⅱ)(1) 口縁(大宰府Ⅳ?)(1)胴部(2) 皿口縁(直口)(1)
褐釉陶器	壺口縁(1)壺胴部(1)把手(1)
無釉陶器(沖縄)	赤物把手(1)
その他	鉄片(1)石器(2)石器片(3)石材(3)石材(鉄分で覆われている)(1)軽石製品?(1) 軽石(4)獣骨(11)獣骨(小型)(7)魚骨(下顎)(2)焼土(5)

C1グリッド 9b層

グスク土器	胴部(5)朱塗胴部(1)
カムイヤキ	胴部(1)
その他	石材(1)獣骨(1)焼土(1)

C1グリッド 10層

グスク土器	鍋形口縁(Ⅱa)(2)壺形口縁(b)(2)鉢形口縁(Ⅰ)(1)胴部(25)朱塗胴部(4)底部(7)
カムイヤキ	壺口縁(1)胴部(2)
白磁	碗口縁(玉縁)(1)
その他	獣骨(刀跡有)(1)炭化物(2)焼土(3)

C1グリッド 12層

その他	炭化物(2)焼土(2)
-----	-------------

C1グリッド 北壁崩落土(試掘壕)層

グスク土器	胴部(3)朱塗胴部(1)
青磁	盤口縁(1)
褐釉陶器	壺:口縁(1)胴部(2)
施釉陶器(沖縄)	碗口縁(白+透明)(1)皿口縁(白+透明・内面有文)(1)
無釉陶器(沖縄)	荒焼壺胴部(1)
近現代磁器	口縁(1)胴部(2)底部(1)
その他	石器片(1)獣骨(1)魚骨(1)赤瓦(7)焼土(1)漆喰(1)

C1グリッド 試掘壕 覆土層

グスク土器	胴部(1)
カムイヤキ	胴部(1)
青磁	皿口縁(外反・外面有文)(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白+透明)(1)底部(白+透明)(2)
無釉陶器(沖縄)	荒焼蓋(1)赤物鍋口縁(1)

近現代磁器	口縁(1)
その他	焼土(1)漆喰(1)

C1グリッド 試掘壕 壁崩落層

グスク土器	朱塗胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(2)
近現代磁器	小碗口縁(1)
その他	赤瓦(1)焼土(1)

C1グリッド 試掘壕 掃除中層

その他	玉(木製)(1)
-----	----------

C1グリッド 北壁掃除中層

グスク土器	胴部(2)
-------	-------

C1グリッド 南西側 5層

グスク土器	底部(1)胴部(2)
褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	獣骨(3)獣骨(刀跡有)(1)獣骨(2)

C2グリッド サブトレッチ 2b層

グスク土器	鉢形口縁(Ⅳ)(1)胴部(3)
褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	獣骨(小型)(1)焼土(3)

C2グリッド サブトレッチ 5層

グスク土器	底部(1)
その他	獣骨(14)魚骨(1)焼土(2)

C2グリッド 1層

その他	古銭(1)
-----	-------

C2グリッド 2b層

施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(褐×灰)(1)胴部(灰)(1) 皿口縁(白透)(1)
無釉陶器(沖縄)	荒焼徳利:胴部(1)底部(1) 赤物:壺口縁(1)把手(1)
その他	獣骨(1)海産貝(1)ガラス片(1)瓦(2)焼土(4)

C2グリッド 3層

グスク土器	鍋形:口縁(Ⅱa)(2)胴部(2) 頸部(1)胴部(4)底部(1)
青磁	碗:胴部(上田CⅡ)(1)胴部(上田Ⅱ)(1) 胴部(1)
褐釉陶器	壺:口縁(1)胴部(1)胴部(2)
無釉陶器(沖縄)	赤物胴部(1)
その他	石材(4)獣骨(21)獣骨(3)魚骨(1)海産二枚貝(4)海産巻貝(23)海産貝蓋(1)焼土(5)

C2グリッド 西側 2b層

グスク土器	胴部(2)
カムイヤキ	胴部(1)
青磁	盤底部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)

C2グリッド 5 層

グスク土器	胴部(1)朱塗胴部(2)
施釉陶器(沖縄)	碗口縁(褐)(1)
その他	獣骨(1)獣骨(小型)(1)焼土(2)

C2グリッド 8 層

グスク土器	変形口縁(c)(1)頸部(1)胴部(33)朱塗胴部(11)錐形胴部(1)底部(1)
カムイヤキ	壺口縁(1)胴部(1)
白磁	壺胴部(1)
青磁	碗胴部(上田DⅡ)(1)
青花(染付)日本	胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	鉄片(1)石器片(1)獣骨(3)獣骨(刃跡有)(1)海産二枚貝(1)土製品(1)焼土(19)不明(2)

C2グリッド 9 層

グスク土器	鉢形口縁(1)胴部(2)底部(1)
-------	-------------------

C2グリッド 11 層

グスク土器	変形口縁(b)(1)鉢形頸部(1)(1)胴部(10)朱塗胴部(3)底部(3)
カムイヤキ	壺胴部(1)不明胴部(1)
その他	獣骨(1)不明(3)焼土(3)

C2グリッド 掃除層

グスク土器	胴部(3)
その他	焼土(1)

C2グリッド 北壁掃除層 層

施釉陶器(沖縄)	壺底部(褐)(1)胴部(灰)(1)
近現代磁器	口縁(1)
その他	石器(1)焼骨?(1)瓦(1)焼土(5)

C3グリッド 2b 層

青磁	碗口縁(上田DⅡ)(1)皿胴部(遷弁)(1)
青花(染付)中国	皿胴部(小野C)(1)
施釉陶器(沖縄)	碗口縁(灰・有文)(1)壺口縁(1)
近現代磁器	口縁(1)胴部(1)
その他	現代遺物不明(1)瓦(1)

C3グリッド 掃除層

白磁	胴部(1)
青花(染付)中国	胴部(1)

A1・A2グリッド間畦 2b 層

グスク土器	胴部(1)底部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	獣骨(1)焼土(2)

A1・B1グリッド間畦 3 層

グスク土器	胴部(1)
青磁	盤口縁(椀花)(1)
青花(染付)中国	碗胴部(1)

褐釉陶器	壺胴部(1)
黒釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	壺:胴部(1)底部(1)
その他	石材(1)獣骨(7)海産巻貝(6)海産二枚貝(1)焼土(4)

A3・B3グリッド バケツ痕 覆土層

近現代磁器	小杯底部(1)
その他	瓦(2)焼土(1)

B1・B2グリッド間畦 層

グスク土器	胴部(7)
青磁	碗口縁(上田DⅡ)(1)碗or皿胴部(1)皿底部(1)盤口縁(鈎)(1)
黒釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:胴部(灰)(1)胴部(褐+白透)(1)底部(1) 壺胴部(褐)(1)鉢口縁(褐+白透)(1)皿底部(白透+褐)(1)
無釉陶器(沖縄)	赤物:水鉢口縁(1)胴部(3)
近現代磁器	小碗胴部(1)皿口~底(1)
その他	獣骨(2)獣骨(小型)(1)海産巻貝(1)焼土(2)

B2・B3グリッド間畦 2b 層

グスク土器	胴部(5)底部(1)
青磁	碗or皿胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗口縁(灰)(1)壺口縁(1)水注口縁(1)
無釉陶器(沖縄)	荒燒壺胴部(3)
その他	獣骨(1)瓦(2)焼土(1)

B1・C1グリッド間畦 2b 層

グスク土器	胴部(2)朱塗胴部(3)
白磁	碗底部(1)
青磁	盤口縁(1)壺胴部(1)
青花(染付)中国	皿胴部(1)
磁器(中国)	皿口縁(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白透)(1)胴部(灰)(1) 不明胴部(無×褐)(1)
無釉陶器(沖縄)	胴部(2)荒燒壺胴部(1)
その他	鉄片(現代)(2)石材(1)獣骨(3)獣骨(解体痕有)(1)獣骨(1)焼骨(1)海産巻貝(1)海産二枚貝(2)焼土(3)

B1・C1グリッド間畦 4 層

グスク土器	胴部(1)
青磁	碗口縁(外反・玉縁)(1)胴部(2)
青花(染付)中国	碗口縁(口壳)(1)
その他	獣骨(1)海産巻貝(28)焼土(2)

B1・C1グリッド間畦 5 層

グスク土器	胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	小碗口縁(褐×灰)(1)
その他	獣骨(1)獣骨(小型)(7)獣骨(1)焼土(9)

B1・C1グリッド間畦 7層

グスク土器	胴部(9)朱塗胴部(3)
その他	獣骨(1)焼土(5)

B1・C1グリッド間畦 8層

グスク土器	胴部(1)
その他	焼土(1)

B1・C1グリッド間畦 8a層

グスク土器	鉢形口縁(IV)(1) 鉢形口縁(Ⅰ)(1) 胴部(25) 底部(1)
カムイヤキ	胴部(2)
青磁	胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1) 壺底部(1) 把手(1)
その他	獣骨(2) 焼土(1)

B1・C1グリッド間畦 8b層

後期?土器	胴部(1)
グスク土器	口縁(1) 胴部(9) 底部(2)
日本産陶器	碗底部(黒釉)(1)
その他	獣骨(1) 海産巻貝(1) 焼土(1)

B1・C1グリッド間畦 9b層

グスク土器	胴部(3)
白磁	碗胴部(ピロースク)(1)
その他	叢石(1)

B1・C1グリッド間畦 11層

グスク土器	胴部(4)
カムイヤキ	胴部(1)
その他	鉄片(2) 焼土(2)

B3・C3グリッド バケット痕1 覆土層

青花(染付)日本	碗:口縁(1) 胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白+透明・有文)(1)
その他	石器片(1) 赤瓦(10) 現代遺物:空缶(1) シャーペン針入れ(1) ゾウリ(1) プラスチック片(2) プラスチック製品(1)

B3・C3グリッド バケット痕2 覆土層

グスク土器	胴部(1)
青磁	碗口縁(上田BIII or IV)(1)
青花(染付)日本	皿胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗胴部(灰)(1)
その他	焼土(1)

C1・C2グリッド間畦 2b層

青磁	碗口縁(上田DII)(1)
その他	魚骨(下顎)(1) 海産巻貝(2) 焼土(3)

C1・C2グリッド間畦 3層

青磁	碗胴部(1)
青花(染付)中国	碗口縁(1)
無釉陶器(沖縄)	赤釉胴部(1)

その他	石材(1) 獣骨(15) 獣歯(1) 海産巻貝(7) 海産二枚貝(1) 焼土(2)
-----	---

C1・C2グリッド間畦 5層

褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	焼土(3)

C2・C3グリッド間畦 2b層

グスク土器	胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	皿? 胴部(褐)(1)

3層

青磁	碗:口縁(上田CII)(1) 胴部(1) 底部(1) 底部(上田II)(1)
施釉陶器(沖縄)	碗底部(白透・有文)(2)

地山直上層

青磁	皿底部(1)
----	--------

壁掃除中 2層

青磁	碗:口縁(上田CII)(1) 胴部(2)
青花(染付)中国	碗口縁(小野B?) (1)
青花(染付)日本	碗(1) 小碗底部(1) 壺底部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(白透)(2) 底部(白透・有文)(1) 底部(褐×灰)(1) 胴部(褐×白透)(1)
無釉陶器(沖縄)	赤釉鍋胴部(1)
その他	鉄片(1)

南壁整形中層

白磁	碗口縁(玉縁)(1)
青磁	碗:口縁(上田BII)(1) 口縁(上田BIV)(1) 口縁(DII)(1) 胴部(1) 胴部(有文)(2)
青花(染付)中国	碗胴部(近世辺り?) (1)
青花(染付)日本	碗:口縁(3) 胴部(1) 底部(2)
瓦質陶器	壺頸部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(灰)(1) 底部(白透)(2) 壺:胴部(褐)(1) 胴部(鉄錆×褐)(1) 底部(褐)(1)
近現代磁器	小碗半形品(1) 胴部(1)
その他	棒状製品(1) 不明(1)

北壁整形中層

グスク土器	壺形? 胴部(1)
青磁	碗口縁(上田DII)(1)
青花(染付)日本	皿口縁(内面有文)(1)
施釉陶器(沖縄)	碗口縁(白透)(1) 壺底部(褐)(1) 鉢胴部(褐)(1)
近現代磁器	碗口縁(1)
その他	煙管吸口(陶製・白透)(1)

北壁掃除中層

グスク土器	壺形口縁(c)(1) 胴部(4) 底部(1)
カムイヤキ	壺形口縁(1) 胴部(1)
青磁	碗:口縁(上田大IV+上田E)(1) 口縁(上田E)(1) 胴部(上田II・両面有文)(1)
施釉陶器(沖縄)	碗底部(灰)(1)

無釉陶器(沖縄)	壺形胴部(3)赤物胴部(1)
その他	獣歯(1)赤瓦(2)焼土(2)

仮B1グリップ 埋没1内 覆土層

施釉陶器(沖縄)	碗:胴部(灰)(1)胴部(白透)(2)
無釉陶器(沖縄)	甕胴部(5)
近現代磁器	碗口縁(1)

B1グリップ 埋没1 覆土層

褐釉陶器	壺胴部(1)
日本産陶器	小碗(1)小鉢(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:(2)口縁(白透)(3)底部(白透)(1)
無釉陶器(沖縄)	甕:口縁(3)胴部(11)
近現代磁器	碗(4)茶碗(5)皿(6)口縁(3)急須(1)
その他	鉄鍋(2)軽石(1)獣骨(1)獣歯(1)海産巻貝(6)赤瓦(2)現代遺物(プラスチック製品)(1) ガラス製品:ランプ(2)飲料瓶(2)板ガラス(1)ピン片(1)化粧瓶(1)不明(1)

B1グリップ 埋没1 黄褐色覆土層

青花(染付)日本	碗口縁(1)
日本産陶器	小碗完形品(1)
施釉陶器(沖縄)	碗口縁(白透)(2)
無釉陶器(沖縄)	甕胴部(4)壺口縁(1)壺胴部(2)瓶子(1)
近現代磁器	碗:口縁(1)底部(1)
その他	獣歯(1)鉄製品(鉄鍋?)(1) ガラス製品:薬瓶(1)ランプ(1)瓶(1)

B1グリップ 埋没2 覆土層

施釉陶器(沖縄)	碗口縁(白透)(2)
無釉陶器(沖縄)	甕胴部(3)赤物胴部(1)
その他	獣骨(2)獣歯(2)赤瓦(2)漆喰(2)不明(アスファルトか?)(1)現代遺物(プラスチック製品)(1)

B1グリップ 埋没2

無釉陶器(沖縄)	甕胴部(2)
----------	--------

A2グリップ 南北輪溝状落ち込み まざり層

青磁	皿口縁(外反)(1)
その他	石(1)獣骨(1)獣歯(2)焼土(1)

A2グリップ SK1 1層

グスク土器	胴部(3)
その他	獣骨(2)獣歯(1)焼土(10)

A2グリップ SK1 2層

青磁	胴部(1)
その他	軽石(1)獣骨(1)海産巻貝(3)サンゴ(1)焼土(8)

A2グリップ SK1 3層

グスク土器	胴部(3)朱塗胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	獣骨(2)獣歯(1)焼土(6)炭化物(1)

A2グリップ SK1 4層

青磁	胴部(2)
褐釉陶器	胴部(1)
その他	獣骨(6)焼土(23)

B1グリップ 石組遺構 覆土層

グスク土器	胴部(1)
青磁	碗口縁(上田EⅡ)(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(灰、白透)(2)口縁(白透)(2)胴部(白透)(1)口縁(灰)(1)胴部(灰)(1)香炉?胴部(漆×褐)(1)

B1グリップ 石組遺構 1層

グスク土器	胴部(1)朱塗胴部(1)
褐釉陶器	壺:胴部(2)底部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:全体(白透)(1)口縁(白透)(15)胴部(灰)(2)胴部(褐)(1)底部(白透)(5) 壺:頸部(褐)(1)胴部(1)胴部(褐)(1)鉢(褐×白透)(1)
無釉陶器(沖縄)	荒焼水鉢口縁(1)瓶子口縁(1)瓶子胴部(2)壺胴部(2)鉢口縁(1)赤物不明胴部(4)
近現代磁器	碗(1)
その他	鉄片(1)石材(ニールビ)(1)獣骨(14)獣歯(2)魚骨(1)海産巻貝(3)海産二枚貝(2)焼土(4)サンゴ(4)炭化物(2)ガラス片(2)

B1グリップ 石組遺構 2層

グスク土器	胴部(2)
褐釉陶器	壺胴部(1)
黒釉陶器	壺胴部(東南アジア産)(1)
その他	獣骨(3)焼土(5)炭化物(1)

B1グリップ P2 覆土層

グスク土器	胴部(6)朱塗胴部(1)
青磁	胴部(1)
青花(染付)中国	碗口縁(1)
その他	石材(1)獣骨(4)獣歯(2)炭化物(1)

B1グリップ P30 覆土層

グスク土器	胴部(3)
その他	石材(2)獣骨(4)海産巻貝(10)焼土(3)

B2グリップ 東側溝状落ち込み まざり層

グスク土器	胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	瓶子:口縁(1)胴部(1)
その他	鉄片(1)獣骨(3)焼土(4)

B2グリップ 東西輪溝状落ち込み まざり層

グスク土器	胴部(2)
青磁	胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	獣骨(1)焼土(6)

B2グリッド 南北輪溝状落ち込み まざり 層

その他	獣骨(4) 獣歯(1) 魚骨(1) 赤瓦(1) 焼土(10) 炭化物(1)
-----	---------------------------------------

B2グリッド P7 暗灰黄色覆土 層

褐釉陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗胴部(灰)(1)
その他	獣骨(1) 焼土(1)

B2グリッド P8 覆土 層

褐釉陶器	壺底部(1)
その他	獣骨(2) 海産二枚貝(1) サンゴ(1) 焼土(3)

B2グリッド P36 1 層

その他	焼土(3)
-----	-------

B2グリッド P36 3 層

グスク土器	胴部(1)
その他	焼土(13) 炭化物(3)

B2グリッド P23 覆土 層

グスク土器	胴部(3) 朱塗胴部(1)
青磁	胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(2)
その他	獣骨(9) 海産巻貝(1) 焼土(2)

B2グリッド P24 覆土 層

グスク土器	胴部(2) 朱塗胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗胴部(灰)(2) 壺胴部(褐)(1)
無釉陶器(沖縄)	胴部(2)
その他	青銅製品(現代?) (1) 海産二枚貝(1) 焼土(5) 炭化物(1)

B2グリッド P25 覆土 層

グスク土器	胴部(1)
その他	海産二枚貝(1)

B2グリッド P26 覆土 層

褐釉陶器	壺胴部(1)
無釉陶器(沖縄)	壺(1)
その他	獣骨(1) 焼土(1)

B2グリッド P27 覆土 層

施釉陶器(沖縄)	碗口縁(灰)(1) 碗底部(灰)(1) 皿口縁(褐)(1) 鉢口縁(褐)(1)
その他	焼土(6) 炭化物(1)

C1グリッド P1 覆土 層

グスク土器	胴部(1)
青磁	碗口縁(上田DII)(1)
その他	獣骨(4) 焼土(2)

C1グリッド P1 黄灰色 層

グスク土器	胴部(1)
カムイヤキ	胴部(1)
その他	獣骨(3) 焼土(3) 炭化物(1)

C1グリッド P6 覆土 層

グスク土器	胴部(1)
その他	炭化物(1)

C1グリッド P3 芯心覆土 層

白磁	胴部(1)
青磁	胴部(1)
その他	軽石(焼)(1) 獣骨(4)

C1グリッド P3 覆土 層

グスク土器	朱塗胴部(1)
青磁	碗底部(1)
施釉陶器(沖縄)	胴部(褐)(1)
無釉陶器(沖縄)	壺胴部(1)
その他	獣骨(5) 焼土(6) 炭化物(2) サンゴ(1)

C1グリッド P4 覆土 層

グスク土器	胴部(2)
その他	獣焼骨(3) 魚骨(1) 焼土(5)

C1グリッド P5 覆土 層

グスク土器	胴部(4) 朱塗胴部(1) 底部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗底部(灰)(1) 不明胴部(1)
無釉陶器(沖縄)	赤物口縁(1)
その他	獣骨(1) 海産巻貝(1) 焼土(1)

C2グリッド P32 黒褐色土 層

グスク土器	胴部(10)
その他	獣骨(2) 焼土(2)

C2グリッド P33 黒褐色土 層

グスク土器	胴部(2)
その他	焼土(4)

C2グリッド P34 暗灰黄色土 層

その他	焼土(1)
-----	-------

C2グリッド P14 覆土 層

グスク土器	胴部(1)
その他	獣骨(1) 焼土(3)

C2グリッド P15 覆土 層

施釉陶器(沖縄)	碗胴部(白透)(1)
無釉陶器(沖縄)	胴部(1)
その他	海産巻貝(1) 焼土(8) 泥岩(1)

C2グリッド P16 覆土 層

その他	焼土(6) 炭化物(1)
-----	--------------

C2グリッド P17 覆土 層

白磁	皿胴部(森田C)(1)
青花(染付)中国	碗口縁(1)
その他	鉄片(2) 石材(2) 獣骨(9) 獣焼骨(2) 焼土(12) 焼土(98) 炭化物(1)

C2グッド P18 覆土層

その他	海産巻貝(5)焼土(5)
-----	--------------

C2グッド P19 覆土層

グスク土器	胴部(1)
その他	石材(1)軽石(焼)(1)獣骨(5)獣焼骨(1) 海産巻貝(4)海産二枚貝(2)焼土(1)

C2グッド P20 覆土層

青花(染付)中国	皿胴部(1)
褐釉陶器	壺胴部(1)
その他	焼土(4)

1984(昭和59)年度 試掘調査遺物点数表

A1 1層

陶器	胴部(1)
その他	海産二枚貝(9)海産巻貝(13)サンゴ(7)

A1 2層

施釉陶器(沖縄)	小碗口縁(1)
その他	海産二枚貝(46)海産巻貝(28)

A1 3層

その他	海産巻貝(3)
-----	---------

F3 1層

青磁	碗胴部(2)袋物胴部(1)
青花(染付)	口縁(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(3)胴部(2)底部(1) 鉢胴部(1)
無釉陶器(沖縄)	壺胴部(2)赤物不明(4)
近現代磁器	皿口縁(1)胴部(3)
その他	海産二枚貝(11)海産巻貝(22)海産貝破片(12)赤瓦(2)焼土(2)不明(1)

G1 1層

グスク土器	胴部(1)
無釉陶器(沖縄)	壺胴部(1)赤物不明(1)
近現代磁器	碗口縁(1)
その他	海産二枚貝(3)海産巻貝(1)赤瓦(2)

I4 1層

グスク土器	底部(1)
白磁	碗胴部(森D)(1)
青磁	碗:口縁(3)胴部(2) 皿口縁(2)小片(3)
青花(染付)中国	碗口縁(3)
褐釉陶器	壺:頸部(1)胴部(2)
施釉陶器(沖縄)	碗胴部(1)鉢胴部(2)壺底部(1)
無釉陶器(沖縄)	壺:口縁(1)頸部(1)胴部(13) 赤物急須:口縁(1)胴部(1) 香炉口縁(1)水鉢口縁(1)
近現代磁器	碗:口縁(3)胴部(4)底部(1) 皿:口縁(2)底部(1) 袋物(1)

その他	獣骨(10)獣歯(2)海産二枚貝(1)海産巻貝(99)跡産巻貝(1)石(1)
-----	--

J1 1層

グスク土器	胴部(3)小片(31)
カムイヤキ	壺:口縁(1)胴部(1)
青磁	碗底部(1)小片(2)
陶器	胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗:口縁(1)胴部(1)底部(1) 急須口縁(1)壺胴部(1)
無釉陶器(沖縄)	壺:口縁(2)頸部(2)頸部~胴部(1)胴部(41)底部(3)耳(1) 赤物不明(2)
近現代磁器	碗口縁~底部(1) 湯飲:口縁~底部(1)口縁(1) 小杯底部(1)
その他	鉄片(4)獣骨(17)獣歯(4)魚骨(1)赤瓦(44)刀子(1)焼土(11)

J1 2層

グスク土器	口縁(2)胴部(8)底部(1)小片(11)
青花(染付)中国	碗底部(1)
陶器	壺胴部(1)
施釉陶器(沖縄)	碗胴部(1)
無釉陶器(沖縄)	赤物胴部(2)
その他	石(1)獣骨(18)獣骨上顎(1)獣骨下顎(1)獣骨(13)獣骨小片(16)焼土(16)

J6 1層

グスク土器	胴部(30)小片(24)壺口縁(1)
カムイヤキ	壺胴部(2)
白磁	碗:口縁(1)
青磁	碗:口縁(2)胴部(6) 盤口縁(1)小片(1)
青花(染付)中国	碗底部(1)
褐釉陶器	壺:口縁(1)胴部(8)
陶器	壺胴部(6)小片(2)
施釉陶器(沖縄)	碗:胴部(1)底部(1)
無釉陶器(沖縄)	播鉢口縁(1)壺底部(1)
その他	鉄片(2)釘(1)獣骨(5)獣歯(3)海産二枚貝(1)焼土(31)

J6 2層

グスク土器	胴部(5)
青磁	碗口縁~底部(1)胴部(1)
陶器	壺胴部(2)
その他	獣骨(1)海産二枚貝(2)海産巻貝(1)

J6 3層

グスク土器	胴部(2)小片(5)
陶器	胴部(1)
その他	獣骨小片(25)焼土(2)不明(2)

圖 版



図版1. 着手前現況(南西側より)



図版2. 着手前現況(北西側より)



図版3. サブトレンチ設置状況(南西側より)



図版4. サブトレンチ掘下げ後状況(北西側より)



図版5. B1グリッド5層発出土状況(一部攪乱)(北西側より)



図版6. C1グリッド5層発出土状況(南西側より)



図版7. C1グリッド8層遺物出土状況(南西側より)



図版8. A2グリッドSK1完掘状況(北側より)



図版9. C2グリットP32・P33完蓋状況(南側より)



図版10. C2グリットP34完蓋状況(西側より)



図版11. C2グリットP21(左)・B2グリットP35(右)完蓋状況(北西側より)



図版12. B2グリットP36(左)・P37(右)完蓋状況(東側より)



図版13. B1グリッド埋葬遺構1検出状況(南東側より)



図版14. B1グリッド埋葬遺構1妻取り上げ後状況(北東側より)



図版15. B1グリッド埋葬遺構1断面状況(北側より)



図版16. B1グリッド埋葬遺構2検出状況(東側より)



図版17. B1・C1グリッド埋蔵遺構2半蔵状況(裏側より)



図版18. B1・C1グリッド石組遺構、C1グリッドP1検出状況(北側より)



図版19. B1・C1グリッド石組外し後状況(南側より)



図版20. B1・C1グリッド石組遺構、C1グリッドP1発掘状況(南西側より)



図版21. B2グリッド溝状落ち込みセグジョン(北側より)



図版22. C1グリッドP3完掘状況(北側より)



図版23. C1グリッドP4完掘状況(西側より)



図版24. C1グリッドP5完掘状況(西側より)



図版25 B2グリットP77完器状況(北西側より)



図版26 B2グリットP68完器状況(北東側より)



図版27 B2グリットP99完器状況(北東側より)



図版28 B2グリットP27完器状況(南側より)



図版29. B1-C1グリッドの階抜出状況(北側より)



図版30. 冠水及び水抜き状況①



図版31. 冠水及び水抜き状況②



図版32. 西壁セクション①(東側より)



図版33. 西壁セクション②(東側より)



図版34. 西壁セクション③(北東側より)



図版35. 北壁セクション①(南側より)



図版36. 北壁セクション②(南側より)



図版37. 北壁セクション③(南壁より)



図版38. B1・C1間趾セクション①(南側より)



図版39. B1・C1間趾セクション②(南側より)



図版40. B1・C1間趾セクション③(南側より)



図版41. 完掘状況①(北側より)



図版42. 完掘状況②(北東側より)



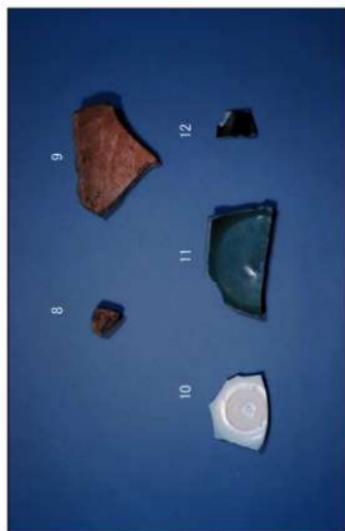
図版43. H26試掘調査出土遺物表



図版44. H26試掘調査出土遺物表



圖版45. 出土遺物(7層)表



圖版46. 出土遺物(7層)裏



圖版47. 出土遺物(8層)①表



圖版48. 出土遺物(8層)①裏



圖版49. 出土遺物(8層)②表



圖版50. 出土遺物(8層)②裏



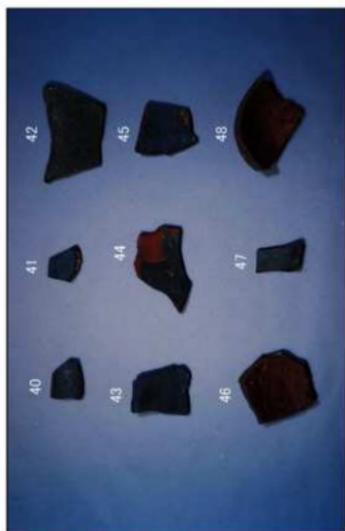
圖版51. 出土遺物(8層)③表



圖版52. 出土遺物(8層)③裏



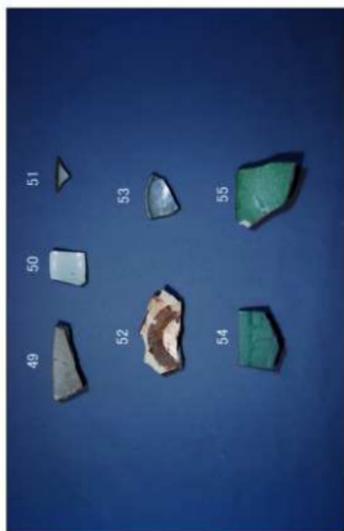
圖版53 出土遺物(8層)④表



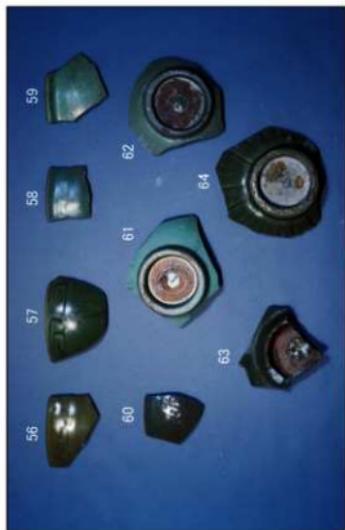
圖版54 出土遺物(8層)④裏



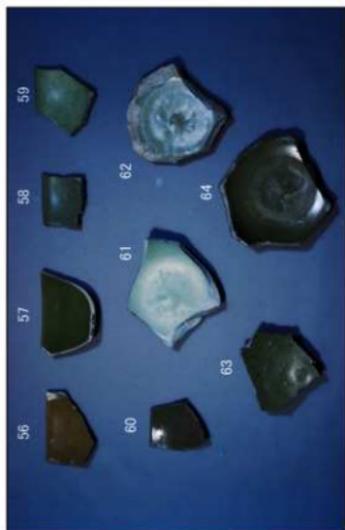
圖版55 出土遺物(8層)⑤表



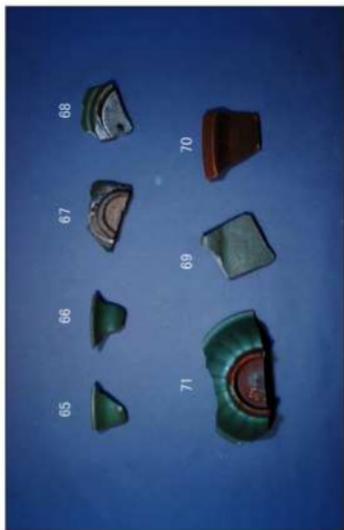
圖版56 出土遺物(8層)⑤裏



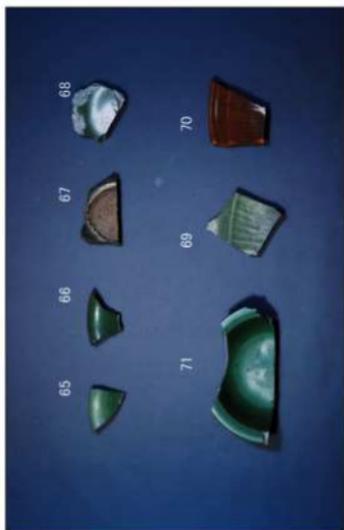
图版57. 出土遗物(8层)⑥表



图版58. 出土遗物(8层)⑥裏



图版59. 出土遗物(8层)⑦表



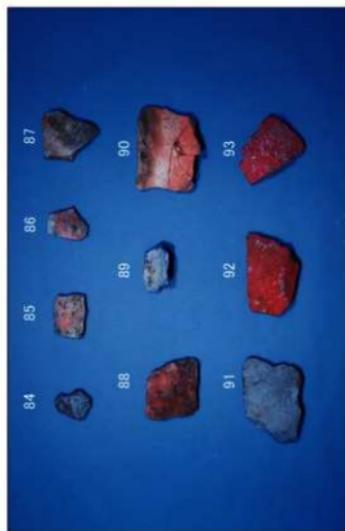
图版60. 出土遗物(8层)⑦裏



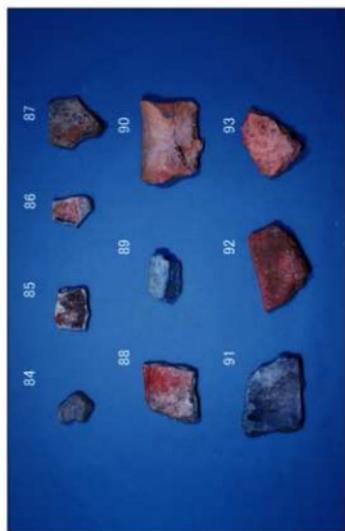
圖版61. 出土遺物(8層)⑧表



圖版62. 出土遺物(8層)⑧裏



圖版63. 出土遺物(9層)①表



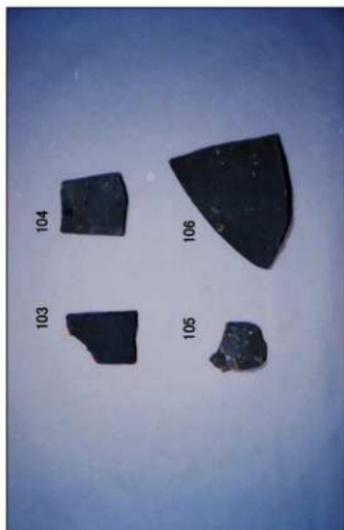
圖版64. 出土遺物(9層)①裏



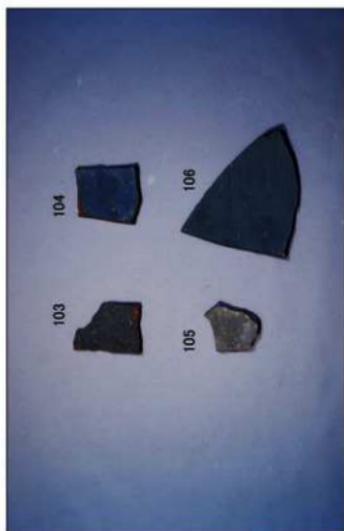
圖版65. 出土遺物(9層)②表



圖版66. 出土遺物(9層)②裏



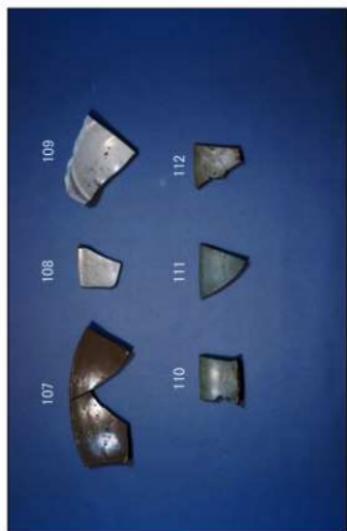
圖版67. 出土遺物(9層)③表



圖版68. 出土遺物(9層)③裏



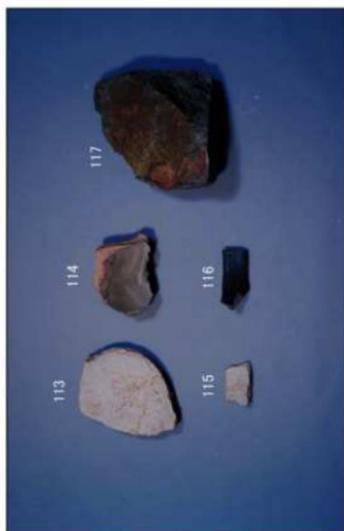
图版69. 出土遗物(9层)④表



图版70. 出土遗物(9层)④裏



图版71. 出土遗物(9层)⑤表



图版72. 出土遗物(9层)⑤裏



圖版73. 出土遺物(9層)⑥表



圖版74. 出土遺物(9層)⑥裏



圖版75. 出土遺物(10層)①表



圖版76. 出土遺物(10層)①裏



圖版77. 出土遺物(10層)②表



圖版78. 出土遺物(10層)②裏



圖版79. 出土遺物(11・12・地山直上層)裏



圖版80. 出土遺物(11・12・地山直上層)裏



圖版81. 出土遺物(埋藏遺構1)①表



圖版82. 出土遺物(埋藏遺構1)①裏



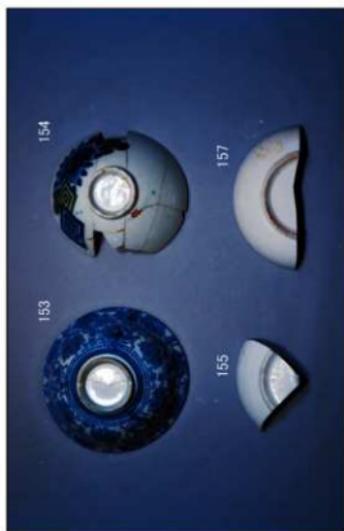
圖版83. 出土遺物(埋藏遺構1)②表



圖版84. 出土遺物(埋藏遺構1)②裏



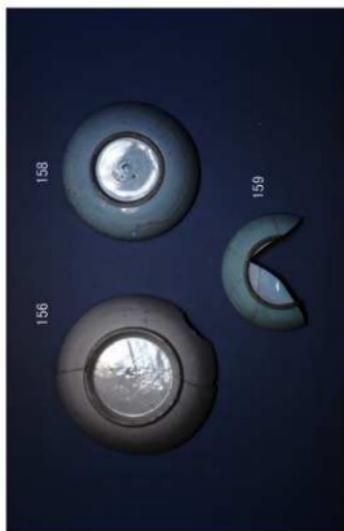
圖版85. 出土遺物(埋葬遺構1)③ 甕



圖版86. 出土遺物(埋葬遺構1)④ 表



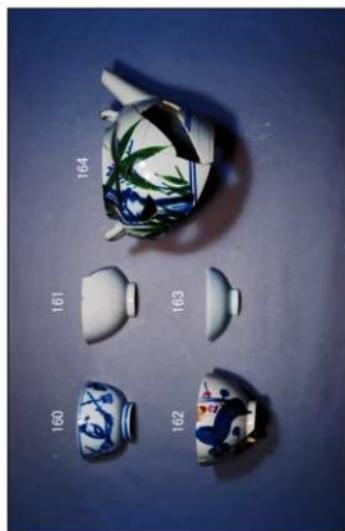
圖版87. 出土遺物(埋葬遺構1)④ 裏



圖版88. 出土遺物(埋葬遺構1)⑤ 表



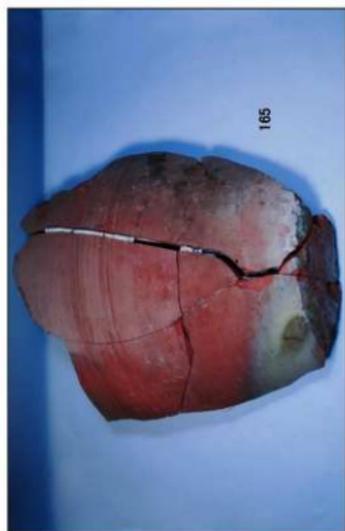
圖版89. 出土遺物(埋藏遺構1)⑤ 裏



圖版90. 出土遺物(埋藏遺構1)⑥ 表



圖版91. 出土遺物(埋藏遺構1)⑥ 裏



圖版92. 出土遺物(埋藏遺構2) 裏



圖版93. 出土遺物(埋葬遺構2)表



圖版94. 出土遺物(石組遺構)①裏



圖版95. 出土遺物(石組遺構)①裏



圖版96. 出土遺物(石組遺構)②裏



圖版97. 出土遺物(石組遺構)② 裏



圖版98. 出土遺物(小穴)① 裏



圖版99. 出土遺物(小穴)① 裏



圖版100. 出土遺物(小穴)② 裏



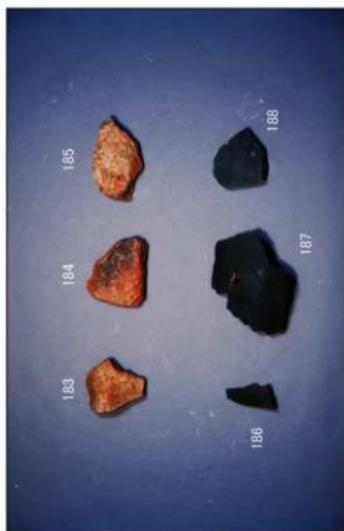
圖版101. 出土遺物(小穴)②裏



圖版102. 出土遺物(2層)①裏



圖版103. 出土遺物出土遺物(2層)①裏



圖版104. 出土遺物(2層)②裏



圖版105. 出土遺物(2層)②裏



圖版106. 出土遺物(2層)③裏



圖版107. 出土遺物(2層)③裏



圖版108. 出土遺物(2層)④裏



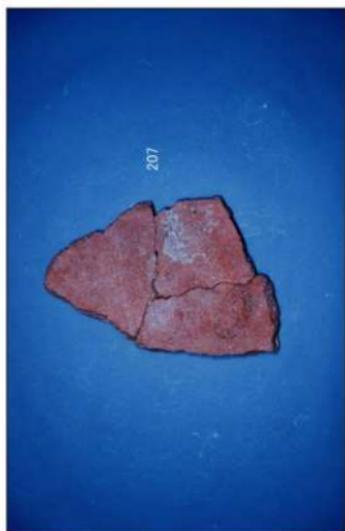
圖版109. 出土遺物(2層)④裏



圖版110. 出土遺物(2層)⑤裏



圖版111. 出土遺物(2層)⑤裏



圖版112. 出土遺物(2層)⑤底面



圖版113. 出土遺物(2層)⑤ 通風調節口



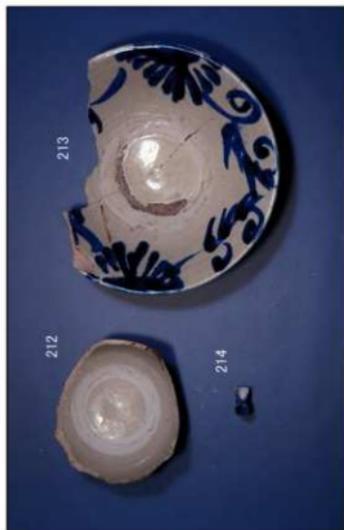
圖版114. 出土遺物(2層)⑥ 表



圖版115. 出土遺物(2層)⑥ 裏



圖版116. 出土遺物(2層)⑦ 表



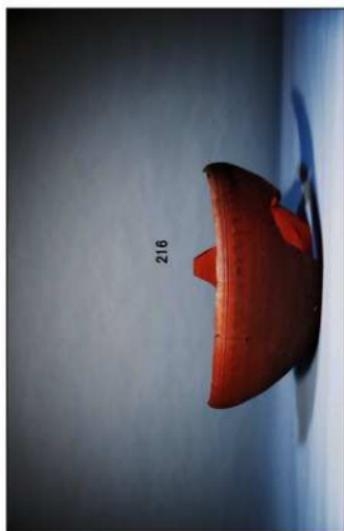
図版117. 出土遺物(2層)⑦裏



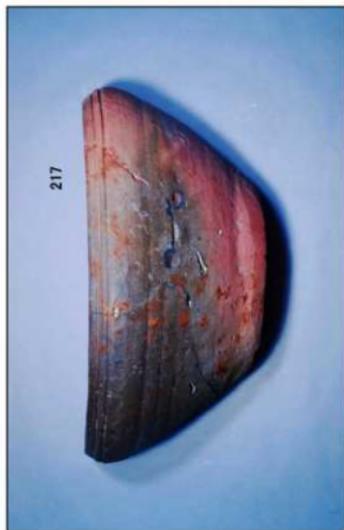
図版118. 出土遺物(2層)⑧表



図版119. 出土遺物(2層)⑧表



図版120. 出土遺物(2層)⑨裏



圖版121. 出土遺物(2層)㉑ 表



圖版122. 出土遺物(2層)㉑ 裏



圖版123. 出土遺物(2層)㉑ 表



圖版124. 出土遺物(2層)㉑ 裏



圖版125. 出土遺物(2層)⑮表



圖版126. 出土遺物(2層)⑯裏



圖版127. 出土遺物(3-4層)裏



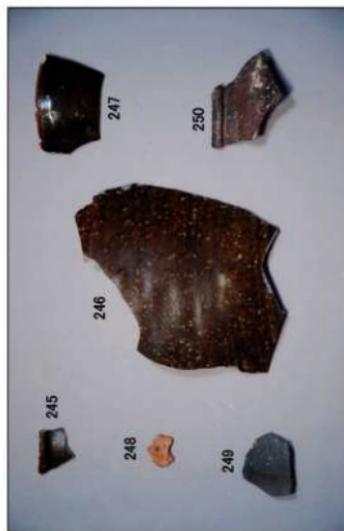
圖版128. 出土遺物(3-4層)裏



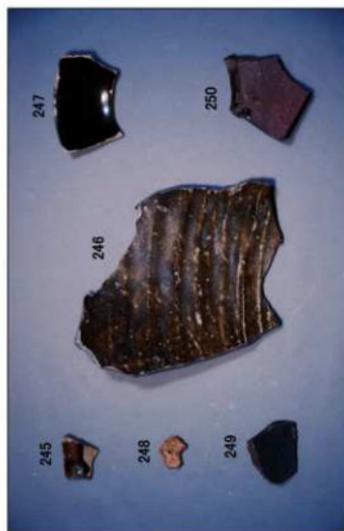
圖版129. 出土遺物(5-6層)①表



圖版130. 出土遺物(5-6層)①裏



圖版131. 出土遺物(5-6層)②表



圖版132. 出土遺物(5-6層)②裏



図版133. 出土遺物(その他)①表



図版134. 出土遺物(その他)①裏



図版135. 出土遺物(その他)②表



図版136. 出土遺物(その他)②裏



圖版137. S59試掘調査 出土遺物①表



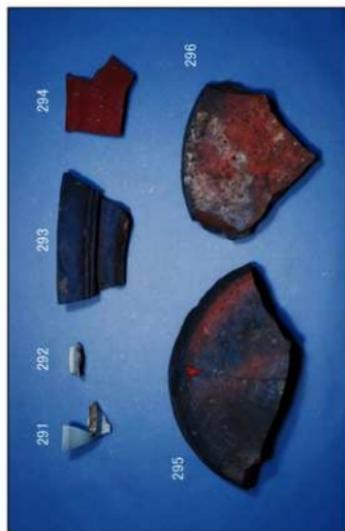
圖版138. S59試掘調査 出土遺物①裏



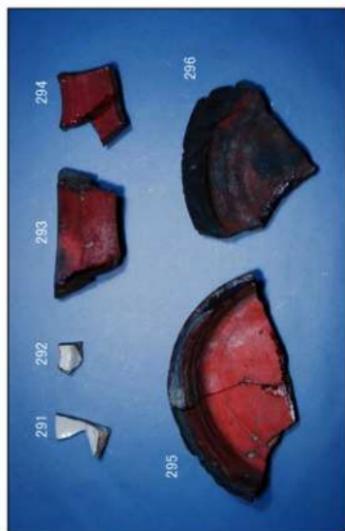
圖版139. S59試掘調査 出土遺物②表



圖版140. S59試掘調査 出土遺物②裏



圖版141. S59試掘調査 出土遺物③表



圖版142. S59試掘調査 出土遺物③裏



圖版143. S59試掘調査 出土遺物④表



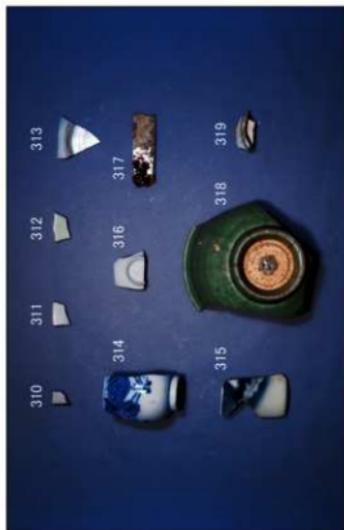
圖版144. S59試掘調査 出土遺物④裏



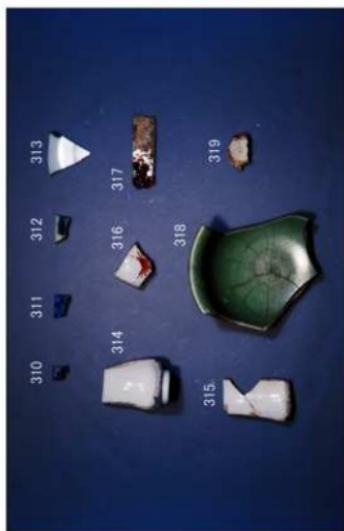
圖版145. S59試掘調查 出土遺物⑤表



圖版146. S59試掘調查 出土遺物⑤裏



圖版147. S59試掘調查 出土遺物⑥表



圖版148. S59試掘調查 出土遺物⑥裏



図版149. 動物遺体1 イノシシ類 約2/3

1.頭蓋骨 2~4.下顎骨 5.肩甲骨 6.上腕骨 7.橈骨 8.大腿骨 9.脛骨 10.距骨
3・4・7~9は左側、2・5・6・10は右側。



図版150. 動物遺体2 ウシ・ウマ・ヤギ 約2/3

1.ヤギ肩甲骨 2.ウマ上顎第3後臼歯 3~6.ウシ(3.下顎骨 4.橈骨 5.中手骨 6.中足骨)
1は左側、2~6は右側。

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはつくつちようさほうこくしよ							
書名	市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	一屋比久グスク							
巻次	IV							
シリーズ名	沖縄県南城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	津波陽子、山里昌次、新美倫子							
編集機関	沖縄県南城市教育委員会 文化課							
所在地	〒901-1495 沖縄県南城市佐敷字新里 1870							
発行年月日	西暦 2019 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
屋比久グスク	南城市 佐敷字 屋比久 12番	472158		26° 00' 04"	127° 30' 00"	平成 27 年 9 月 24 日 ～ 平成 28 年 3 月 17 日	約 293.42 ㎡	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
屋比久グスク	遺跡	グスク時代 近世	埋甕遺構 石組遺構 小穴など		カムイヤキ グスク土器 中国産陶磁器など			
要約	<p>調査は、個人住宅建築に係る緊急発掘調査である。</p> <p>調査区の中央から東側は近現代に削平されており、西側にのみ往時の遺物包含層が残存している。グスク時代の遺構と考えられる小穴や土壇、近世～近現代の遺構と考えられる埋甕遺構や石組遺構、溝状落ち込み、小穴などを検出した。さらに、調査区中央から西側へ急に落ち込む状況が確認でき、地形的な状況から、グスク時代の切岸であると想定する。また、調査区西側では、焼土や炭を含む層を交互に重ねた造成の後が確認され、耕作地を設けていた可能性が考えられる。</p> <p>遺物は、グスク時代相当期の層よりカムイヤキ、グスク土器、13～15世紀代の中国産陶磁器、沖縄産陶器、獣骨等が出土した。</p> <p>結果として、当該地はグスク時代から現代まで連続と利用されていたことが確認された。</p>							

沖縄県南城市文化財調査報告書第20集

市内遺跡発掘調査報告書Ⅳ

— 屋比久グスク —

発行日 2019(平成31)年3月

発行 沖縄県南城市教育委員会

〒901-1495 沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
TEL (098)917-5374

印刷 光文堂コミュニケーションズ株式会社

〒901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城577番地
TEL (098)889-1131

